

第3次 色麻町スポーツ推進計画 令和5年度～令和9年度



宮城県色麻町
令和5年3月

～ はじめに ～

新型コロナウイルスが世界規模で猛威を振るい、我々の生活環境は大きく変化しました。本町においても令和2年からこれまでの間、「町民大運動会」をはじめとする各種行事が中止せざるを得ない状況となりました。

色麻町スポーツ推進計画は、平成25年3月に第1次色麻町スポーツ推進計画を策定後、平成30年3月に第2次計画を策定し、5年毎に見直しを行ってまいりました。令和4年度は第2次計画から5年が経過する年となるため、「町スポーツ推進計画策定委員会」を設置し、第3次計画を策定するため議論を重ねてまいりました。今回の策定委員会では、学識経験者として地域の生涯スポーツ振興等について研究している仙台大学体育・スポーツ経営学研究室の教授を委員として委嘱し、新たな視点から本町のスポーツ振興に対して多くの助言をいただきました。

第3次計画では国、県のスポーツ推進計画を踏まえながら、町の教育基本方針にある「色麻の文化の創造と活力あるスポーツの展開」を基本理念とし、「生涯スポーツの普及」、「生涯スポーツ組織及び指導体制の整備」、「生涯スポーツ環境の整備」の3つを指針とし、町民すべてが生涯を通じてスポーツに親しみ、健康な生活を送ることができるよう策定いたしました。

また、今回は日頃の運動やスポーツの実施状況について、無作為に抽出した町民の方々を対象にアンケート調査を実施しました。回答を分析していく中で新たな課題も見えてきており、今後のスポーツ振興・発展に大変参考になる統計データが出来たのではないかと思います。

最後になりますが、本計画を策定するにあたり、ご協力いただきました色麻町スポーツ推進計画策定委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただいた町民の皆様から感謝を申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

色麻町教育委員会
教育長 半田宏史

～ 目 次 ～

第1章 総論	1
1 第3次色麻町スポーツ推進計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	2
第2章 色麻町のスポーツ活動の現状と課題	3
1 市民の運動やスポーツに関する実態	3
2 子どもたちのスポーツ活動の現状と課題	15
3 成人のスポーツ活動の現状と課題	17
4 障がい者や高齢者のスポーツ活動の現状と課題	18
第3章 基本計画	19
1 基本体系	19
2 基本計画	20
1. 生涯スポーツの普及（きっかけづくり）	20
2. 生涯スポーツ組織及び指導体制の整備（ひと・組織づくり）	22
3. 生涯スポーツ環境の整備（環境づくり）	24
資料編	
1 色麻町スポーツ推進計画策定委員会設置要綱	27
2 第3次色麻町スポーツ推進計画策定委員会委員名簿	28
3 スポーツや運動に関するアンケート調査結果報告書	29

第1章 総論

1 第3次色麻町スポーツ推進計画策定の趣旨

わが国は国民の4人に1人が高齢者（65歳以上）という超高齢社会を迎えました。

平成28年に策定された「色麻町人口ビジョン」によれば、「年少人口および生産年齢人口は総人口の推移に合わせて共に年々減少傾向であり、今後も減少を続けると推計されている。老年人口は平成7年に年少人口を上回り、令和7年までは増加傾向を続けるが、それ以降は緩やかに減少を続け、生産年齢人口との差がほぼなくなるものと推計される。」としています。

こうした急速な高齢化と少子化が進行しているなかで、スポーツにおける施策もこれらの状況に合致したものが求められています。

具体的には、少子化によって、チームとして活動のできないスポーツ少年団やクラブ活動が増加し、さらに成人では町内行政区でチーム編成ができない競技なども目立ってきました。また、高齢者が健康づくりや生きがいのために行うスポーツでは、スポーツをする高齢者としない高齢者が両極化しています。子どもから、大人までスポーツをやりたくてもできない状況でもあるため、町や行政区の圏域を越えたスポーツの普及・振興を図る必要があります。

さらに、少子高齢化によるスポーツ離れに拍車をかけるように新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、スポーツを実施する機会が失われたことにより、スポーツへの関心がさらに薄れていくことが懸念されます。

スポーツの持つ力は競技としての側面だけでなく、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりやレクリエーション等多種多様であり、地域の活性化に大きく寄与するものです。

以上のことから、スポーツの意義を明確にし、その振興のための施策を計画的に進めることを目的とした「第2次色麻町スポーツ推進計画」を受けての、新たな状況を反映した「第3次色麻町スポーツ推進計画」を策定するものです。

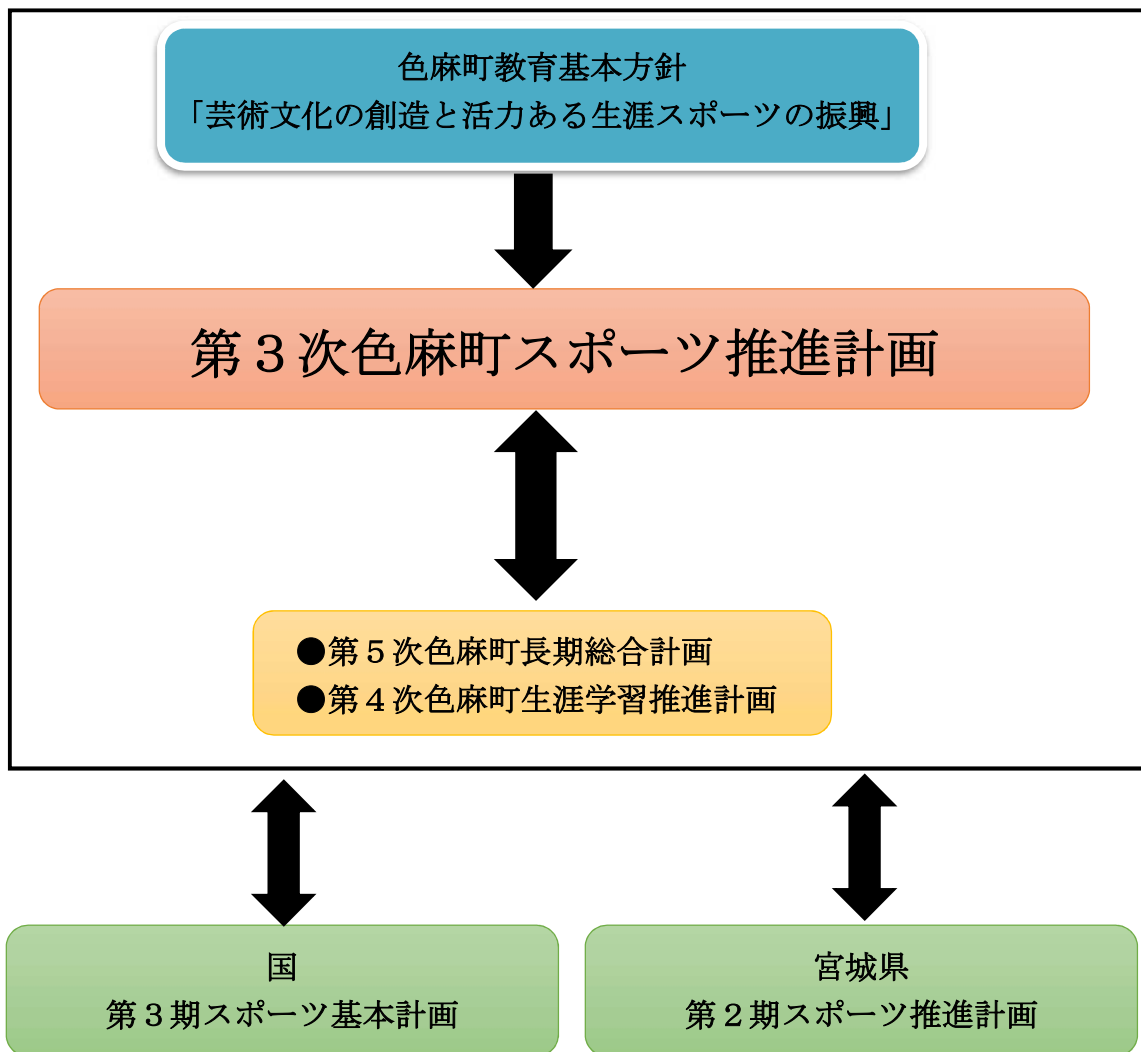
2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条に基づき、国の「第3期スポーツ基本計画」を参酌して策定する「地方スポーツ推進計画」として位置づけます。

また、町政運営の指針である「第5次色麻町長期総合計画」及び「第4次色麻町生涯学習推進計画」のスポーツ分野を実現させるため、色麻町教育基本方針である「芸術文化の創造と活力ある生涯スポーツの振興」を基本理念としたスポーツ振興を推進していくうえでの指針となる計画です。

3 計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5カ年間とします。



第2章 色麻町のスポーツ活動の現状と課題

1 町民の運動やスポーツに関する実態

―第3次色麻町スポーツ推進計画策定に関するアンケート調査結果―

令和4年7月1日から15日までの期間、色麻町に居住する18歳から79歳まで710人（令和4年6月末現在の18歳から79歳の町民4,681名の約15%）を調査対象者としてアンケート調査を実施しました。

また、回答については新型コロナウイルス感染症流行前（令和元年度以前）の状況で調査を実施しました。

調査対象者を「18・19歳」「20歳代」「30歳代」「40歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳代」の年代毎に100人ずつ、計700人（男女ほぼ半数）を抽出し、町スポーツ推進委員10人の協力をいただきました。調査対象者数710人、回収数310人（内有効回答数302人）、回収率43.6%となりました。

返送されたアンケート調査を色麻町社会教育課で集計後、仙台大学に送付し分析を行いました。アンケート結果については、別紙の調査報告書を参照することとし、仙台大学（体育・スポーツ経営学研究室）から出された下記の補足資料を基に、現状と課題を整理しました。

※【比較のデータの出典等】

全 国：第3期スポーツ基本計画参考データ集

＜スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」等＞

宮城県：令和3年度スポーツに関する県民アンケート結果報告書

1. 健康・体力に関する意識について

（1）現在の健康状態

自身の健康状態について	色麻町 (R4)				全国 (R3)			宮城県 (R3)
	男性(%)	女性(%)	全体(%)		男性(%)	女性(%)	全体(%)	全体(%)
とても健康である	20.4	20.8	20.9	<	33.8	31.3	32.5	30.1
まあまあ健康である	62.0	61.6	62.3	>	46.5	49.9	48.2	52.6
あまり健康ではない	16.9	14.5	15.2		12.1	11.9	12.0	11.1
健康ではない	0.7	3.1	1.6					4.4

①＜全国＞や＜宮城県＞と比較すると、「とても健康」と認識している者の割合が10ポイントほど低い。

②色麻町調査報告書（以下、＜色麻町調査＞）の通り、男性40・60代と女性60代の不健康感が強いことに注視する必要がある。

(2) 健康に関して心掛けていること

健康に関して心掛けていること〈複数回答〉					
		色麻町 (R4)			宮城県 (R3)
		男性(%)	女性(%)	全体(%)	全体(%)
1	食生活に気をつける	53.1		55.3	50.3
2	睡眠や休養をよくとる	46.2	<	58.5	57.2
3	規則正しい生活をする	24.5	<	42.1	46.0
4	日常生活の中で、身体活動を増やす	27.3		26.8	31.9
5	スポーツや運動をする	28.0	>	15.1	
6	酒を控える	20.3	>	9.4	15.6
7	禁煙、もしくはたばこを控える	8.9		10.1	14.2
8	その他	1.4		1.3	1.7

①女性の日頃の生活の中で健康の保持増進に努めようとしている傾向にあるのに対し、男性はそれらと共に「スポーツや運動」によっても健康であることに努めようとしている。

2. スポーツや運動について

(1) スポーツや運動に対する意識

スポーツや運動がもたらす効果〈複数回答〉					
		色麻町 (R4)			
		男性(%)	女性(%)	全体(%)	
1	健康の維持増進	75.5	>	66.0	76.4
2	体力の維持向上	69.2	>	64.2	72.1
3	ストレス解消	54.5		53.5	58.8
4	生活習慣病予防	29.4	<	35.2	35.5
5	仲間(友人)ができる	36.4	>	31.4	33.6
6	地域の絆やコミュニティの活性化	23.1	>	17.0	21.9
7	生きがいづくり	21.0		16.4	21.6
8	忍耐力の向上	18.9	>	12.6	16.3
9	意欲の向上	14.7		12.6	14.0
10	フェアプレー、チームワーク精神の向上	16.1	>	8.2	13.6

①「生活習慣病予防」以外の項目において、女性よりは男性の方がスポーツや運動の効果を認識する傾向がうかがえることから、特に女性に対するスポーツや運動の啓発が更に必要といえる。

(2) スポーツや運動の実施状況

スポーツや運動を行っている回(日)数							
	色麻町 (R4)			全国 (R3)			宮城県 (R3)
	男性(%)	女性(%)	全体(%)	男性(%)	女性(%)	全体(%)	全体(%)
週に3回以上	19.6	21.9	20.5	58.3	54.1	30.9	27.1
週に1~2回	30.1	21.3	26.8			29.0	12.7
月に1~2回	9.8	9.4	8.9				2.9
年に5~6回	6.3	2.5	4.3				0.4
年に1~2回	7.0	5.6	5.6				0.2
行っていない	27.3	39.4	33.8			18.0	55.6

- ①<全国>との比較では、「行っていない」割合が10ポイント以上高く、その分週1回以上の運動等の実施頻度が10ポイント以上低いことがわかる。男女別でも女性が男性よりも非実施者数の割合が10ポイント以上多いことから、まずは女性に対する何らかの機会の提供が必要と考える。

スポーツや運動の実施状況<年代別>				
	色麻町 (R4)		全国 (R3)	宮城県 (R3)
10代			59.3	
男性	80.0	>	62.5	33.3
女性	66.7	>	55.7	30.8
20代			53.5	
男性	86.4	>	57.6	58.7
女性	52.4		49.3	32.7
30代			50.7	
男性	69.2	>	55.4	59.5
女性	60.9	>	45.7	31.4
40代			51.0	
男性	85.7	>	52.8	42.4
女性	58.3		49.1	30.7
50代			51.7	
男性	62.5		52.8	54.5
女性	65.2	>	50.4	54.9
60代			59.6	
男性	51.9		60.1	45.2
女性	65.5		59.1	36.7
70代			71.7	
男性	82.1		72.3	64.1
女性	59.3	<	71.2	50.0

- ②運動やスポーツをしたのかしなかったかの実施率だけを見ると、ほぼすべての年代・性別で<全国>や<宮城県>を上回っていることがわかる。<全国>との比較では、60代男性と70代女性で下回っている。

(3) スポーツや運動の実施場所

スポーツや運動を主にしている場所〈複数回答〉					
		色麻町 (R4)			全国 (R3)
		男性 (%)	女性 (%)	全体 (%)	全体 (%)
1	自宅	31.4	51.7	39.5	32.8
2	道路・遊歩道	37.3	40.4	36.5	< 48.0
3	公共のスポーツ施設	30.4	15.7	25.0	> 15.6
4	公園・広場	14.7	13.5	14.5	< 25.7
5	学校のスポーツ・運動施設	14.7	11.2	13.5	> 4.3
6	民間のスポーツ施設	15.7	4.5	11.0	13.4/9.6
7	山や海などの屋外	12.7	7.9	9.5	< 17.0
8	その他	2.9	4.5	5.5	2.9
9	職場のスポーツ施設	2.0	1.1	1.5	9.4

- ①<全国>との比較では、「公共スポーツ施設」を使用することが多いが、この内訳を見ると女性よりも男性がその傾向が強い。
- ②性別では、女性は「自宅」が多く、男性は前述の「公共スポーツ施設」、「民間スポーツ施設」、「山や海などの屋外」が多いことから、インドア系（女性）かアウトドア系（男性）かにも多少分類できる。

(4) スポーツや運動の実施理由

スポーツや運動を実施した理由〈回答は3つまで〉						
		色麻町 (R4)			全国 (R3)	宮城県 (R3)
		男性 (%)	女性 (%)	全体 (%)	全体 (%)	全体 (%)
1	運動不足解消のため	37.1	43.4	58.5	48.1	44.7
2	健康維持・体力づくりのため	43.4	36.5	57.0	76.2/52.0*	71.8/55.1*
3	楽しみや気晴らしとして	28.0	> 12.6	27.0	42.1	53.1
4	ストレス解消のため	17.5	8.8	20.5		
5	友人・仲間との交流のため	18.9	> 8.2	20.5	14.7	
6	体を動かすことが好きだから	18.2	> 4.4	16.0		
7	美容やダイエットのため	7.0	13.8	15.5	9.6/29.9*	
8	自分の記録や技術を向上させるため	11.2	3.1	10.0	6.9	
9	気力や精神の鍛練のため	8.4	1.3	6.0	7.1	
10	家族とのふれあいのため	2.1	3.8	6.0	9.4	
11	自然とふれあうため	3.5	3.1	5.0		
*/の左側は「健康維持のため」、/の右側は「体力づくりのため」と回答した者の%を表し、回答の選択肢が分かれて						<上位5位>
いることを指す。(他の表でも*は同様)						

- ①男性は「楽しみや気晴らし」、「体を動かすことが好き」といった気軽さや「友人・仲間との交流」といったコミュニケーション重視、女性は「運動不足解消」や「美容やダイエット」といった実行性を重視する傾向にあることが分かる。

(5) スポーツや運動を実施していない理由

スポーツや運動を実施していない理由〈回答は3つまで〉					
	色麻町 (R4)			>	全国 (R3)
	男性(%)	女性(%)	全体(%)		全体(%)
1 仕事や家事が忙しく時間がないから	58.5	60.7	62.7	>	47.0
2 仕事で体を動かしているから	48.8	18.0	28.4	>	10.8
3 機会がなかったから	17.1	26.2	24.5		
4 面倒だから	17.1	29.5	24.5	<	42.5
5 スポーツや運動が好きではないから	19.5	16.4	17.6		17.9
6 身近な所にスポーツや運動をする場がないから	9.8	13.1	12.7		12.8
7 歳をとったから	12.2	11.5	11.8		20.3
8 育児や介護が忙しく時間がないから	4.9	11.5	8.8		11.7
9 仲間がないから	2.4	8.2	6.9		13.1
10 お金がかかるから	0.0	9.8	6.9	<	18.1
11 体が弱いから	2.4	6.6	3.9		
12 その他	2.4	6.6	3.9		1.6
13 指導者がいないから	2.4	0.0	1.0		2.8

①<全国>との比較では、「時間がないから」と「仕事で体を動かしているから」との回答が多い。

②①とも関連するが、男性は「仕事で体を動かしているから」が女性よりも約30ポイントも高く、その仕事で忙しく時間がないというつながりは理解できる。女性も育児や介護で時間を割かれたりする傾向がうかがえるが、一方で「面倒だから」や「機会がなかったから」という回答も男性よりは多く、一考の余地があるといえる。

(6) スポーツや運動に対する現在の状況×子育て中

スポーツや運動の実施状況	〈子育て中と回答した方〉								
	全体	10代		20代		30代		40代	
色麻町 (R4)	%	男性(%)	女性(%)	男性(%)	女性(%)	男性(%)	女性(%)	男性(%)	女性(%)
現在定期的に実施している	17.9	50.0	> 12.5	37.5	40.0	50.0	> 16.7	33.3	> 0.0
現在実施しているが定期的ではない	27.5	25.0	< 37.5	50.0	> 10.0	25.0	> 0.0	33.3	< 75.0
現在実施していない	50.7	25.0	< 50.0	12.5	< 50.0	25.0	< 83.3	33.3	25.0
わからない	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

①全体で見ると「現在実施していない」が過半数を超えており、これを「不定期だが実施」、「定期的に実施」としていけるのが理想と考える。〈色麻町調査〉の性別・年代別集計でも示されるように、女性ではほぼ全ての世代、男性でも50・60代の「非実施者」は過半数を超えていることから、性別・年代別等の各種の方策が必要といえる。

- ②<子育て中>と回答した方と「非実施者」との回答者とを比較する（上記表の右側部分）と、男女差が顕著に表れてくることから、特に子育て中の女性に対する積極的かつ効果・効率的な働きかけが必要と考える。

（7）スポーツや運動の今後の意向

スポーツや運動の今後の意向	色麻町（R4）		
	男性(%)		女性(%) 全体(%)
定期的を実施したい	36.9	>	26.1 31.8
定期的ではなくとも実施したい	35.5		35.3 33.8
非実施だが今後始めようと思っている	7.1		9.2 8.6
非実施だし今後実施するつもりもない	12.8		11.1 12.9
わからない	7.8	<	18.3 12.9

- ①性別・年代別の集計では、<色麻町調査>の通り、消極的な回答が多い傾向にある男女ともに60代を中心に注視する必要がある。
- ②また、「定期的を実施したい」と思ってもらえる女性を増やすためのきっかけづくり、また「わからない」と回答する女性の真意を把握し、運動やスポーツの效能なりを今後も継続して伝えていく必要性を感じる。

3. スポーツイベントやスポーツボランティアについて

（1）スポーツイベントや大会への参加状況・参加希望

スポーツイベントや大会への参加状況、及び今後の参加希望〈複数回答〉							
色麻町（R4）	参加状況（%）			全体分 増・減(△)	参加希望（%）		
	男性(%)	女性(%)	全体(%)		男性(%)	女性(%)	全体(%)
町が主催するイベントや大会	30.8	23.9	26.2		30.8	22.6	28.8
地域主催のイベントや大会	19.6	17.6	18.2		19.6	14.5	16.9
職場主催のイベントや大会	9.1	2.5	5.6	4.0	15.4	6.3	9.6
宮城県・他市町村主催のイベントや大会	6.3	1.3	3.6	6.0	10.5	10.1	9.6
民間スポーツ団体主催のイベントや大会	4.9	0.6	3.0	4.0	10.5	5.0	7.0
その他	4.2	0.6	2.3		2.8	3.8	3.3
参加していない／参加したくない	49.7	61.6	55.3	△15.9	32.2	47.8	39.4

- ①「参加状況」については、<色麻町調査>の通り、男性の30・40・70代の順に参加割合が増えるのに対して、女性では特に若い世代（20代→10代→30代の順）が参加していない傾向が強い。また、女性の若い世代の「地域主催のイベントや大会」への参加の割合（10代→0.0%、20代→4.8%、30代→7.7%）が1割を切っていることも懸念される。

- ②「参加希望」についても〈色麻町調査〉の通りであり、男性の多くの年代で各種のイベントへの参加希望がある（60代がやや消極的）一方、女性はその世代でも約4割以上が参加の意向がなく、今後の地域等のコミュニティを考える上でも懸念材料といえる。
- ③実際の「参加状況」と今後の「参加希望」との比較についても〈色麻町調査〉にて示されている。表でもわかるとおりほとんどのイベントや大会への参加希望が僅かであっても増えているのは光明といえる。同時に、「参加していない」方（55.3%）が、今後も「参加したくない」と回答した方の割合として39.4%へと大幅に減少していることも喜ばしい結果と考える。

（2）スポーツを観戦して感じたこと

スポーツ観戦で感じたこと〈複数回答〉		色麻町（R4）		
		男性(%)	女性(%)	全体(%)
1	感動した	48.3	44.7	51.3
2	次回も観戦したいと思った	34.3	30.8	35.1
3	気分転換できた・ストレスが解消した	32.2	>	23.9
4	元気が出た	24.5	26.4	28.1
5	自分もスポーツや運動をしたくなった	29.4	>	15.7
6	選手に親近感をもった	15.4	14.5	17.9
7	感性が豊かになった	9.8	9.4	10.3
8	スポーツや運動を好きになった	12.6	>	4.4
9	わからない	2.1	3.1	3.0
10	その他	0.7	2.5	1.7
11	今後は観戦したくないと思った	1.4	0.0	0.7
12	観戦しなかった	8.4	11.3	8.9

- ①前述した運動やスポーツの実施理由において、男性は「楽しみや気晴らし」、「体を動かすことが好き」といった気軽さについて言及したが、本問のスポーツ観戦でも「気分転換・ストレス解消」といった気晴らしや、「運動等をしたくなった」、「運動等を好きになった」といったスポーツ等への好感度が女性よりも割合が高い傾向にあった。

(3) スポーツや運動を支える活動

スポーツや運動を支える活動〈複数回答〉				
色麻町 (R4)				
	男性(%)		女性(%)	全体(%)
1 子供のスポーツに関する部活動等の運営や支援	23.1	>	16.4	19.5
2 スポーツ活動等の運営や支援	14.7	>	3.1	9.6
3 スポーツイベントのボランティア	13.3	>	3.8	7.9
4 わからない	4.9		5.0	4.6
5 仕事としてスポーツに関わっている	4.9		0.6	3.0
6 スポーツイベントの募金やオークション等のチャリティ活動	1.4		0.0	1.3
7 関わらなかった	56.6	<	69.8	64.2

①男女とも支える活動へ関与しなかった割合は過半数以上と高く、女性では約7割にのぼる。「自身の子供のスポーツ等活動への関与」が男女ともに一番多く、子供のスポーツ環境は保護者の関わりも重要であることがうかがえる。前述の項目以外でも、「スポーツ活動等の運営や支援」、「スポーツイベントのボランティア」は、女性よりも男性の関わりが多く見られ、色麻町の男性の外向性が垣間見られる。

4. 障がい者スポーツについて

(1) 障がい者スポーツへの関心があるか、また、関心が無い理由

障がい者スポーツへの関心			
色麻町 (R4)			
	男性(%)	女性(%)	全体(%)
関心がある	14.7	12.6	13.2
やや関心がある	30.8	30.8	32.1
あまり関心がない	22.4	29.6	25.5
関心がない	11.9	6.9	12.6
わからない	16.1	17.0	16.6

障がい者スポーツに関心がない理由〈複数回答〉				
		色麻町 (R4)		
		男性(%)	女性(%)	全体(%)
1	身近に障がい者スポーツに関わっている人がいない	13.8	22.5	18.0
2	障がい者スポーツを身近な場所でやっていない	10.6	14.6	12.6
3	どんな競技があるか知らない	16.0	10.1	13.1
4	競技のルールや見どころがわからない	10.6	9.0	9.8
5	障がい者スポーツに興味がない	10.6	3.4	7.1
6	どんな選手がいるか知らない	8.5	5.6	7.1
7	障がい者スポーツについてメディアでふれる機会が少ない	7.4	6.7	7.1
8	スポーツ自体に興味がない	3.2	3.4	3.3
9	わからない	3.2	2.2	2.7
10	特に理由はない	14.9	22.5	18.6
11	その他	1.2	0.0	0.6

①障がい者スポーツに関心がない理由の男女別での順位については、〈色麻町調査〉の通りである。順位について多少男女差はあるが、回答の割合自体が多くなく、また項目ごとの男女差はさほど見られない。

5. 色麻町のスポーツや運動を取り巻く環境について

(1) 町内施設利用状況

利用したことがあるスポーツ施設〈複数回答〉					
		色麻町 (R4)			
		男性(%)	女性(%)	全体(%)	
1	町民体育館	<u>65.0</u> ①	>	57.2①	61.9
2	屋外運動場 (町民グラウンド)	<u>50.3</u> ②	>	34.0②	43.0
3	学校施設 (校庭、講堂等)	<u>25.2</u> ③	>	15.1③	21.5
4	愛宕山公園パークゴルフ場	<u>23.8</u> ④	>	12.6④	18.9
5	武道館 (桜花館)	16.8⑤		12.6⑤	14.6
6	町民小体育館	<u>16.8</u> ⑤	>	9.4⑦	13.6
7	町コミュニティセンター	14.7⑦		10.1⑥	12.9
8	愛宕山公園サッカー場	<u>11.9</u> ⑧	>	3.1⑨	7.6
9	テニスコート	3.5⑨		5.0⑧	4.6
10	利用したことがない	22.4	<	<u>30.8</u>	25.2

①利用したことがある町内のスポーツ施設の全体傾向と男女別比較については、〈色麻町調査〉の通りである。「利用したことがない」との回答が女性に多いこと、また、「テニスコート」以外の町内のスポーツ施設の利用経験者の割合は、男性において多いことがわかる。

(2) スポーツや運動のクラブ・同好会への加入状況

所属しているクラブ・愛好会〈回答は3つまで〉					
色麻町 (R4)					
		男性(%)		女性(%)	全体(%)
1	町体育協会加盟団体	34.8	>	7.7	33.3
2	友人や仲間組織したクラブ・愛好会	30.4		23.1	23.8
3	民間スポーツ施設等の会員制クラブ	4.3	<	23.1	14.3
4	学校のクラブ・愛好会	8.7		15.4	11.9
5	その他	4.3	<	30.8	9.5
6	職場のクラブ・愛好会	17.4	>	0.0	7.1

①<色麻町調査>のデータの通り、組織的なクラブや愛好会への所属率は極めて低く、女性では94.9%にのぼる(男性:86.9%)。所属するクラブ等の割合には男女差が見られ、男性は「町体育協会加盟団体」や「職場のクラブ・愛好会」、女性は「民間スポーツ施設等の会員制クラブ」に特徴がある。また女性の「その他」のクラブ等が30.8%を占めていることから、この組織がどのような団体等であるかの把握がまずは必要といえる。

(3) スポーツや運動に関する情報の入手方法

スポーツや運動関係の情報の入手方法〈回答は3つまで〉						
色麻町 (R4)						
		男性(%)		女性(%)	全体(%)	宮城県 (R3)
						全体(%)
1	広報しかま	36.4①	<	45.3①	42.1	22.7
2	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	31.5②	>	23.3③	29.5	37.3/73.3
3	知人・友人からの紹介・誘い	23.8③		25.2②	23.5	
4	インターネット・SNS	23.8③		22.6④	23.2	16.6
5	町施設のチラシやパンフレット	9.8⑤		9.4⑤	11.9	
6	町ホームページ	3.5⑥		2.5⑥	3.0	21.1
7	入手していない	22.4		21.4	20.9	
						<上位5位>

①必要な情報の収集方法としては、若干男女差が見られる情報媒体もあるが、「広報しかま」が上位を占めている。年代別に集計すると多少使用媒体には相違が見られるものと推測される。

(4) スポーツや運動に関してどのような情報が必要か

必要なスポーツや運動関係の情報〈回答は3つまで〉					
		色麻町 (R4)			宮城県 (R3)
		男性(%)	女性(%)	全体(%)	全体(%)
1	健康づくりのための運動及び講座・教室	25.9②	<	<u>32.7①</u>	30.5
2	スポーツや運動教室	26.6①		31.4②	28.5
3	スポーツ施設の利用案内	<u>23.8③</u>	>	16.4③	21.9
4	大会やイベント	13.8④		10.5④	21.5
5	各種競技連盟やチーム等	<u>10.5⑤</u>	>	2.5⑥	7.0
6	スポーツや運動指導者	3.5⑥		4.4⑤	4.3
7	特にない	29.4	<	<u>34.6</u>	31.8
					<上位5位>

- ①必要なスポーツや運動関係の情報については、男女ともに「特にない」との回答が最上位であった。必要な情報が問題なく収集できているのか、必要となる情報自体がそもそもないのか、今回の調査では判断がつかない。情報を必要とする方々においては、「スポーツ・健康づくり等の教室・講座」といったプログラムサービスや「施設の利用案内」といったエリアサービスに関する情報を必要としている傾向にある。

(5) 色麻町のスポーツ活動をより盛んにするための方策

必要なスポーツ関係の政策〈回答は3つまで〉		色麻町 (R4)		
		男性(%)	女性(%)	全体(%)
1	初心者が気軽に参加できるスポーツや運動教室の充実	42.7①	< 53.5①	49.7
2	さまざまなスポーツや運動を楽しめる施設の充実	27.3②	23.9②	28.8
3	子どものスポーツや運動の活動を支援する機会の充実	16.8④	18.2③	18.2
4	家族で取り組みやすいスポーツや運動の活動を支援する機会の充実	14.0⑥	18.2③	16.6
5	スポーツを観戦する機会の充実	12.6⑩	16.4⑤	16.2
6	地域のスポーツイベント等の最新情報の提供	18.2③	> 12.6⑧	15.9
7	健康維持のためのスポーツや運動の相談・指導の機会の充実	14.7⑤	14.5⑥	14.6
8	高齢者のスポーツや運動の活動を支援する機会の充実	14.0⑥	13.8⑦	13.6
9	働いている人のスポーツや運動の活動を支援する機会の充実	12.6⑩	11.9⑨	13.2
10	プロスポーツ選手やトップクラスの選手の講演や指導を受ける機会の増加	13.3⑧	11.9⑨	12.9
11	地域のスポーツクラブ・愛好会等の支援	13.3⑧	> 6.3⑫	10.6
12	スポーツ指導者の育成や活動の支援	7.7⑫	6.9⑪	8.6
13	スポーツボランティアの体制づくり・人材育成の支援	6.3⑬	5.0⑬	5.3
14	障害者のスポーツや運動の活動を支援する機会の充実	2.8⑭	3.8⑭	3.3
15	わからない	11.9	13.2	12.9

- ①必要なスポーツ関係の方策等については、全体的に「初心者向けの気軽な運動教室等の充実」が約過半数を占め、特に女性に望む声が多い。次に全体的に多いのが「施設の充実」となっている。「地域のイベント等の情報提供」や「地域のスポーツクラブ等の支援」においてやや男性の回答割合が多く、地域への関心があるとも考えられる。気軽に関与しやすいプログラムサービス系が数多く、運動やスポーツの基盤となる施設の整備等のエリアサービス系も必要とされる一方、スポーツ関係の組織や団体等のクラブサービスを望む声は大きくはない。ライフステージ関係で全体を見てみると、「初心者」、「子ども」、「家族」、「高齢者」、「働いている人」、「障害者」といった順序立てができる。

2 子どもたちのスポーツ活動の現状と課題

(1) 子どもたちのスポーツ活動Ⅰ

現状と課題

心身ともに健やかな子どもの育成には、幼少の時からスポーツに親しむことが重要であります。子どもたちは、学校の体育以外にスポーツ少年団活動やスイミングなどの教室に通う子どももいますが、積極的に運動する子どもと運動しない子どもの二極化傾向にあると思われます。特に子どもにおける運動不足は成人後の身体活動や生活習慣病の発症に重大な影響を与えることが予想されることから、学校の体育以外のスポーツ活動の場を提供する必要があります。

基本施策

- ①各行政区が独自に行うスポーツ活動に子どもをまきこむ
- ②小中学生がやりたいスポーツを把握し、長期休暇期間等にスポーツ教室を開催する
- ③部活動やスポーツ少年団以外でもスポーツができる環境を整える

(2) 子どもたちのスポーツ活動Ⅱ

現状と課題

本町のスポーツ少年団は、昭和51年度に町で最初のスポーツ少年団としてあたごクラブが結成され、以来、柔道やサッカーなどのスポーツ少年団を結成するなどして、スポーツ少年団の数が増えてきました。平成14年には「色麻町スポーツ少年団本部」を立ち上げ、現在は5つの団体が加盟しています。

年度別加入状況は次ページの表の通りですが、今後、少子化に伴い、いずれの団においても団員数の確保が課題となっています。

そして、特にそれぞれのスポーツ少年団の指導者は永年にわたって携わっていますが、その指導レベルも各団によって異なります。今後は後継指導者の人材確保と指導レベルの向上を急がなければなりません。

さらに、中学校における部活動は生徒数の減少もあって体育系部活の減少が目立ってきています。国で進めている「部活動の地域移行」の動向を注視しながら、子どもたちにとってよりよい方向で地域移行を進めていけるようにする体制づくりが必要であると考えます。

色麻町スポーツ少年団員数の推移

年度	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
あ た ご ス ポ 少	17	14	23	23	23	16	15
笠 松 ス ポ 少	13	16	11				
ブ ラ イ ト リ ー F C	24	26	36	36	33	27	26
ミ ニ バ ス ス ポ 少	27	25	31	27	22	24	19
柔 道 ス ポ 少	22	18	21	17	13	21	20
空 手 ス ポ 少	0	0	—	—	—	—	—
色 麻 中 野 球	31	22	20	21	28	24	15
色麻中バスケットボール	25	30	36	35	43	35	36
色麻中ソフトテニス	—	—	30	38	—	—	—
色麻中サッカー	—	—	—	26	18	21	27
合 計	159	151	208	223	180	168	158
年度	平成	令和	令和	令和	令和		
	30 年度	元 年度	2 年度	3 年度	4 年度		
あ た ご ス ポ 少	23	17	17	15	14		
笠 松 ス ポ 少							
ブ ラ イ ト リ ー F C	23	36	44	39	34		
ミ ニ バ ス ス ポ 少	25	25	25	18	14		
柔 道 ス ポ 少	19	20	22	15	11		
空 手 ス ポ 少	—	—	—	—	—		
色 麻 中 野 球	16	17	16	11	—		
色麻中バスケットボール	25	21	28	28	29		
色麻中ソフトテニス	—	—	—	—	—		
色麻中サッカー	29	27	—	—	—		
合 計	160	163	152	126	102		

基本施策

- ①スポーツ少年団の指導者の育成に努める
- ②団員の確保と団の存続に努める
- ③小学校のスポーツ少年団と中学校の部活動との連携を図る
- ④部活動地域移行に向けた受け入れ体制の構築を図る

3 成人のスポーツ活動の現状と課題

色麻町の体育協会は昭和45年の設立以来、永年にわたり町のスポーツ振興に寄与してきました。しかし社会状況や生活環境のめまぐるしい変化に伴い、一人一人のライフスタイルも変化し、特に若い人たちは組織化された団体活動を敬遠する傾向にあります。

そういった中で、町の体育協会の設立当初は12の単位部会でスタート、会員数は184名でありましたが、平成29年には16部会と増加、さらに会員数も318名と増加傾向にあるように見えます。しかしながら、会員の高齢化と部会数の増加はあるものの部会員数の減少は顕著です。若い世代をいかに協会にとりこむかが課題となっています。たとえば、色麻町コミュニティセンターでは、週2回、若い世代がスポーツに親しんでいます。体育協会には加盟していません。こういった方々が協会に加盟できる体制を構築することが急務となっています。

また、体育協会の単位部会が主催するスポーツ大会は年間10回の大会を運営しています。その中で一般市民を対象にした野球・ソフトボール・バレーボール・バドミントン・ボウリングなどの参加状況（チーム数）は次のとおりです。

色麻町民総合スポーツ大会チーム参加状況（数字は参加チーム数）

大会名	H30	R1	R2	R3	R4
野球	6	5	—	—	3
ソフトボール（フリー）	6	7	—	—	4
ソフトボール（年代別）	5	7	7	7	—
綱引き大会	3	3	—	—	—
バドミントン	3	3	3	3	—
バレーボール	3	4	—	—	3
ボウリング	10	10	—	—	—
富市杯争奪色麻野球選手権	6	6	6	6	5

各大会において参加チーム数の減少と参加地区の偏りが見られます。大会によってはチーム編成を見直し、複数の地区での参加を認めるように改めてきているものの、全町あげての町民総合スポーツ大会とまでには至っていないのが現状であり課題でもあります。

基本施策

- ①体育協会に加盟しやすい体制づくりの構築
- ②体育協会独自のスポーツ活動の推進
- ③体育協会主催大会の運営の見直し

4 障がい者や高齢者のスポーツ活動の現状と課題

色麻町の65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合、いわゆる高齢化率は、2015年では30.1%ですすでに3割を超えており、全国平均の26.6%を上回っています。今後、高齢化率は2045年までに8.3ポイント上昇し、38.4%に達し、およそ10人に4人が高齢者になると見込まれます（総務省国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」より）。人口の減少率と少子高齢化は避けることのできないものであり、本計画においても高齢者の運動機会の創出に努めます。

現在は愛宕山公園パークゴルフ場や屋外運動場ではそれぞれパークゴルフやグラウンドゴルフ、清水地区にあるコミュニティセンターではゲートボール、冬期間では、色麻町町民小体育館においてゲートボールでスポーツを楽しんでいる高齢者も多くいます。しかし、高齢者の総数からすれば、スポーツ人口は少なく、種目においても限られたものとなっているのが現状です。

また、障がい者が気軽にスポーツに親しむことができるように関係機関と協力して推進していくことが必要です。特にリニューアルによってバリアフリー化した色麻町町民体育館と農村環境改善センターの多目的ホールの利用を促進していきます。

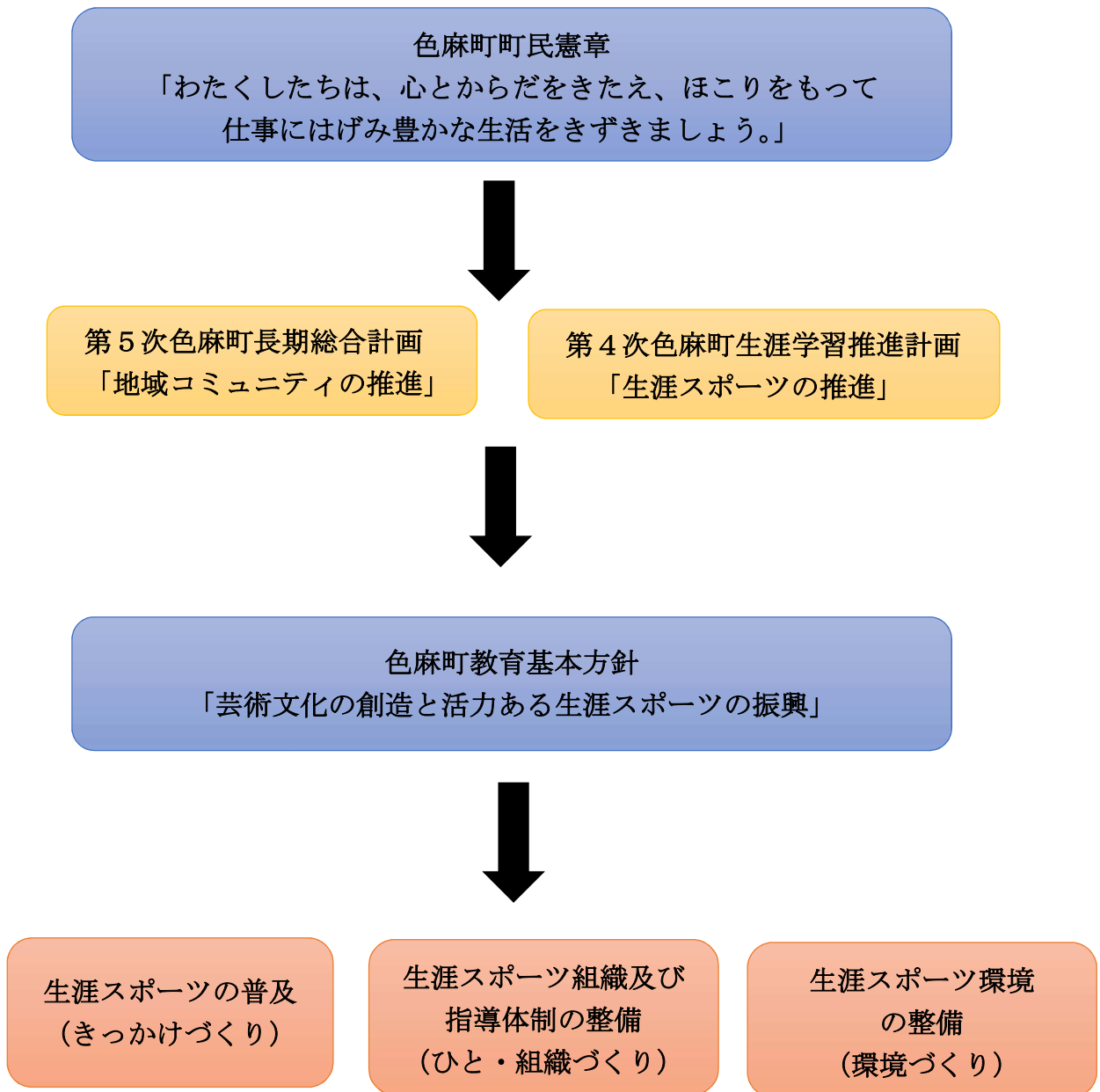
基本施策

- ①スポーツに親しんでいない高齢者のとりこみを図る
- ②町内の福祉施設・介護施設・保健福祉課との連携を図る

第3章 基本計画

本町の生涯スポーツの現状を踏まえ次の3つの指針から基本計画を策定します。

1 基本体系



2 基本計画

1. 生涯スポーツの普及（きっかけづくり）

（1）気軽に参加できるスポーツ大会・教室・体験会の開催

①町民大運動会の実施

毎年9月に開催する色麻町民大運動会については、町民でつくる実行委員会を立ち上げ、さらには町民ボランティアの協力のもと、実施してきました。令和2年度から令和4年度まで新型コロナウイルス感染拡大により中止となりました。コロナ禍以前から課題となっていた少子化等の影響による参加者の減少は、コロナ禍後さらに厳しくなることが想定されます。よって大会時間の縮小やチーム編成の見直し、実施種目の検討等、対策を講じながら町民各世代が気軽に参加できるように努めていきます。

- a. 各世代に見合った種目の検討
- b. チーム編成の見直し
- c. 町民ボランティアの継続的活用
- d. 大会時間の見直し

②スポーツ大会の実施

スポーツ大会の運営については、町体育協会各部会が主力となって実施していますが、参加チーム数を増やすための方策が急務となっています。また、各大会での審判などの協力体制や競技そのもののレベルアップを図っていきます。

- a. 大会運営への協力体制の強化
- b. チーム編成を含めた参加チーム増加のための工夫
- c. 競技力向上のための方策

③スポーツ教室・体験会の実施

スポーツ教室は、公民館が主体となりスケートボード教室やズンバ教室、HIPHOP教室等を開催してきました。今後、初心者でも気軽に楽しめるニュースポーツ体験会や体育館のフリー開放等を実施し、子どもだけでなく女性も参加できるような機会を作っていきます。

- a. スポーツ体験会等の定期開催の検討
- b. スポーツ施設（体育館等）のフリー開放日設定の検討

(2) 子どもが体を動かす運動・スポーツの推進

公民館事業として幼稚園児・保育所児童・子育て支援センターを利用する親子を対象に専門のインストラクターを招聘して「親子レクリエーション」や「体育遊び」を実施しています。今後も継続的に年齢にあわせた幼児期におけるスポーツの振興を図っていきます。

また、スポーツに限らず夢を持つことは、大切であることからトップアスリートを講師に招き、講義や実技を通して夢を持つ大切さを伝える「夢の教室」を開催します。

さらにスケートボードなど、町内にはない施設などを利用し、多くのスポーツに触れる機会をつくります。

- a. 年齢にあわせた体育遊びやレクリエーションの実施
- b. 夢の教室の開催
- c. 子どもと一緒に親も体を動かす機会の提供

(3) 健康づくり事業との連携

特に、障がい者や高齢者のスポーツは健康づくりとともに社会参加を促すことに意義が見いだせます。ひとりではなかなかできないスポーツでも、仲間や教えてくれる指導者がいれば、気軽にスポーツに取り組み、さらには社会参加を促すことができます。保健福祉課で実施する健康づくり事業と連携していくほか、様々な福祉団体や福祉施設とスポーツ団体が連携し、スポーツ事業を協働で展開していくことが必要です。

- a. 障がい者や高齢者が行うスポーツ機会の創設
- b. 障がい者や高齢者が行うスポーツにおける指導者の養成
- c. 福祉施設と社会体育機関、保健福祉課との連携

(4) 世代間交流事業の推進

小学生の親子スポーツ・レクリエーションと婦人層が実施するスポーツ事業などとの連携を図り、世代を超えた世代間交流事業の創設をめざします。

- a. 各種団体事業との連携
- b. 体育協会における子ども向けスポーツ教室等の創設

2. 生涯スポーツ組織及び指導体制の整備（ひと・組織づくり）

（1）スポーツ少年団の育成

スポーツ少年団の加入状況は、5団体、102名ですが種目によると野球、サッカー、ミニバス、柔道、バスケットの5種目となっております。児童・生徒の中には、町内スポーツ少年団には種目がないため、町外で活動している子どももいます。このことから、今後、既存の少年団を育成しつつ、新たなスポーツ少年団の育成にも努めていきます。

- a. スポーツ少年団加入者の確保
- b. 新たなスポーツ少年団の育成・支援
- c. 指導者の育成

（2）体育協会加盟団体の体制強化

現在、体育協会はスポーツ大会をはじめ、スポーツ教室などを主催し、町民のスポーツ意欲の増進とスポーツのきっかけづくりを行っています。

また、競技力向上のためにそれぞれ独自に練習会を開催している部会もあります。町民自身が自主的に活動する体育協会を身近に感じ、大会や練習を通じて気軽にスポーツに親しむことのできる組織の整備こそ、生涯スポーツの発展に寄与できると考えます。それには、体育協会の加盟団体それぞれが会員数を増やし、年間を通じてより一層自主的に活動できる体制づくりが必要であります。それにより加盟団体が競技力を高め、町全体における生涯スポーツの推進につながります。

- a. 体育協会加盟団体会員数の確保
- b. 体育協会加盟団体の自主活動の推進
- c. 体育協会加盟団体の競技力向上

（3）社会体育振興協力者との連携強化

色麻町25行政区に2名ずつ色麻町社会体育振興協力者を配置しています。主な業務は体育協会で行うスポーツ大会や町民大運動会などの運営に携わること、さらに重要なことは地域でのスポーツ活動の計画と実践に携わっていることです。

地域によっては独自にスポーツ大会を主催し、地域住民の健康増進に努めているところも少なくありません。なかなかスポーツに親しむことのできない世代であっても、地区の住民とスポーツやレクリエーションを交流の機会と捉え、率先して参加している人もいます。こういった地区や地域で行うスポーツ活動を多くの地域で、多くの町民が活動できる場が身近にあれば生

涯スポーツの進展につながると考えます。それには、個々で活動している社会体育振興協力者との連携を強化し、情報を共有化することが必要不可欠です。さらには、体育協会やスポーツ推進委員などや行政の全面的な支援があれば、より地域における生涯スポーツが進展するものと考えます。

- a. 社会体育振興協力者における各地区情報の交換
- b. 地区独自のスポーツ大会への支援

(4) 地域スポーツ等クラブ活動の運営母体設立の検討

幅広い世代の町民にさまざまなスポーツに触れる機会を提供していくためには、行政だけでは難しい状況となっております。よって、既存のスポーツ団体（体育協会・スポーツ少年団等）が一体となり、スポーツに対する諸課題へ対応していくことが重要となります。

また、運動部活動や文化部活動の地域移行が国で進められていくことを踏まえると、円滑に移行が進められるようにその受け皿となる地域クラブのような団体が必要となるケースもあります。

そこで地域クラブを運営する母体の設立について検討していきます。

- a. 地域スポーツ等クラブの運営母体設立のための検討委員会を設置する

(5) スポーツ指導者の人材育成

現在、色麻町スポーツ少年団には38名の方々がスポーツ指導者として登録されています。このほかにも中学校の授業や部活動で専門に指導している方や体育協会でもコーチとして指導されている方もいます。こうした様々なスポーツ指導者においては、指導者の育成を図るための研修等を実施し、資質向上を図っていくことが重要となります。生涯スポーツを推進するにはスポーツ指導者は重要な役割を果たすのは言うまでもありません。

そこで、他市町村の指導者と合同で指導者自身のレベルアップのための研修会等を開催し、スポーツ指導者の人材育成を行っていきます。

- a. 広域的な指導者研修会の開催

(6) スポーツ推進委員の指導体制の確立

スポーツ推進委員の職務の主なものは「住民の求めに応じてスポーツの実技の指導を行うこと」とされています。現在では町民運動会やみやぎスポーツDAYなど、スポーツ大会の競技審判や運営補助、さらに町で行うニュースポーツ体験会での実技指導を担当しています。しかし、スポーツ推進委員も職業を持ちながらの従事であるため、実技指導の準備に時間が取れず苦労しているのが現状です。知識を持った職員が不足分をカバーするなどの指導体制の確立が必要です。

3. 生涯スポーツ環境の整備（環境づくり）

(1) スポーツ施設の整備・活用

本町は他の市町村にはない特色あるスポーツ施設を有しています。例えば人工芝の「愛宕山公園サッカー場」やフットサルの公認コートがある「色麻町町民体育館」など町民以外の利用も年々多くなっています。

しかしながら、老朽化しているスポーツ施設も多くあり、年々維持管理費が多くなっているのも事実です。昭和54年につくられた屋外運動場は、令和4年に照明塔を解体し、管理棟や外周フェンスは老朽化により早期に改修が必要となっている等整備が追いつかなくなっています。

武道館は、平成29年度に屋根・外壁の塗装は終了していますが、競技場を含めた内部の改修も必要となっています。

テニスコートは、外周フェンスの改修を早期に実施しなくてはならないほか、コートも水はけが悪く、土の入れ替え等の改修が必要となっています。

色麻町コミュニティセンターは、築36年が経過し、体育館の屋根の塗装も必要となっています。

○町内のスポーツ関連施設利用状況

(単位：人)

施設名	平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
町民体育館	17,080	14,943	14,303	8,312
町民小体育館	5,087	10,047	9,319	3,863
屋外運動場	6,660	9,100	8,333	2,069
青少年体力増強施設 (武道館)	3,483	3,692	4,527	2,752
青少年体力増強施設 (テニスコート)	4,115	3,204	2,914	2,035
コミュニティセンター 体育館	1,864	2,020	1,517	998
愛宕山公園サッカー場	16,953	21,320	21,806	10,594
愛宕山公園 パークゴルフ場	6,509	10,094	9,198	6,234

公共スポーツ施設の利用者数については、新型コロナウイルスの感染拡大による施設閉鎖に伴い、令和3年度は大幅に減少しましたが、コロナ禍前までの利用状況はほぼ横ばいでした。

また、多くの施設が老朽化し、施設の維持にも年々経費がかかっている状況にあります。屋外運動場の照明塔も老朽化のため撤去しており、今後、施設の整備については、利用者のニーズに応じて、計画的に整備していく必要があります。町民体育館は、リニューアルしバリアフリー化しましたが、高齢者の利用は少なく、一定の利用者に集中している傾向にあります。

学校体育施設については、地区のサークル活動でも利用していますが、スポーツ少年団が中心となって利用しています。

こうしたことから、町の財政状況を勘案しながら、長期的かつ計画的な施設の修繕計画を立て、町民だれもが、いつでも安全に利用できるような施設の整備を推進していきます。

○町内のスポーツ関連施設

施設名	住所
町民体育館	色麻町四竈字柺木町132番地1
町民小体育館	色麻町四竈字向町220番地
屋外運動場	色麻町四竈字柺木町150番地
青少年体力増強施設 武道館	色麻町四竈字狐塚23番地
青少年体力増強施設 テニスコート	色麻町四竈字狐塚23番地
コミュニティセンター 体育館	色麻町清水字川端南25番地1
愛宕山公園 サッカー場	色麻町四竈字東原地内
愛宕山公園 パール場	色麻町四竈字東原地内

資 料 編

○色麻町スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(平成 24 年 11 月 30 日教育委員会訓令第 6 号)

改正 令和 4 年 5 月 2 日教育委員会訓令第 6 号

(目的)

第 1 条 スポーツ基本法(平成 23 年法律第 78 号)第 10 条の規定に基づき、本町における生涯スポーツの総合的、計画的な推進を図ることを目的として、色麻町スポーツ推進計画を策定するに当たり、色麻町スポーツ推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、前条の目的のために審議し、教育委員会へ答申する。

(組織)

第 3 条 委員は、次に掲げるものの代表者及び関係者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) スポーツ推進委員
- (2) 体育協会
- (3) スポーツ少年団
- (4) 学識経験者
- (5) その他教育長が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に委員長 1 名、副委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は委員の互選による。
- 3 委員長は委員会を代表し、会議の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長が指名し、委員長に事故あるときはこれに代わる。

(会議)

第 5 条 委員会は委員長が招集する。

- 2 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、社会教育課において処理する。

(委任)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

附 則(令和 4 年 5 月 2 日教育委員会訓令第 6 号)

この訓令は、令和 4 年 5 月 2 日から施行する。

第3次色麻町スポーツ推進計画策定委員会 委員名簿

【 策定委員 】

[委嘱期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日]

No.	役職	氏名	所属・役職	備考
1	委員長	山口 健一	町スポーツ推進委員 委員長	委員長 R4. 4. 1からR5. 2. 3まで
2	副委員長	柳川 純一	町スポーツ少年団 理事	委員長 R5. 2. 4からR5. 3. 31まで
3	委員	永田 秀隆	仙台大学 教授	
4	委員	西村 義隆	町体育協会 会長	
5	委員	鈴木 宏明	町体育協会 副会長	
6	委員	石川 義晴	町スポーツ少年団 副本部長	
7	委員	橋本 拓未	町スポーツ推進委員	
8	委員	邊見 秋恵	町社会体育振興協力者	
9	委員	大原 喜代美	保健福祉課 課長補佐	
10	委員	千田 歩美	保健福祉課 主査兼管理栄養士	

【 事務局 】

No.	役職	氏名	所属・役職	備考
1	事務局	山崎 長寿	社会教育課 課長	
2	事務局	小田島 浩美	社会教育課 課長補佐	
3	事務局	井上 峻	社会教育課 主査	

スポーツや運動に関するアンケート調査結果報告書

1. アンケート調査の趣旨

本町では、平成24年度に第1次色麻町スポーツ推進計画を策定、その後、平成29年度に第2次計画を策定し、体系的にスポーツ施策を推進してきました。

今回、町民がスポーツに対してどのように考え取り組んでいるかなど現在の状況を把握し、「第3次色麻町スポーツ推進計画」策定の参考とするため、第3次色麻町スポーツ推進計画策定に関するアンケート調査を実施した。

2. アンケート調査の概要

令和4年7月1日から15日までの期間、色麻町に居住する18歳から79歳まで710人（令和4年6月末現在の18歳から79歳の町民4,681名の約15%）を調査対象者としてアンケート調査を実施。

また、回答については新型コロナウイルス感染症流行前（令和元年度以前）の状況で調査を実施。

3. アンケート調査対象者の抽出方法及び回収率

①調査対象者を「18・19歳」「20歳代」「30歳代」「40歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳代」の年代毎に100人ずつ、計700人（男女ほぼ半数）を抽出。

②町スポーツ推進委員の協力を得て10人を抽出。

③調査対象者数710人、回収数310人（内有効回答数302人）、回収率43.6%。

4. アンケート調査の概要配布回収方法

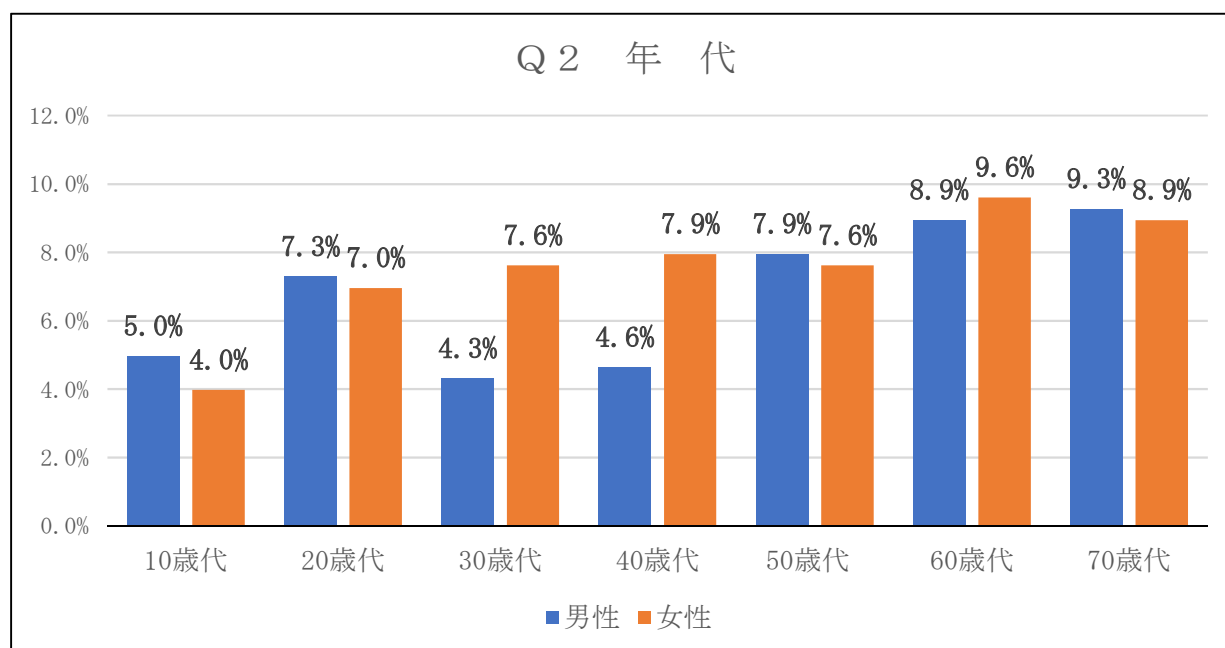
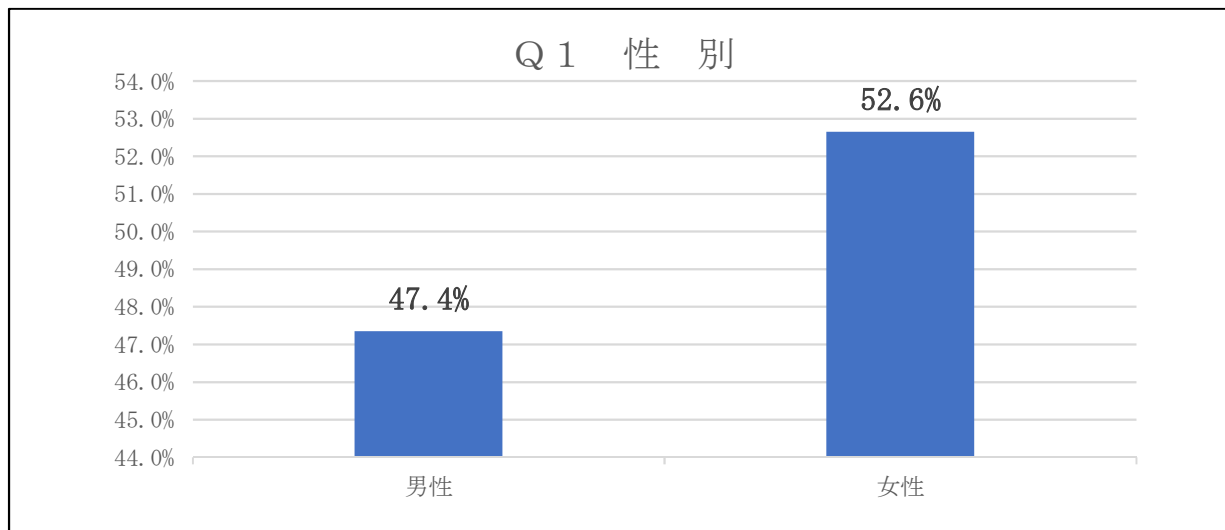
各年代毎無作為に抽出された方へ各行政区長による文書送達にて送付し、郵便にて返送していただいた。

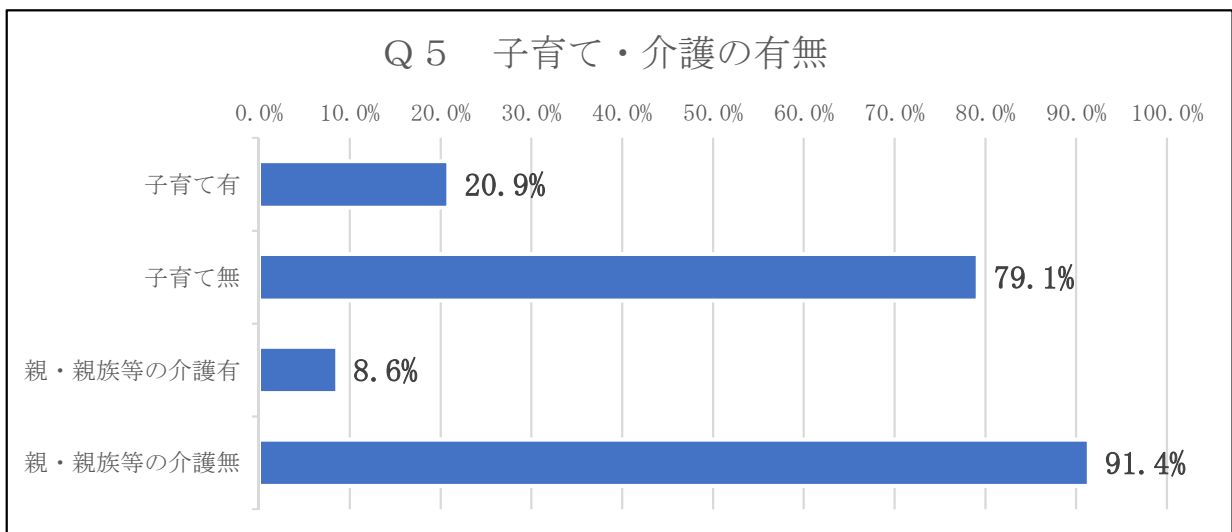
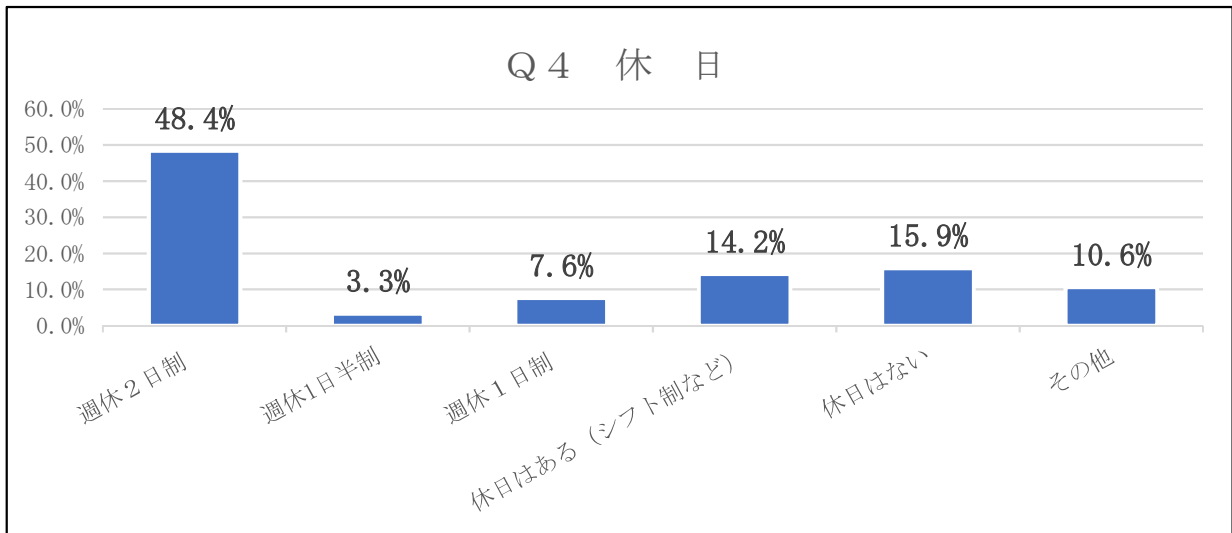
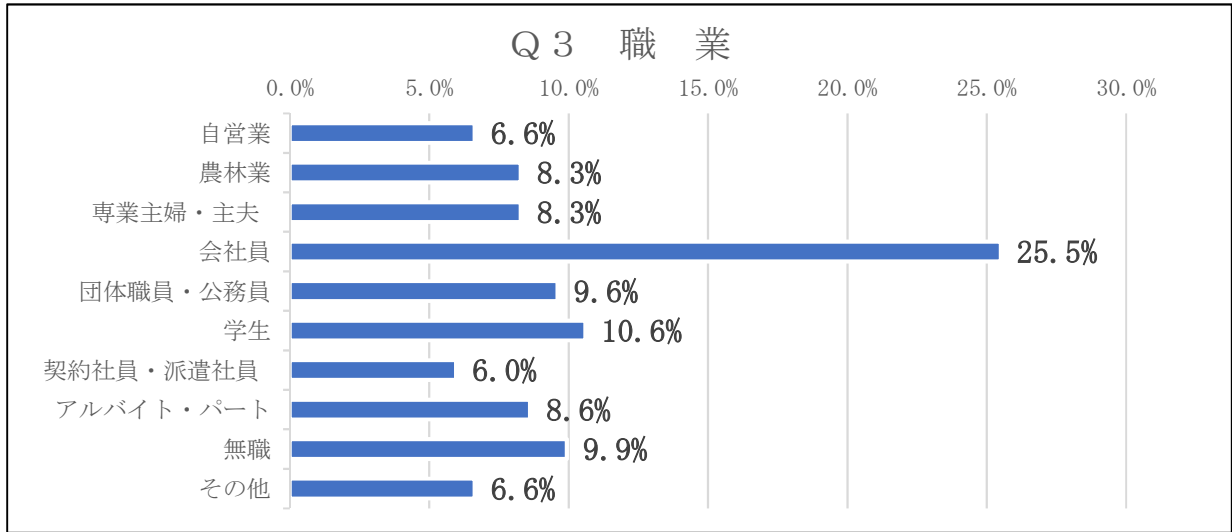
5. アンケート調査の集計・分析等

返送されたアンケート調査を色麻町社会教育課で集計後、仙台大学に送り分析を行った。

I . 回答者属性

回答者の基本属性は、問1から問5の通りである。

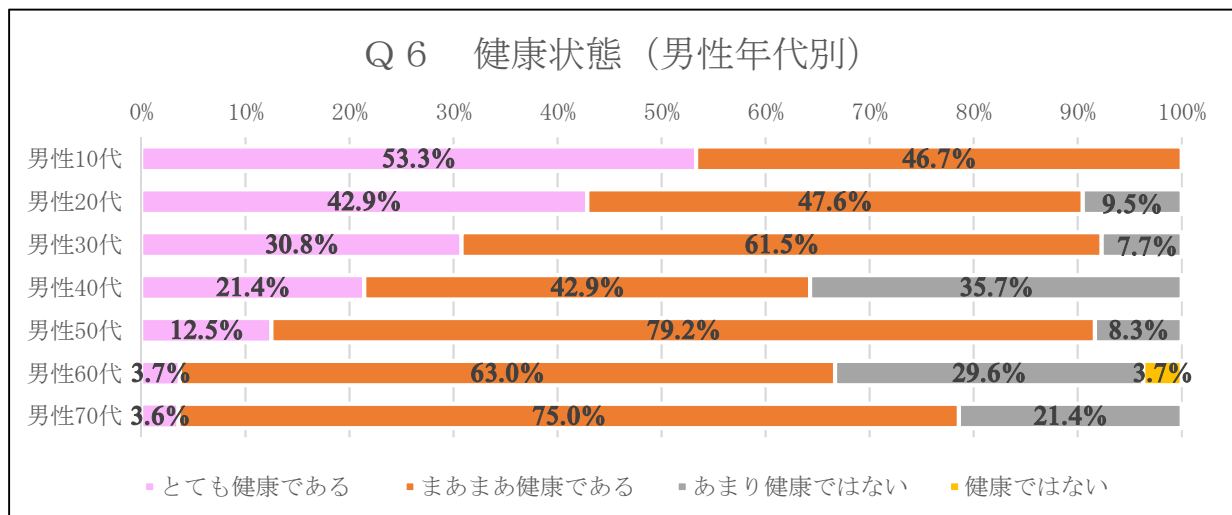
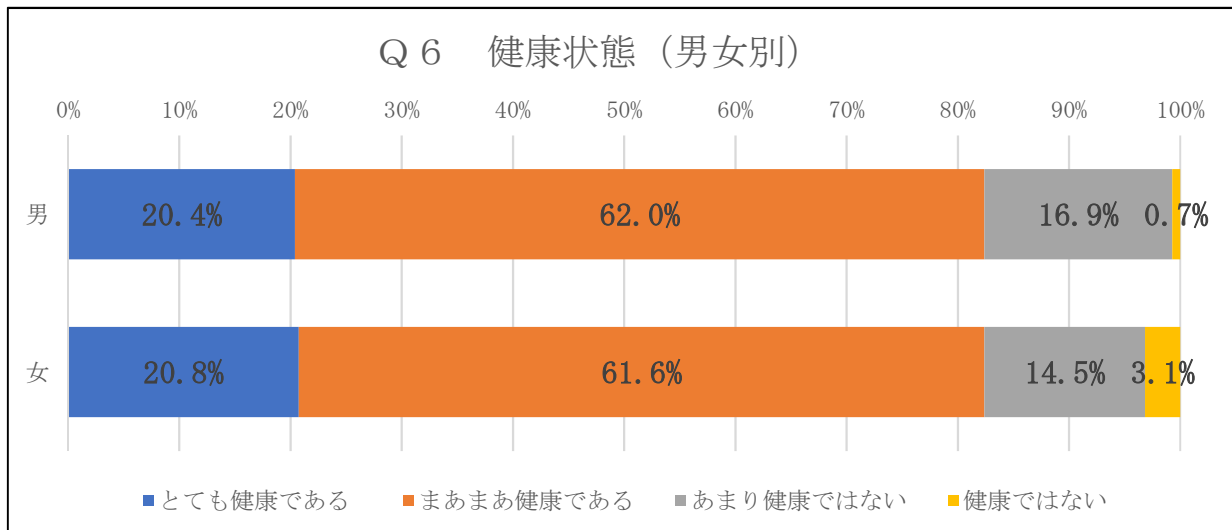
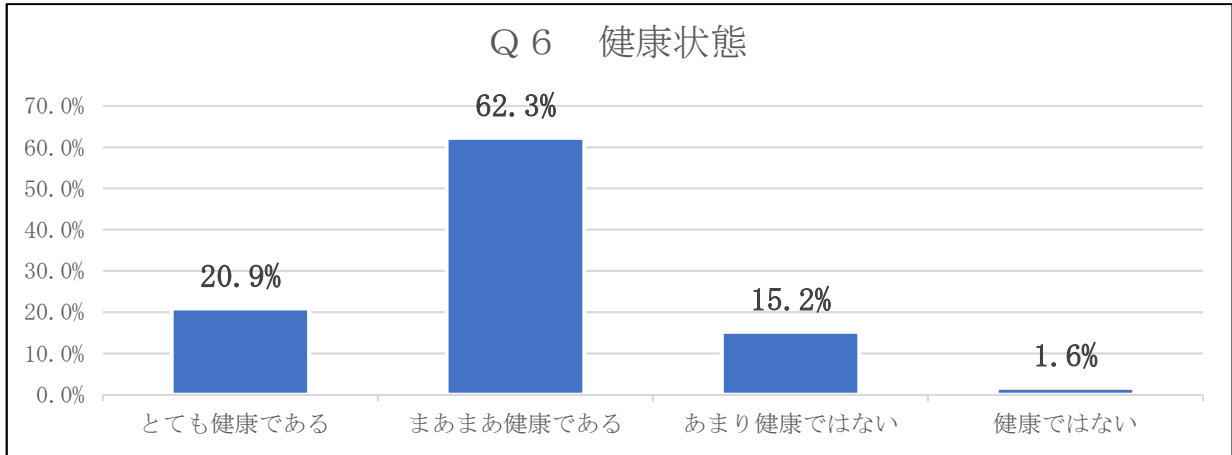


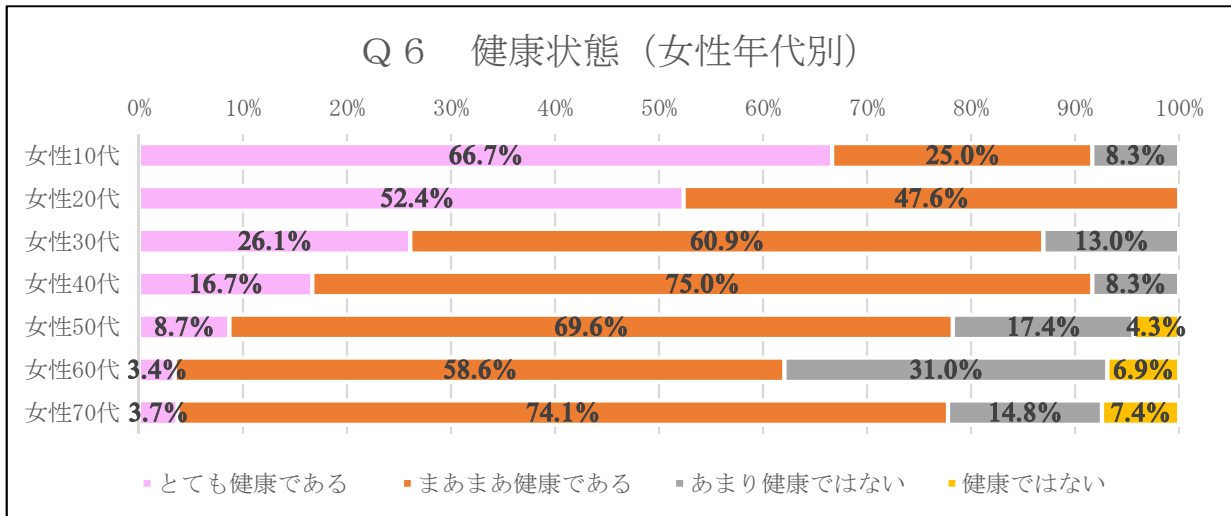


Ⅱ．調査結果の概要

1. 健康・体力に関する意識について

(1) 現在の健康状態



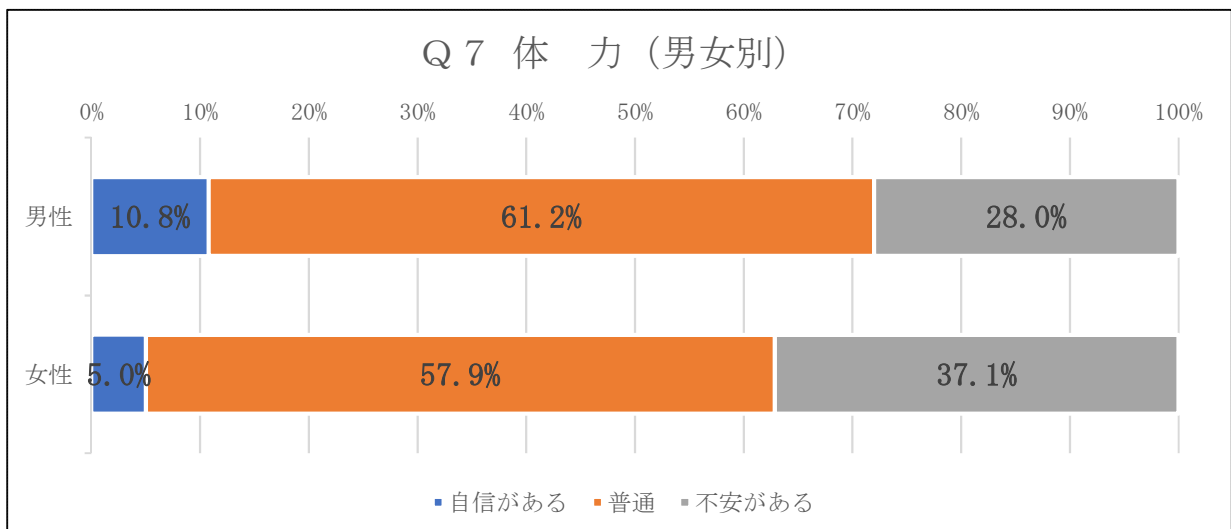


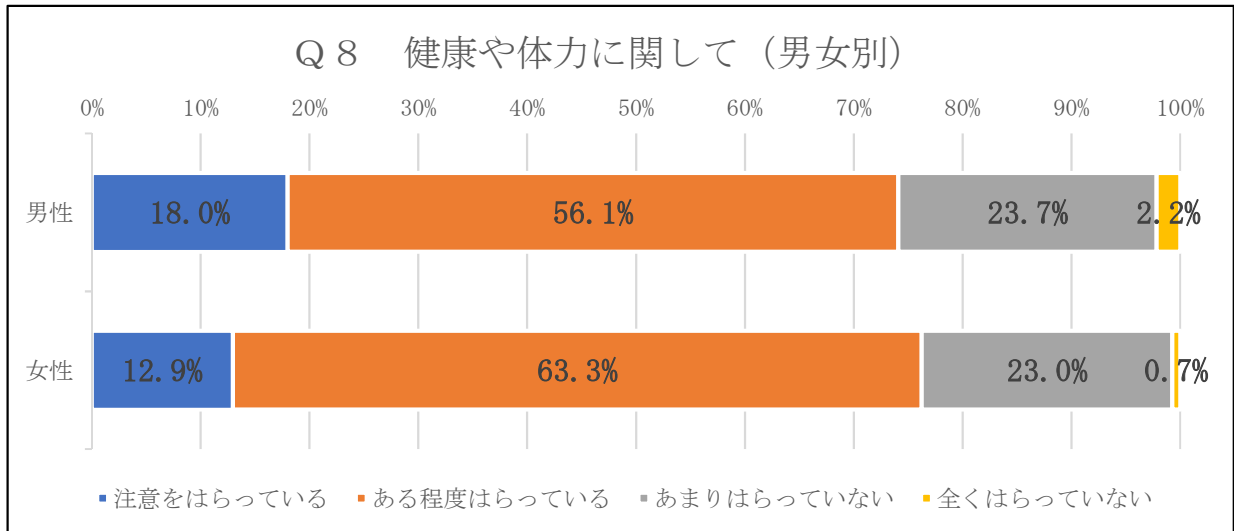
現在の健康状態を聞いたところ、「健康である」との割合が83.2%（「健康である」20.9%+「まあまあ健康である」62.3%）、「健康ではない」との割合が16.8%（「あまり健康ではない」15.2%+「健康ではない」1.6%）となっている。

性別にみると、男性は「健康である」と挙げた割合が82.4%（「健康である」20.4%+「まあまあ健康である」62%）で、女性は81.8%（「健康である」20.8%+「まあまあ健康である」61%）とほぼ同数であった。

年代別にみると、「あまり健康ではない」「健康ではない」と回答した男性40代・60代と女性60代の割合が30%を超えており、健康状態に不安がみられる。

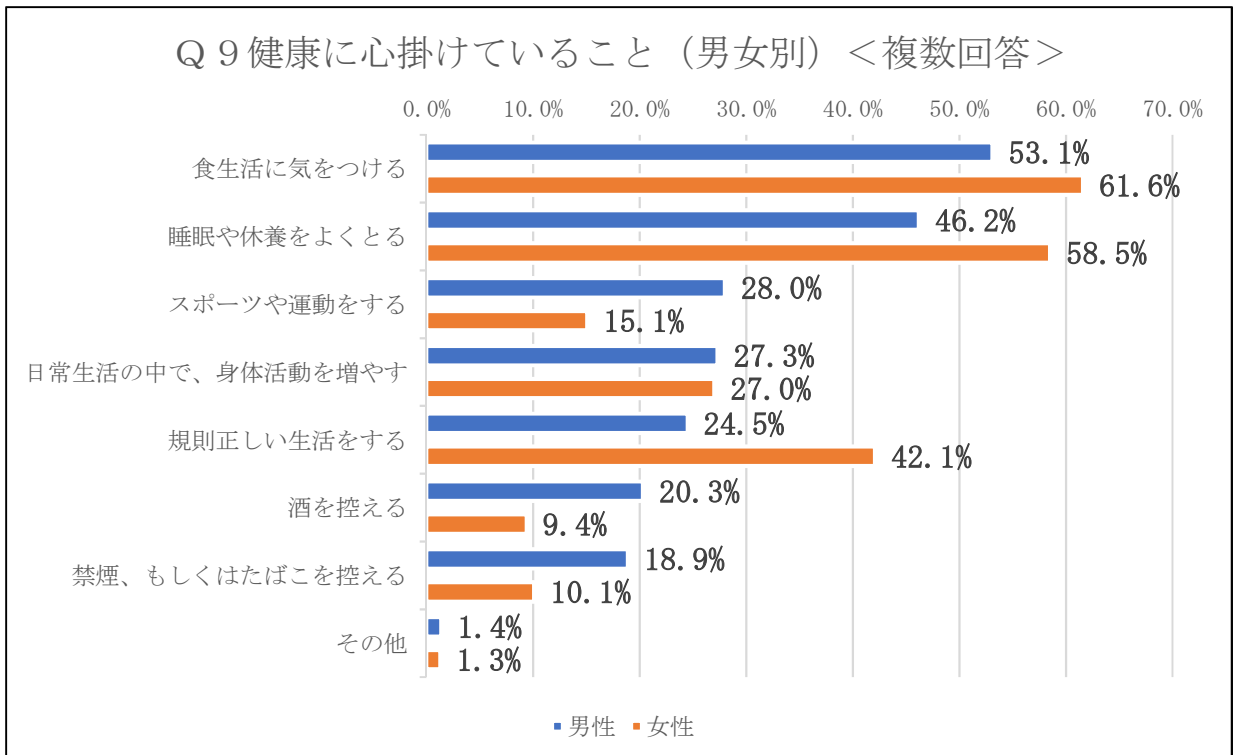
(2) 体力の自信と健康について



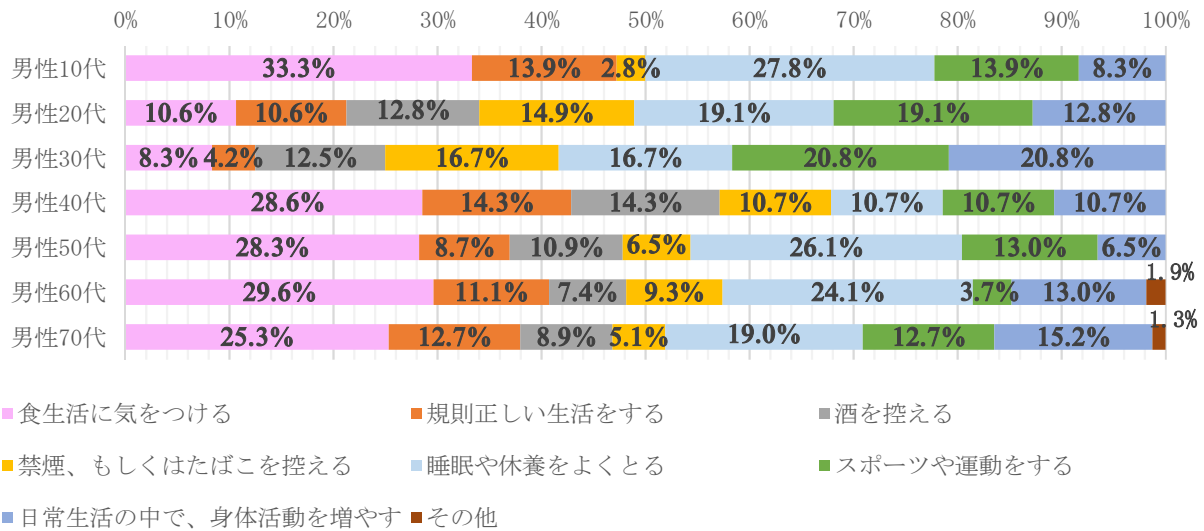


自分の体力に自信があるか聞いたところ、男性は「普通」以上と回答した割合が72%（「自信がある」10.8%＋「普通」61.2%）であったのに対し、女性は62.9%と約40%が体力に不安を感じている。また、男女とも健康や体力に関して注意をはらっていると答えた人は70%（「注意をはらっている」＋「ある程度はらっている」）を超えている。

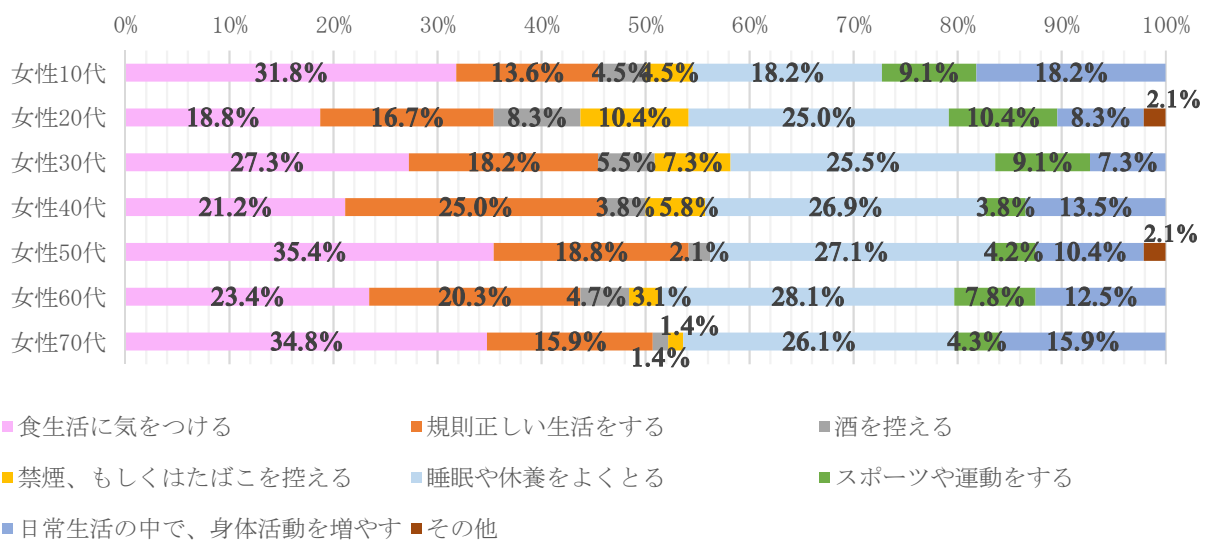
(3) 健康に関して心掛けていること



Q 9 健康に心掛けていること（男性）＜複数回答＞

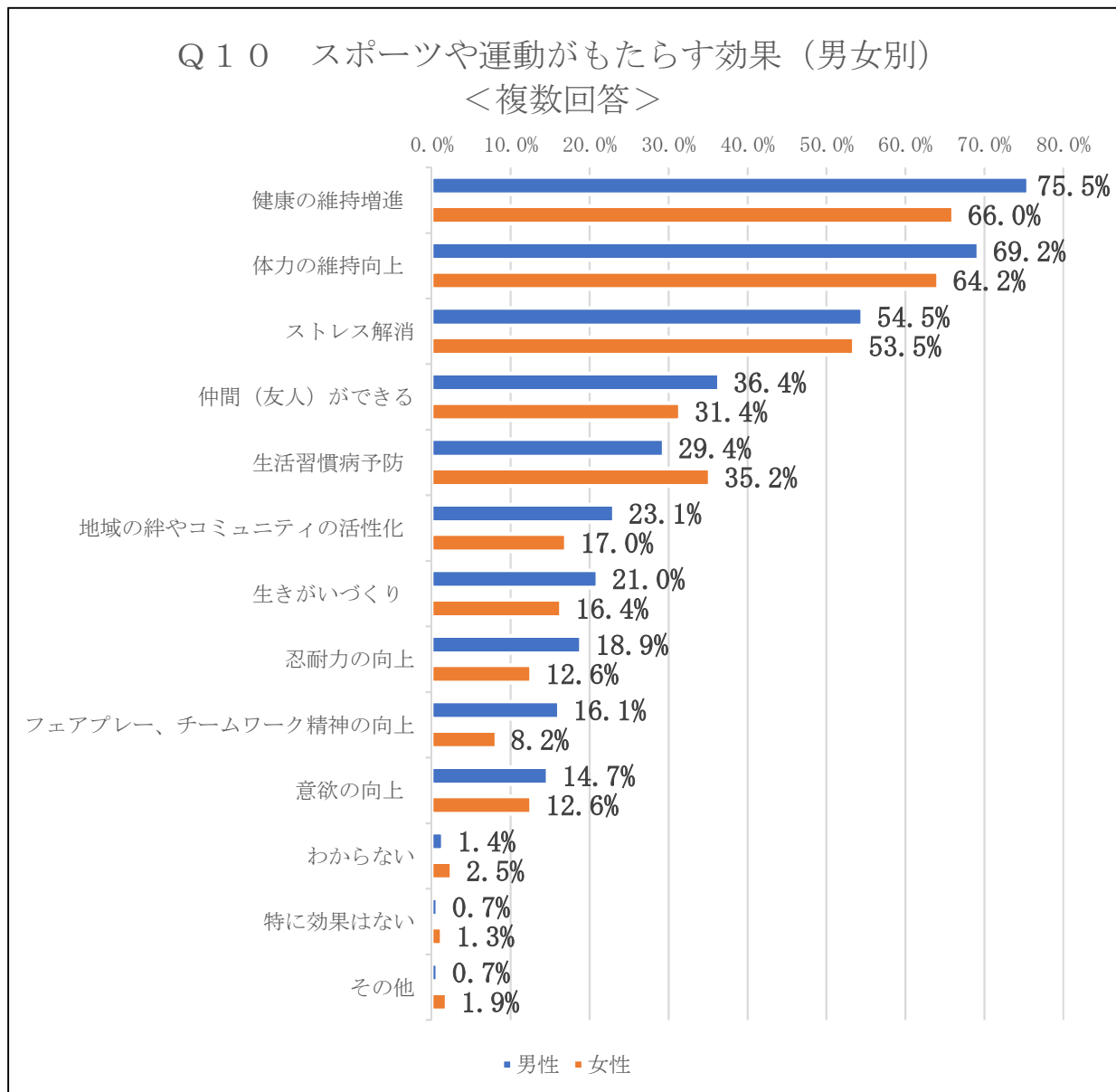


Q 9 健康に心掛けていること（女性）＜複数回答＞



健康や体力の維持、増進で心がけていることは何かを聞いたところ、男女ともに「食生活に気をつける」と「睡眠や休養をよくとる」を選択した割合が高く、スポーツや運動を選択する割合より高い傾向がある。

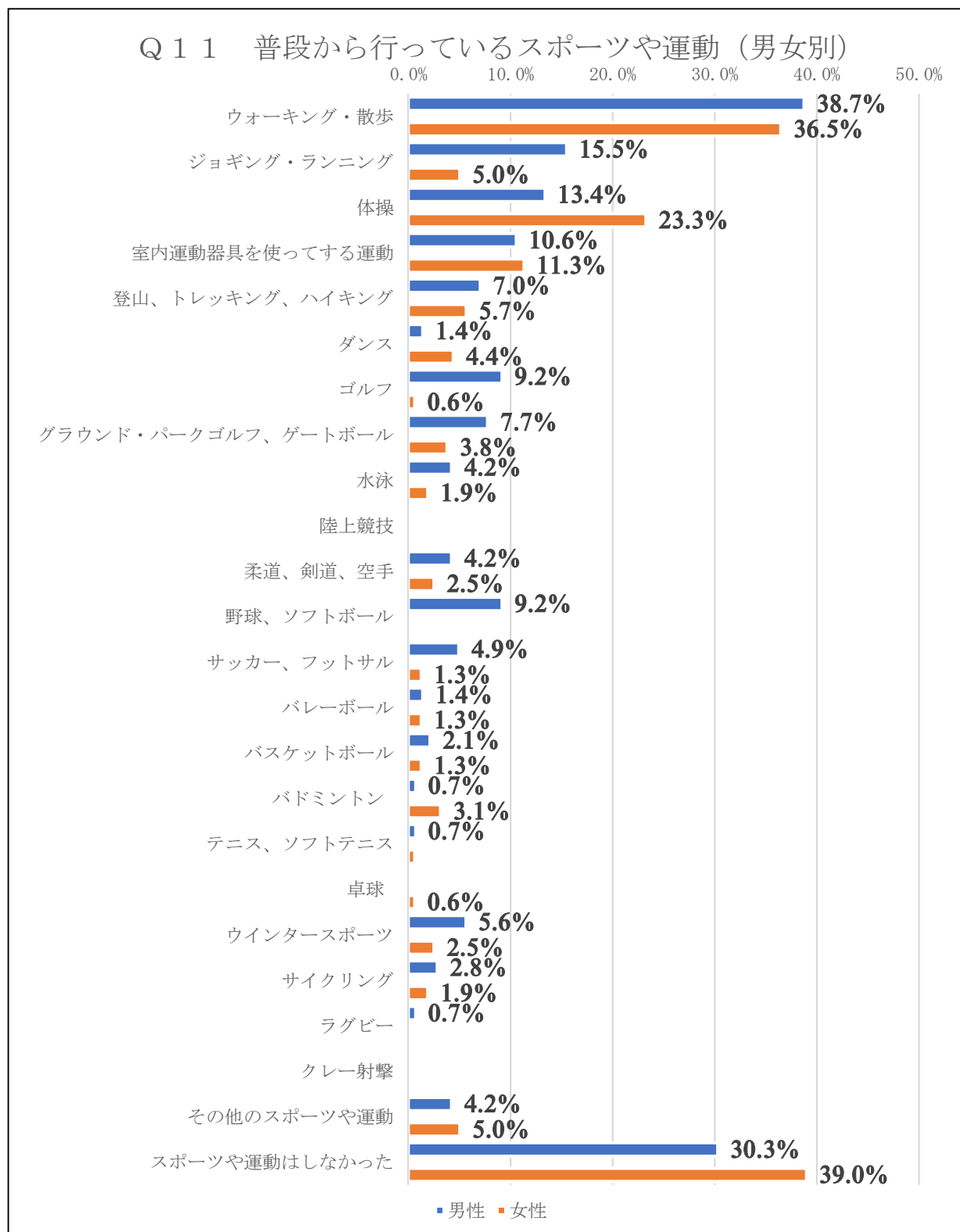
2. スポーツ・運動に関して
 (1) スポーツ・運動に対する意識



スポーツや運動がもたらす効果を聞いたところ、男女ともに「健康の維持増進」と「体力の維持向上」を6割以上が回答し、健康や体力に効果を感じる者が多い。次いで、「ストレス解消」、「仲間（友人）ができる」、「生活習慣病予防」と続いている。

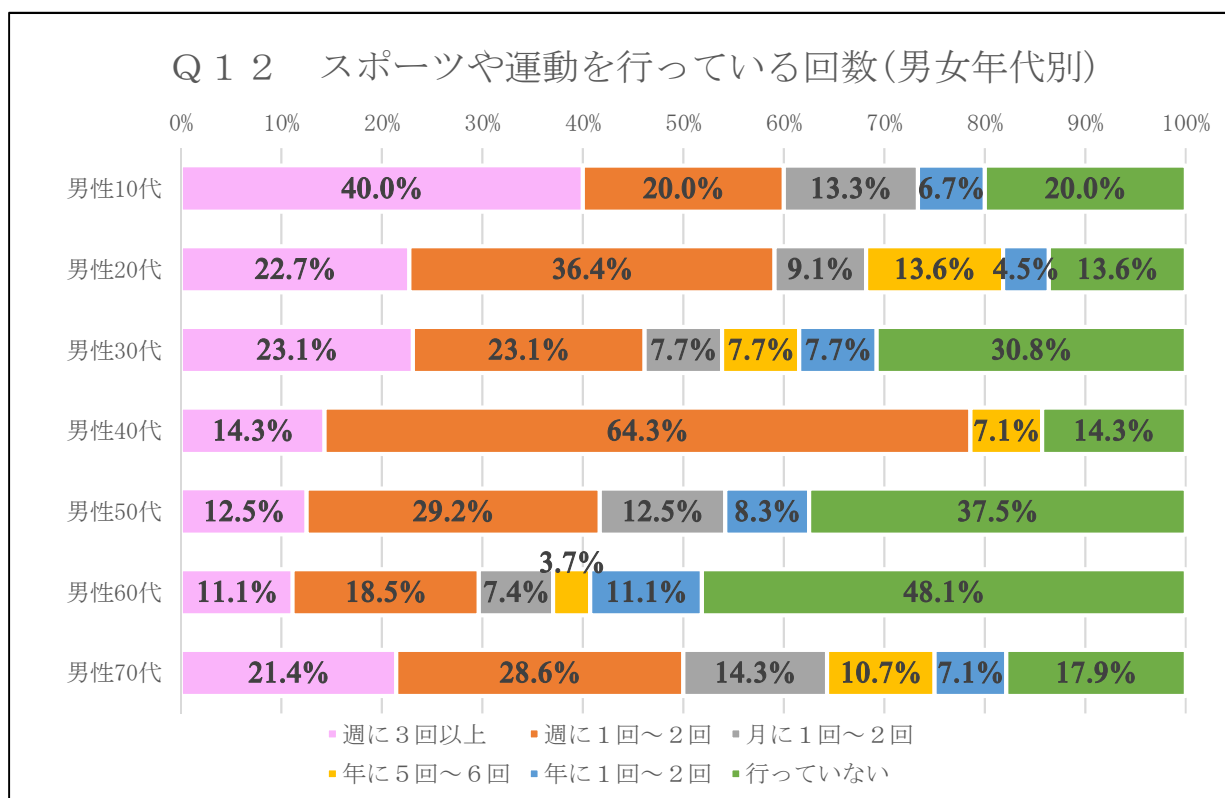
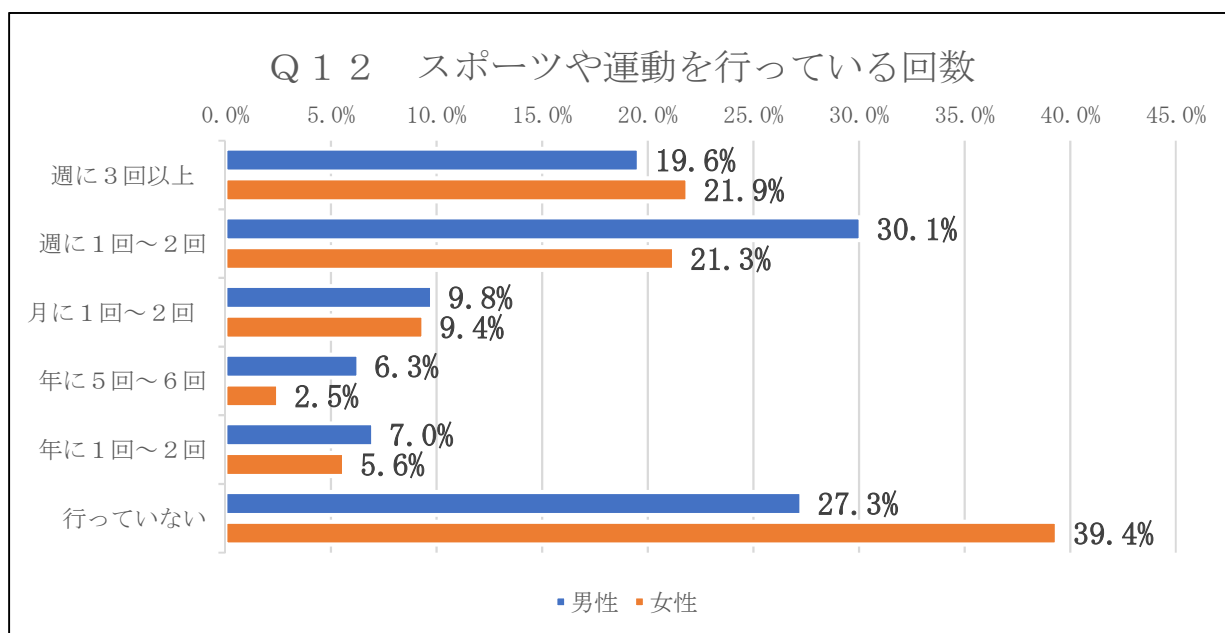
2019年に実施されたスポーツ庁による「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（以下、「2019年スポーツ庁世論調査」と略す。）では、「健康・体力の保持増進」を挙げた者の割合が74.4%と最も高く、次いで「人と人との交流」（51.1%）、「精神的な充足感」（44.5%）の順となっており、本調査結果と「健康・体力の維持増進」のみが同様の傾向にあり、その他の項目については異なる傾向にある。

(2) コロナ前（令和元年度以前）における、スポーツや運動の実施状況について

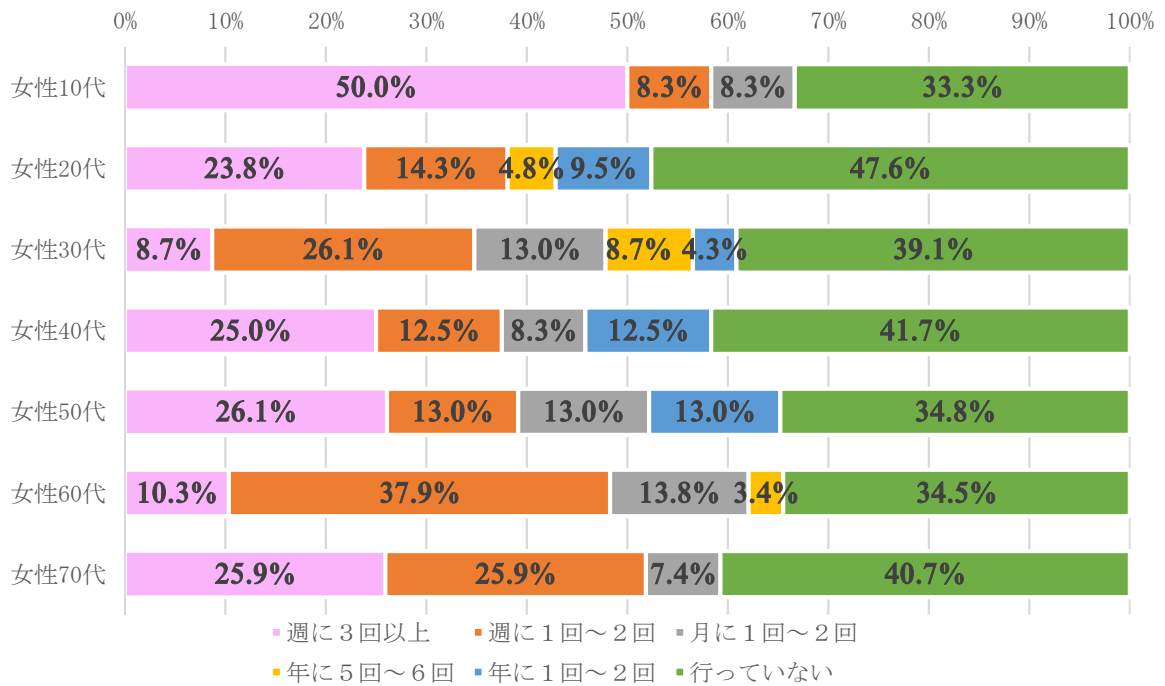


新型コロナウイルス感染症流行前（以下、「令和元年以前」と略す）に行っていたスポーツや運動を聞いたところ、男女ともに「スポーツや運動はしなかった」と答えた人の割合は30%を超えている。

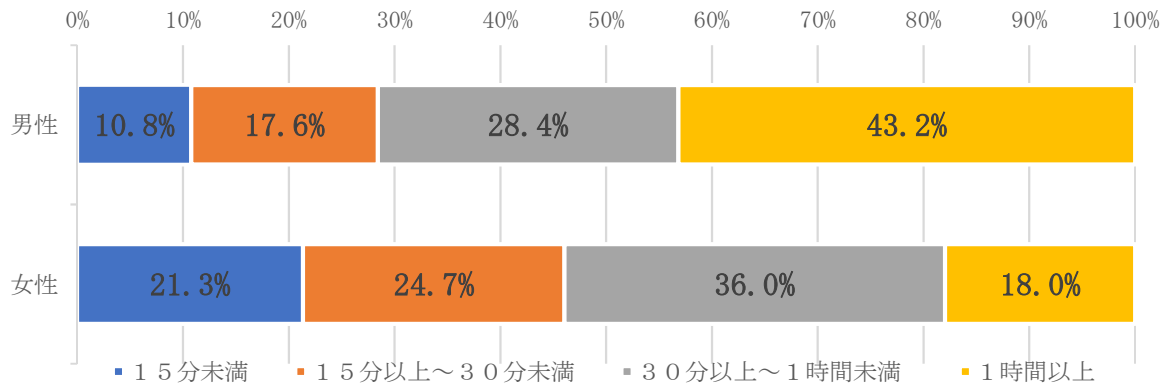
また、令和元年以前に行っていたスポーツや運動の種目については、「ウォーキング・散歩」を挙げた割合が男女ともに30%を超えて最も高く、次いで男性は「ジョギング・ランニング」（15.5%）、「体操」（13.4%）、「室内器具運動を使っている運動」（10.6%）の順となっており、次いで女性は「体操」（23.3%）、「室内器具運動を使っている運動」（11.3%）、「登山・トレッキング・ハイキング」（5.7%）の順となっている。

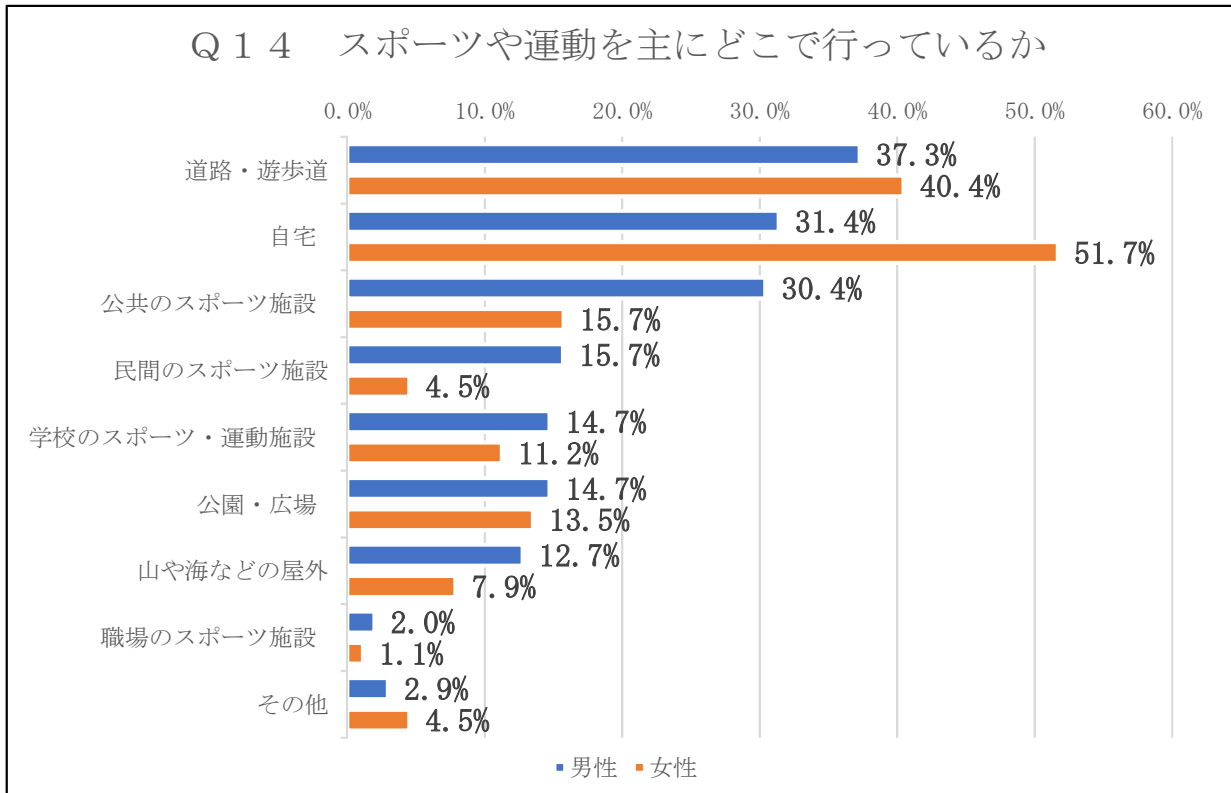


Q 1 2 スポーツや運動を行っている回数(男女年代別)



Q 1 3 1回あたりのスポーツや運動を行う時間(男女別)

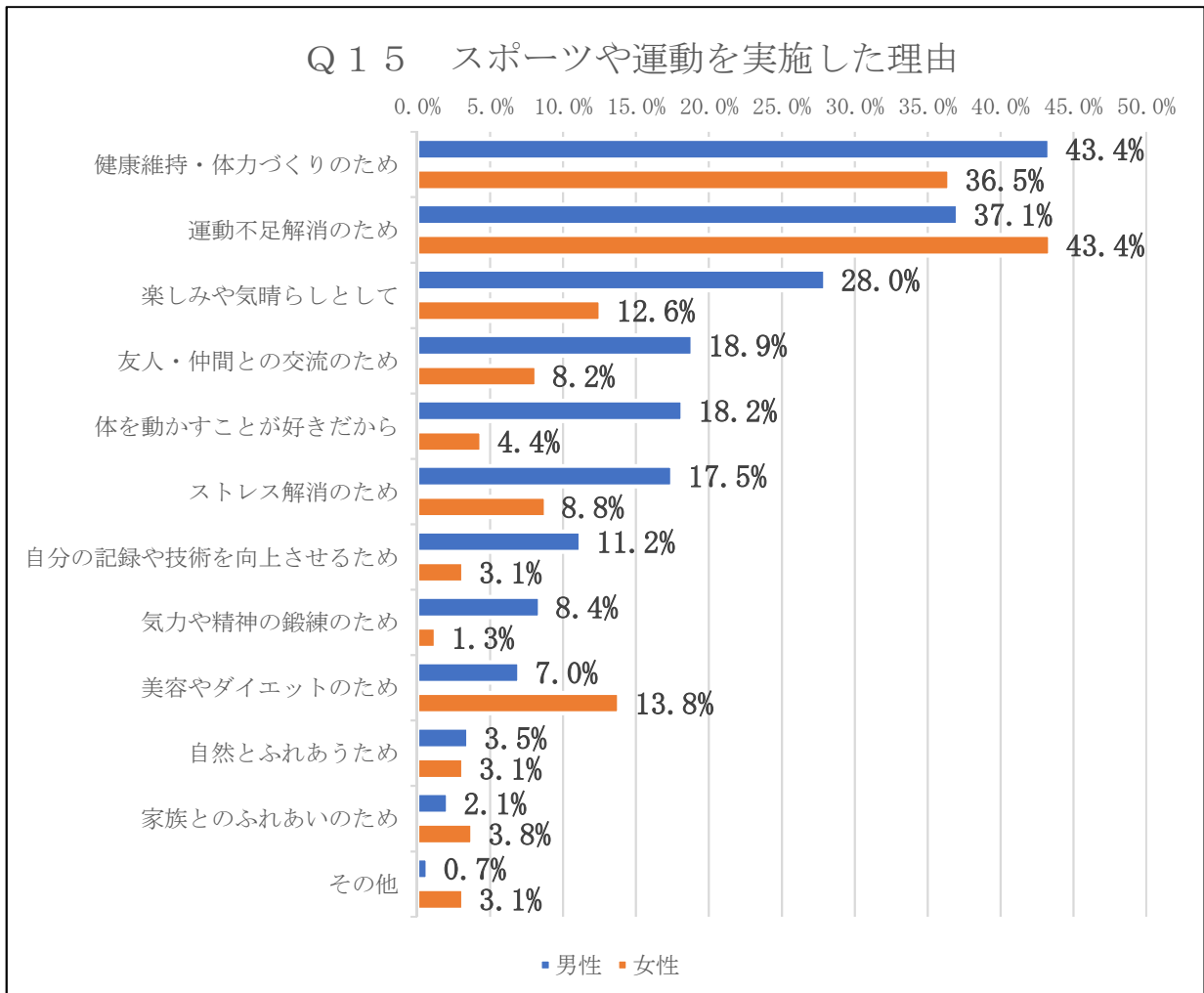




令和元年以前にスポーツや運動を行った回数を聞いたところ、週に1回以上と回答した割合は71.5%（「週に3回以上」31%＋「週に1～2回」40.5%）となっている。また、男女年代別にみると、男女ともに10代の「週に3回以上」と回答した割合が最も高い結果となり、週に1回以上と回答した割合は、男性40代が90.9%（「週3回以上」18.2%＋「週に1回～2回」72.7%）、女性70代が86.7%（「週3回以上」46.7%＋「週に1回～2回」40%）と最も高い結果となった。

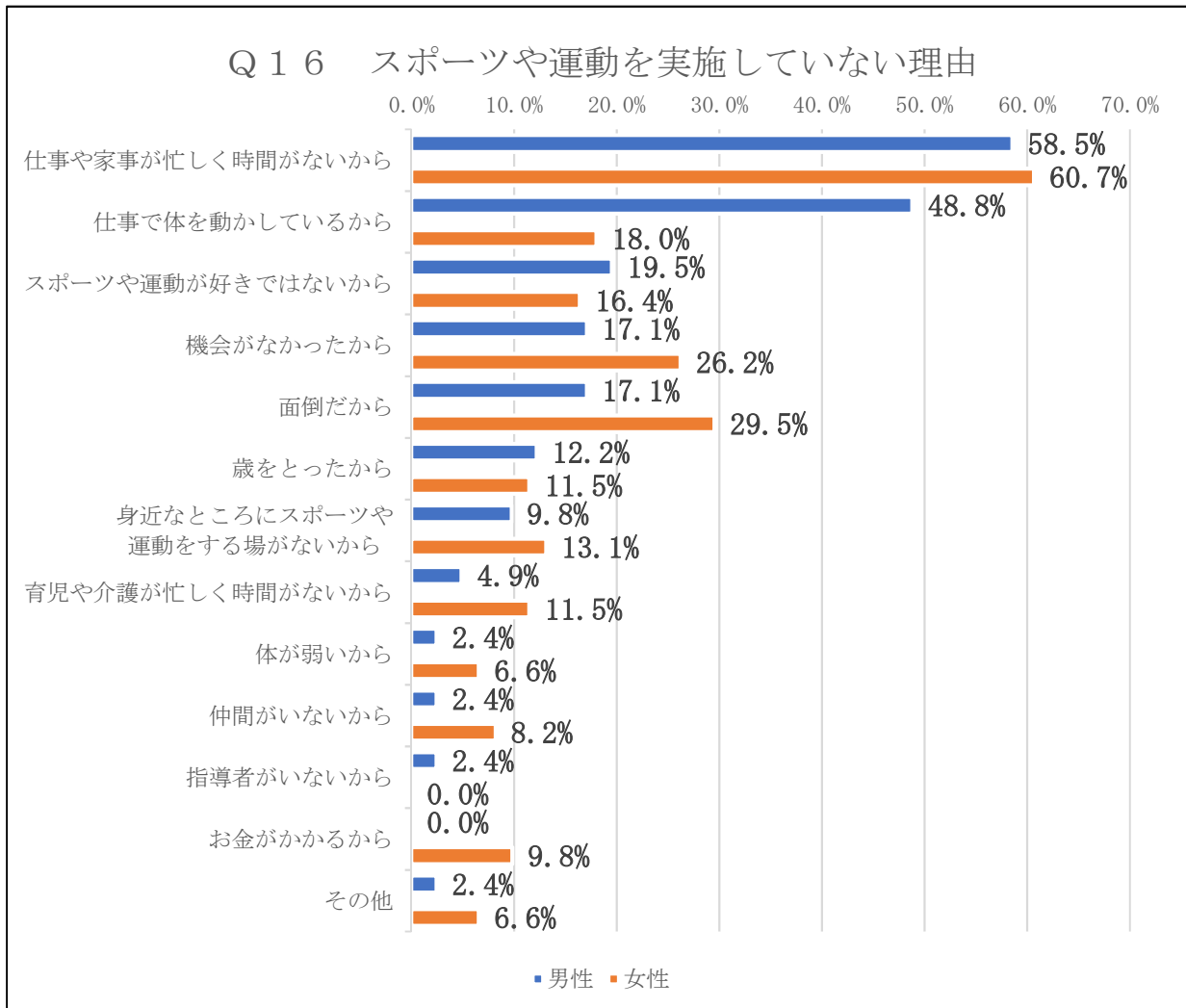
令和元年以前にスポーツや運動を行った時間やどこで行ったかを聞いたところ、1時間未満と回答した割合が男性が約50%なのに対し、女性は約80%と運動する時間が短い傾向にある。また、スポーツや運動をどこで行うかという問に対し、男性は「道路・遊歩道」と挙げた割合が37.3%と最も高く、女性は「自宅」が51.7%と最も高い結果となった。

(3) スポーツや運動を実施した理由



令和元年以前に、スポーツや運動を実施した理由について聞いたところ、男性は「健康維持・体力づくりのため」と回答した割合が43.4%と最も高く、次いで「運動不足解消のため」(37.1%)、「楽しみや気晴らしとして」(28%)、「友人・仲間との交流のため」(18.9%)、「体を動かすことが好きだから」(18.2%)の順となっている。女性は「運動不足解消のため」と回答した割合が43.4%と最も高く、次いで「健康維持・体力づくりのため」(36.5%)、「美容やダイエットのため」(13.8%)、「楽しみや気晴らしとして」(12.6%)、「ストレス解消のため」(8.8%)の順となっている。

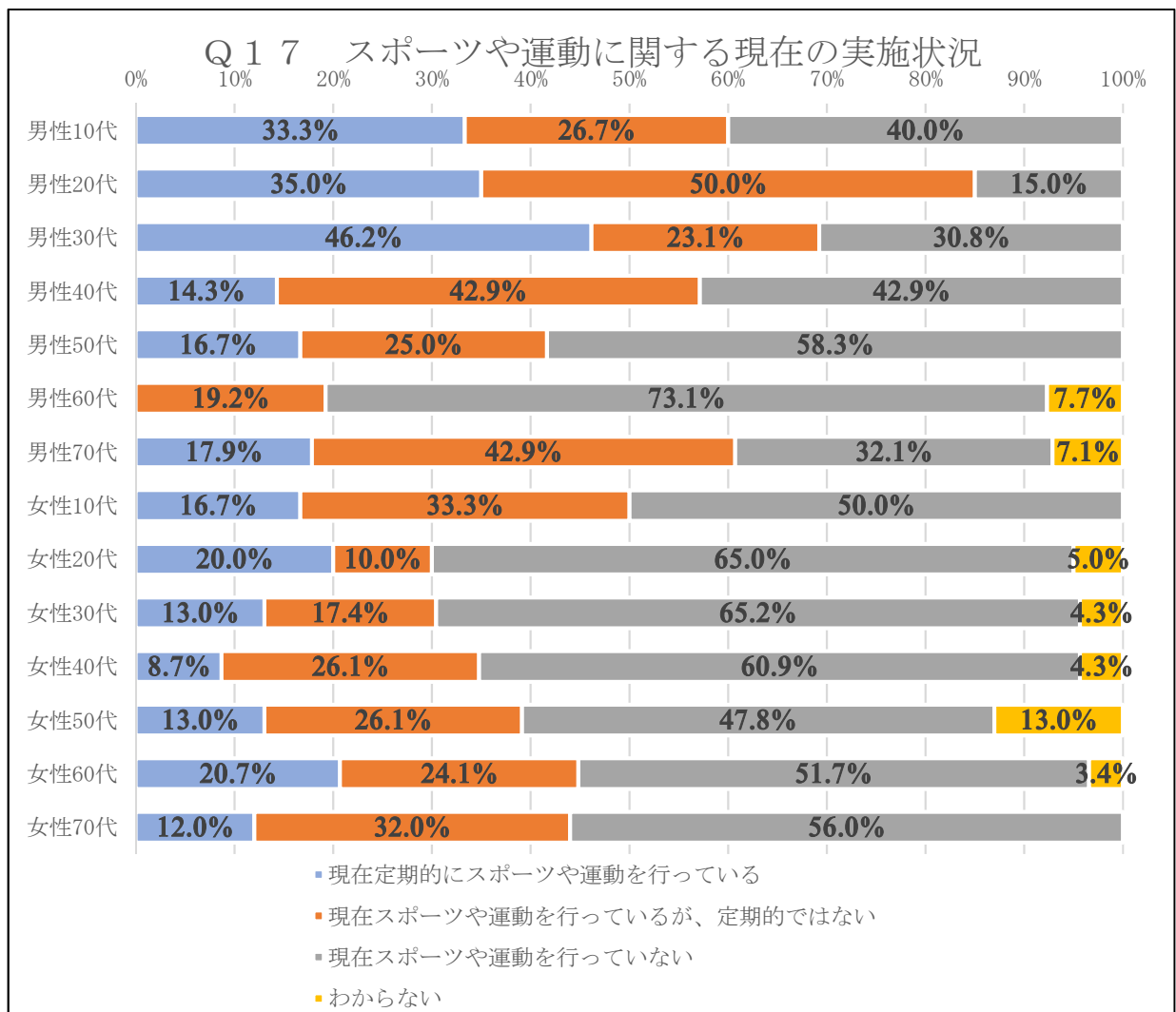
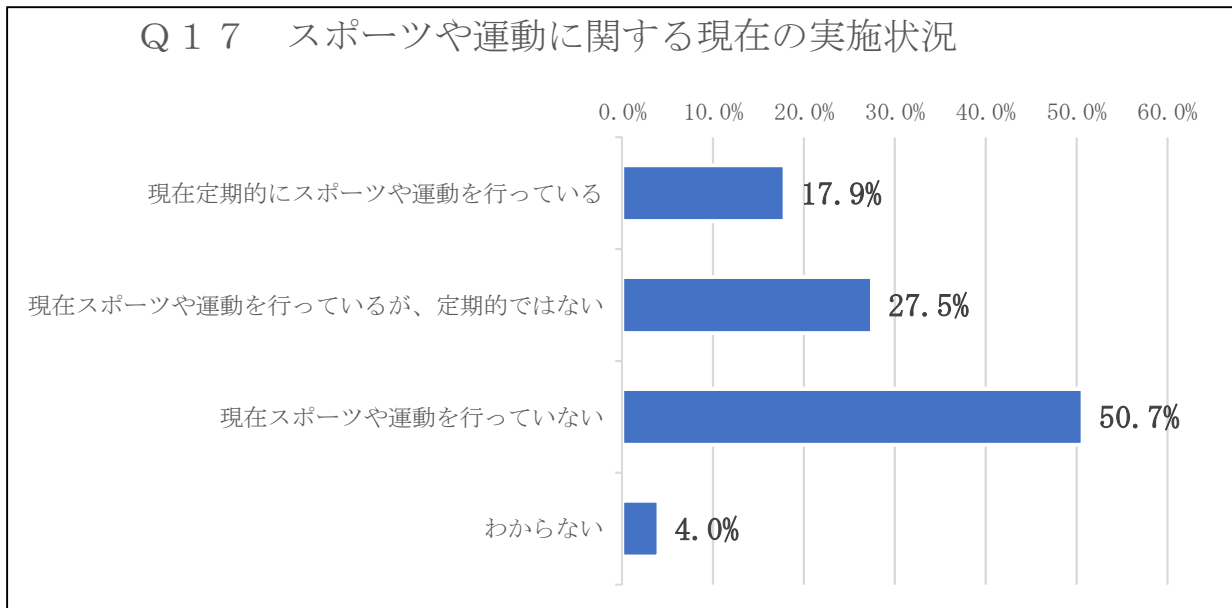
(4) スポーツや運動を実施していない理由



令和元年以前にスポーツや運動を実施していなかった理由について聞いたところ、男女ともに「仕事や家事が忙しく時間がないから」と回答した割合が約60%と最も高くなっている。また、次いで男性は「仕事で体を動かしているから」を挙げた割合が48.8%であるのに対し、女性は「面倒だから」を挙げた割合が29.5%となっており、女性のスポーツや運動離れが危惧される結果となった。

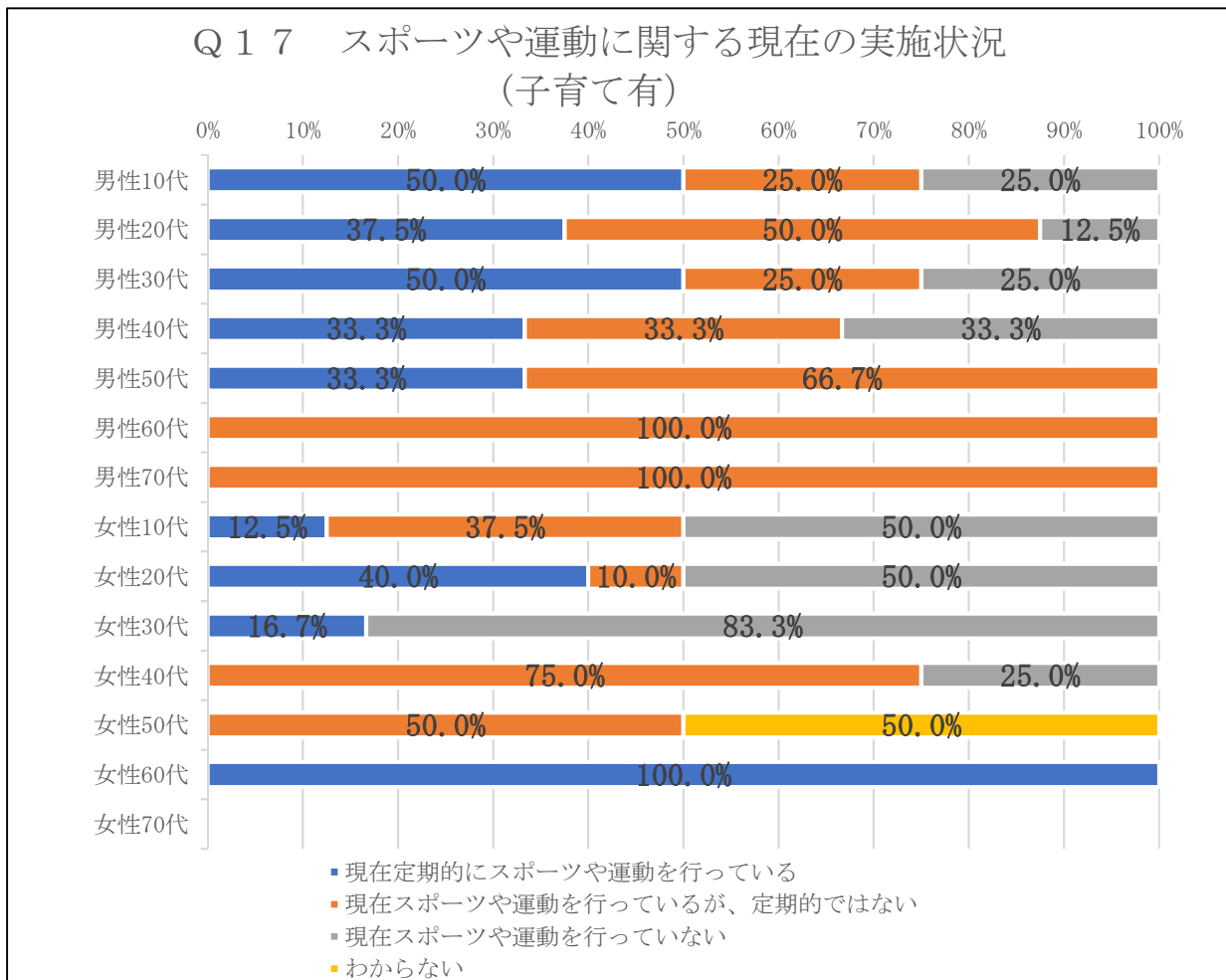
2018年スポーツ庁世論調査における運動・スポーツの阻害要因として、「仕事や家事が忙しいから」を挙げた者の割合が43.7%で最も高く、次いで「面倒くさいから」(27.5%)、「年を取ったから」(24.6%)、「お金に余裕がないから」(16.5%)、「特に理由はない」(14.3%)の順となっている。

(5) スポーツや運動に関する現在の実施状況

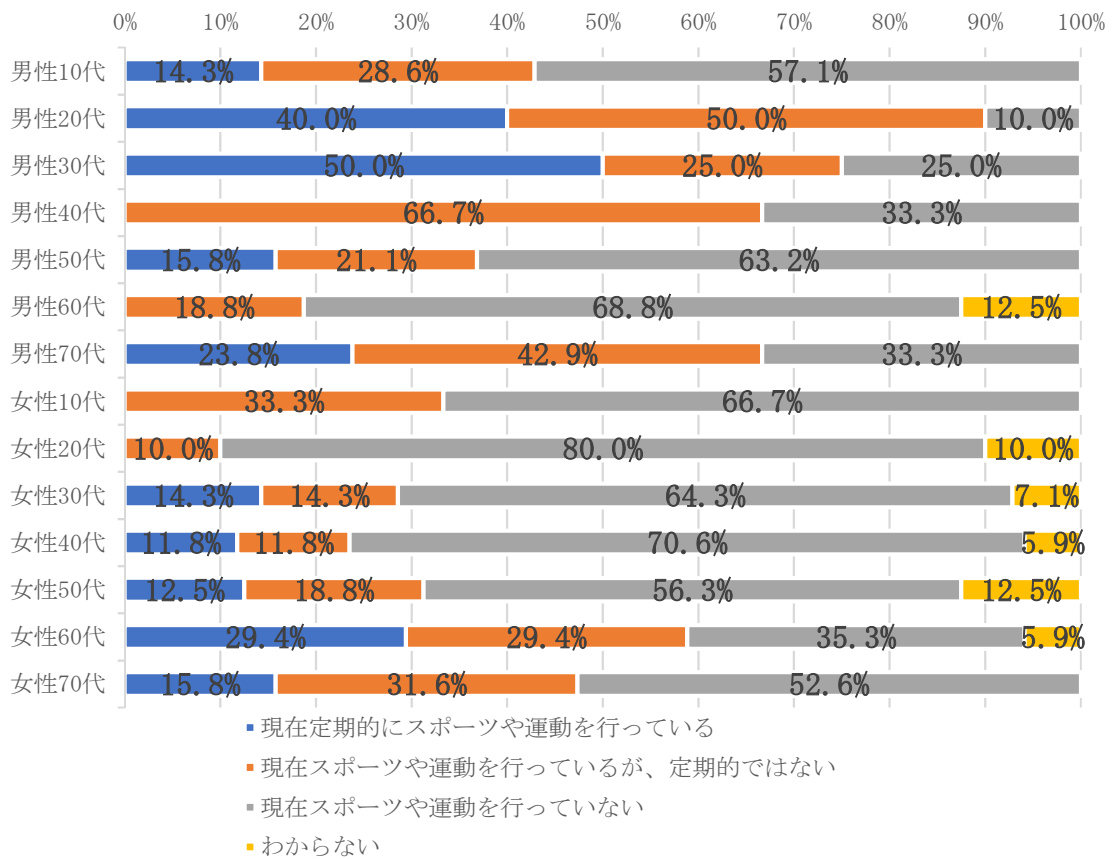


コロナ禍において、スポーツや運動を行っていない割合は50.7%と最も高いが、男女年代別にみると、男性は10代から40代と70代の半数以上が現在もスポーツや運動を行っているのに比べ、女性は10代のみ半数以上がスポーツや運動を行っている。

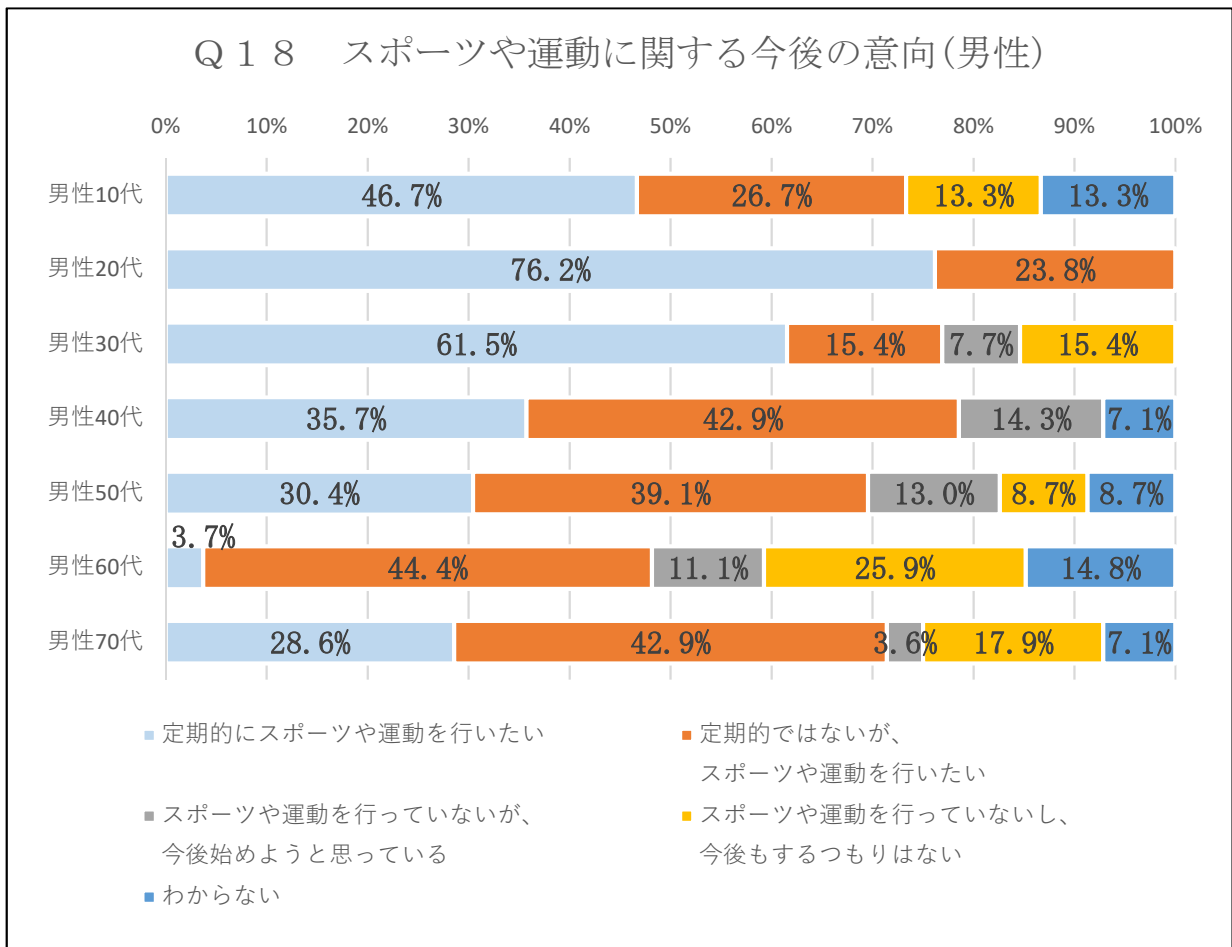
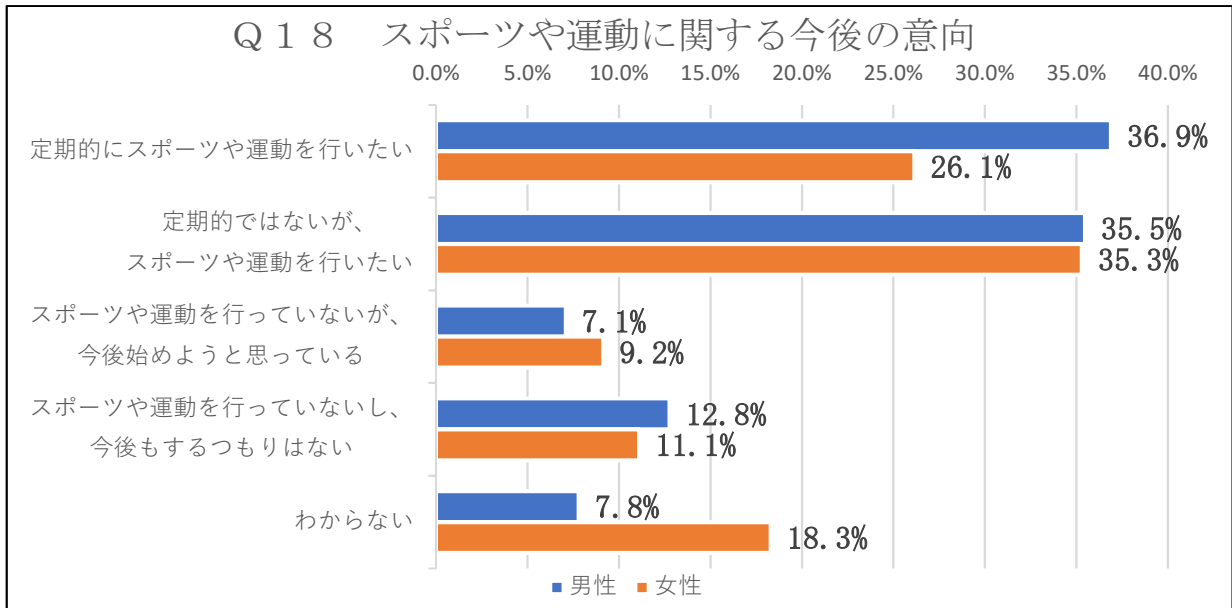
下記の2つのグラフは、問5「あなたは現在、子育てもしくは介護をしていますか。」で【子育て中である】と【子育て中ではない】の回答と、問17「あなたのスポーツや運動に関する現在の実施状況について最もあてはまるものはどれですか。」の回答をクロス集計したものである。



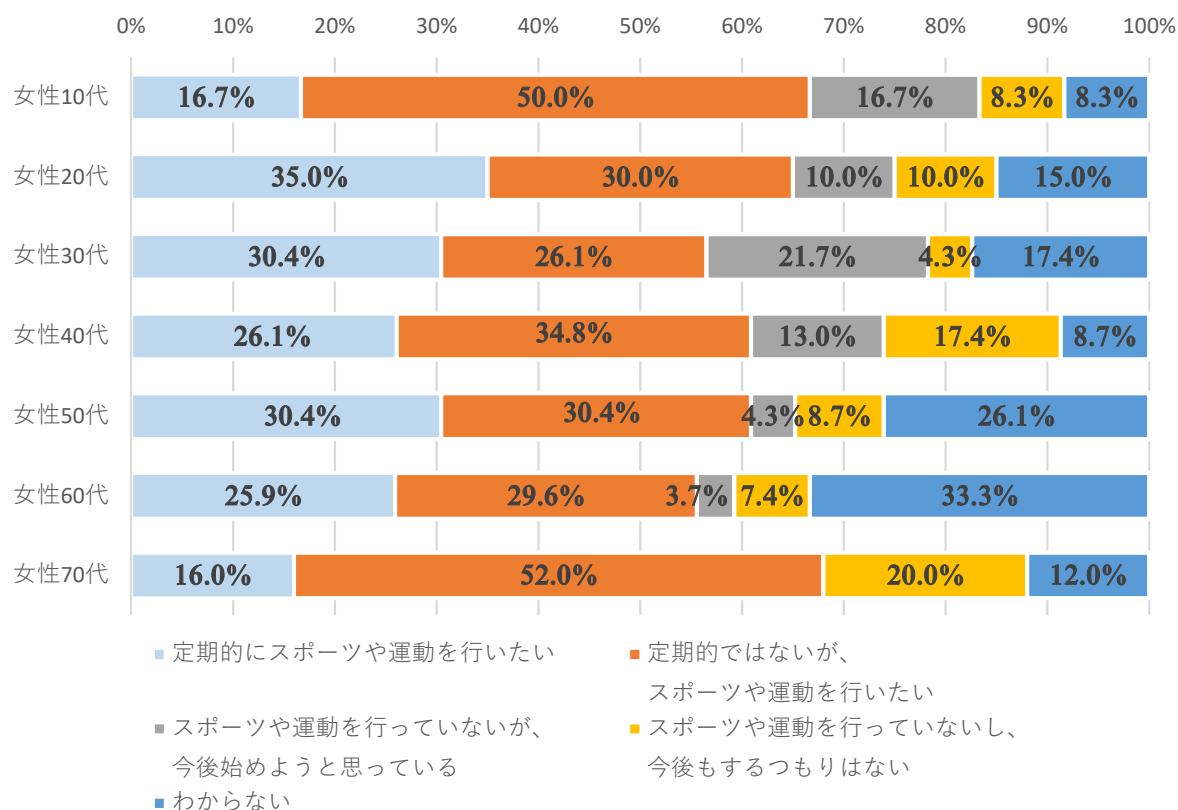
Q 1 7 スポーツや運動に関する現在の実施状況
(子育て無)



(6) スポーツや運動に関する今後の意向



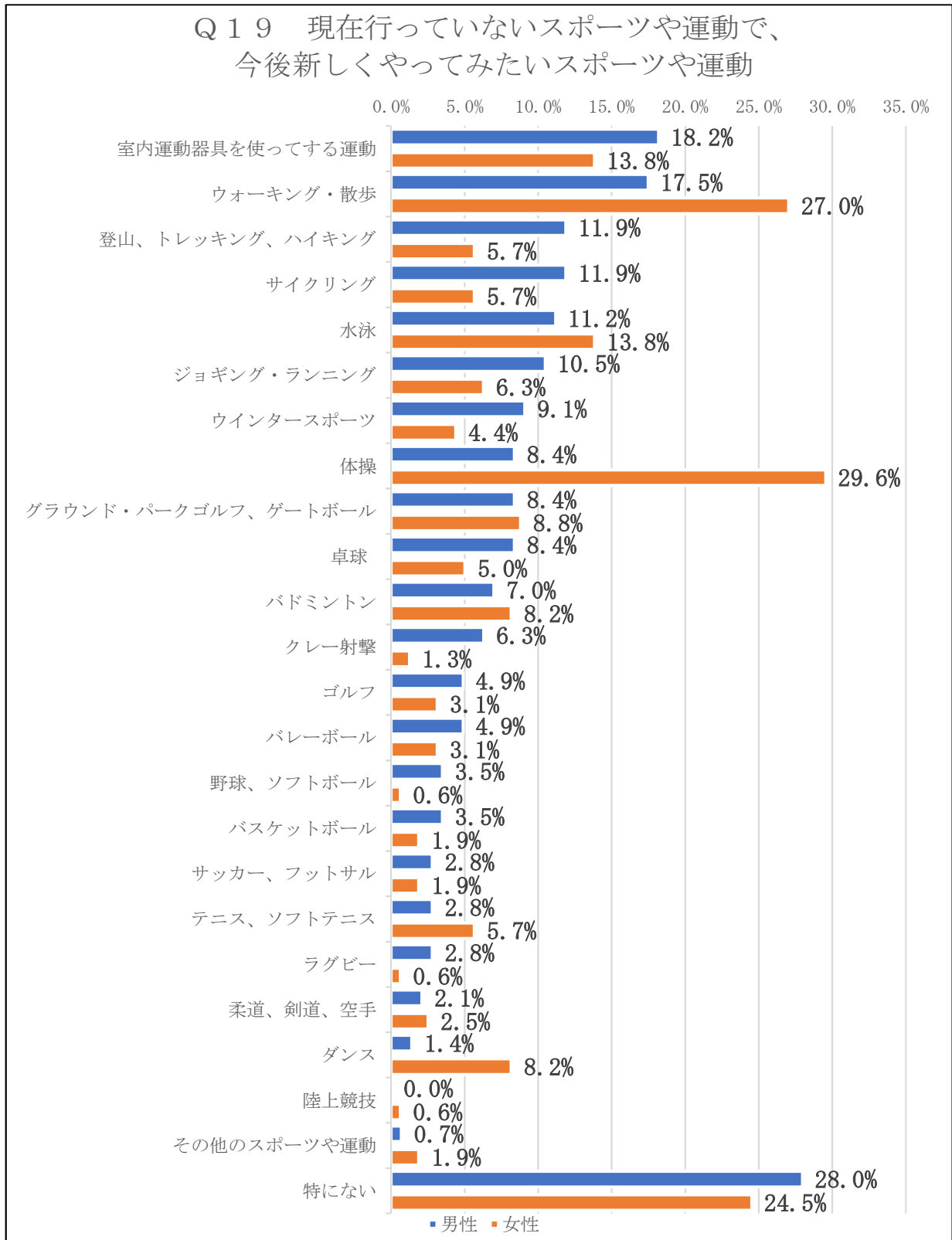
Q18 スポーツや運動に関する今後の意向(女性)



スポーツや運動に関する今後の意向について聞いたところ、スポーツや運動を行いたい（「定期的に行いたい」＋「定期的ではないが、スポーツや運動を行いたい」＋「行っていないが、今後始めようと思っている」）と回答した割合は男性が79.5%、女性が70.6%と高い傾向にある。

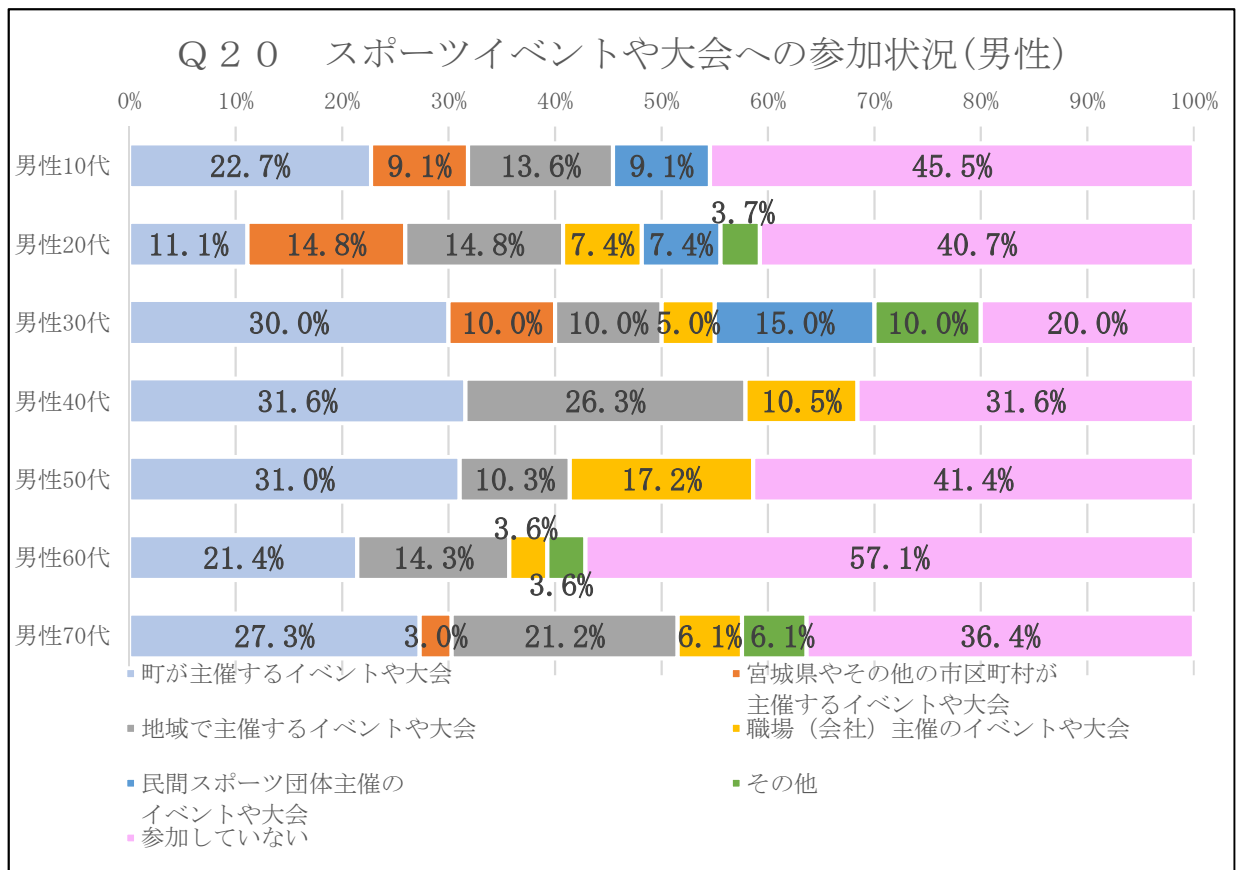
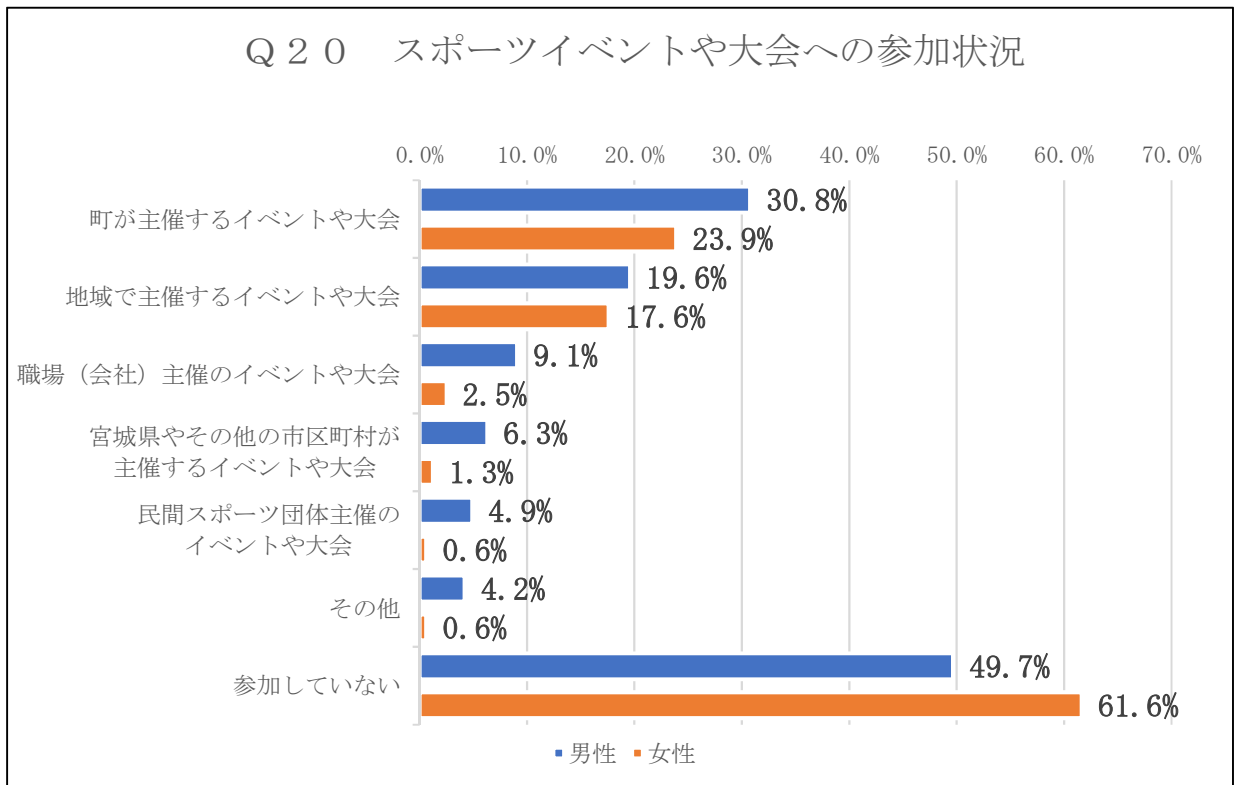
男女年代別にみると、男性20代は回答者全員がスポーツや運動を行いたいと回答しているのに対し、今後スポーツや運動を行う予定はない（「行っていないし、今後するつもりはない」＋「わからない」）と答えた割合が、男性60代と女性60代ともに40.7%と高い傾向にある。

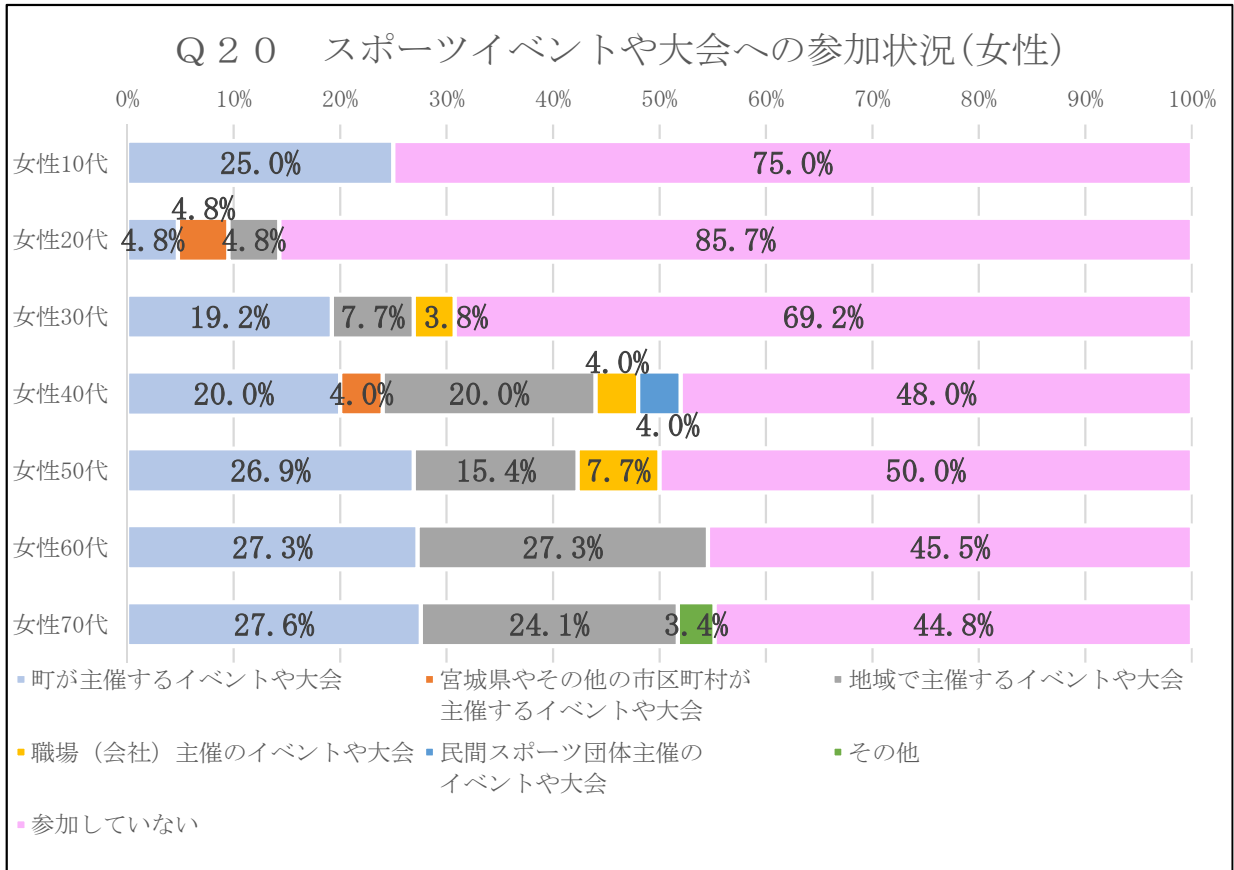
(7) 今後新しくやってみたいスポーツや運動



今後新しくやってみたいスポーツを聞いたところ、「ウォーキング・散歩」が27.0%と最も高く、次いで「体操」（29.6%）、「室内運動器具を使ってする運動」（18.2%）、「水泳」（14.2%）、「サイクリング」（10.3%）の順となっている。

3. スポーツイベントやスポーツボランティアについて
 (1) スポーツイベントや大会への参加状況

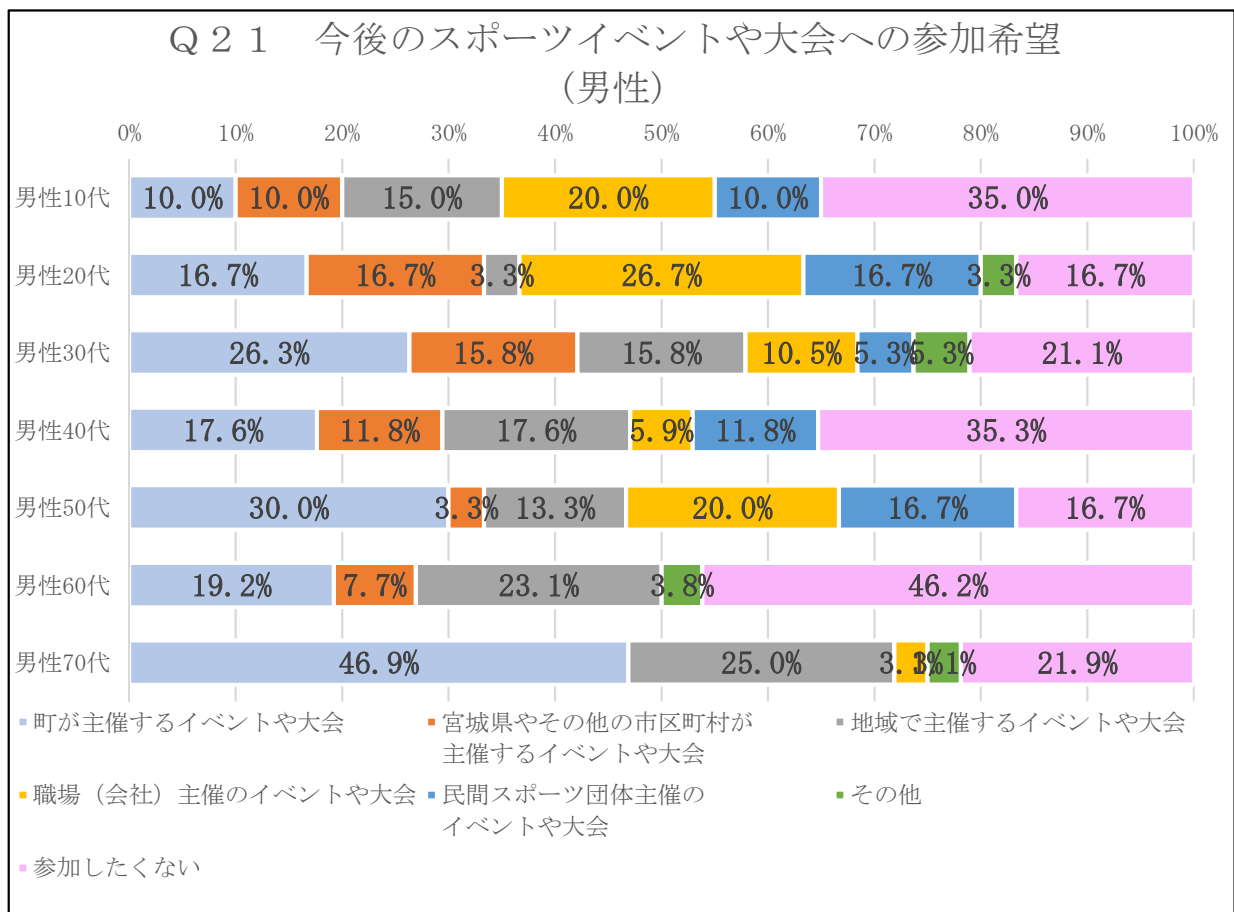
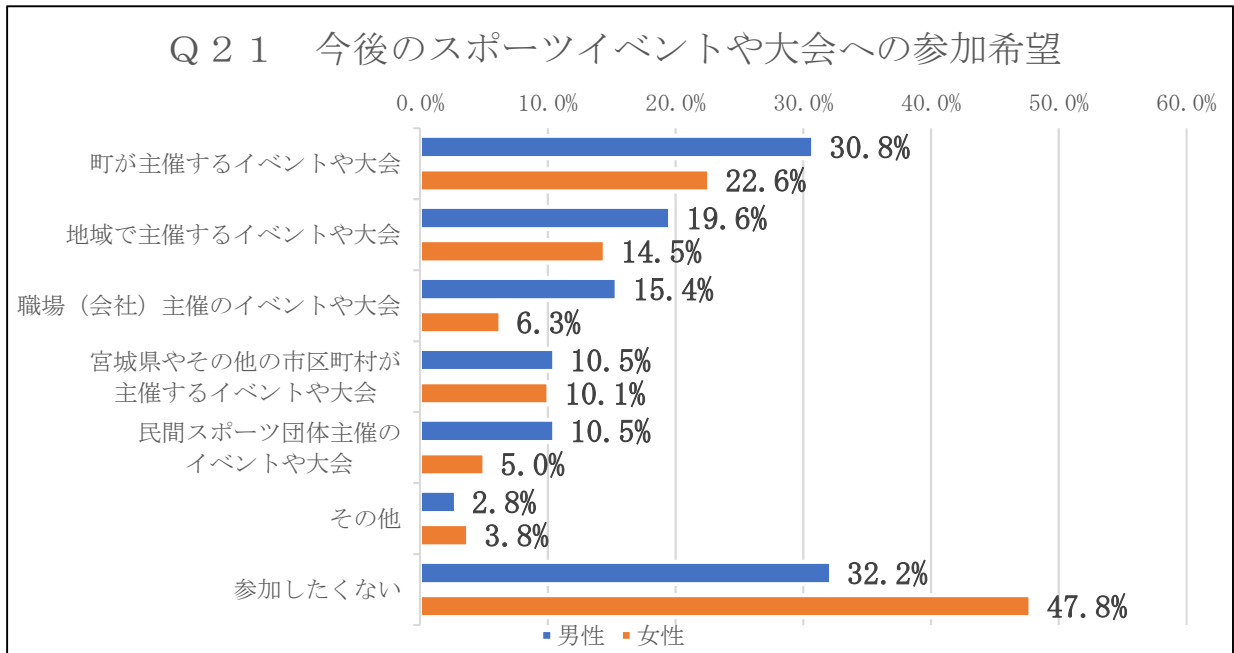




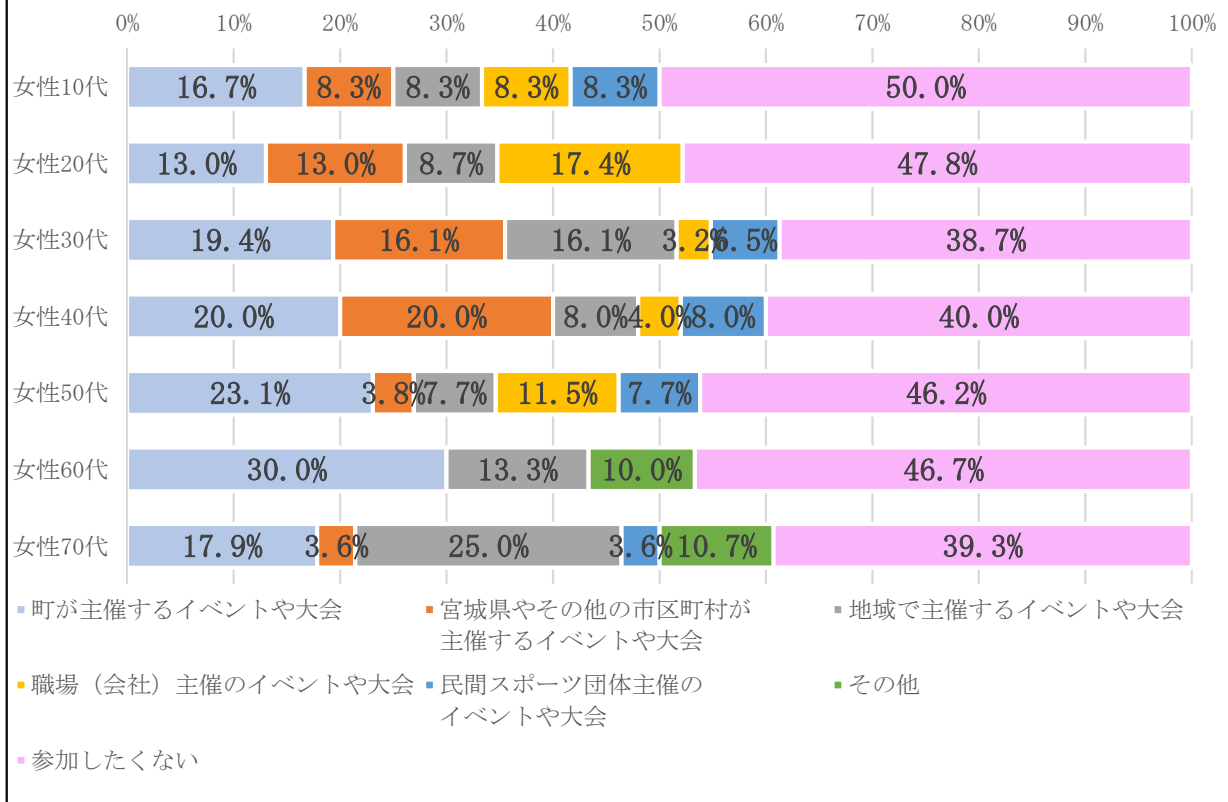
スポーツイベントや大会への参加状況を聞いたところ、女性の「参加していない」と回答した割合が61.6%と高い傾向にあり、スポーツイベントや大会への参加が消極的であるのが懸念される。

男女年代別にみると、男性は中年層がスポーツイベントや大会へ参加していると挙げた割合50%を超えているのに対し、女性は10代・20代・30代・50代が「参加していない」と回答した割合が50%を超えている。

(3) 今後参加したいスポーツイベントや大会



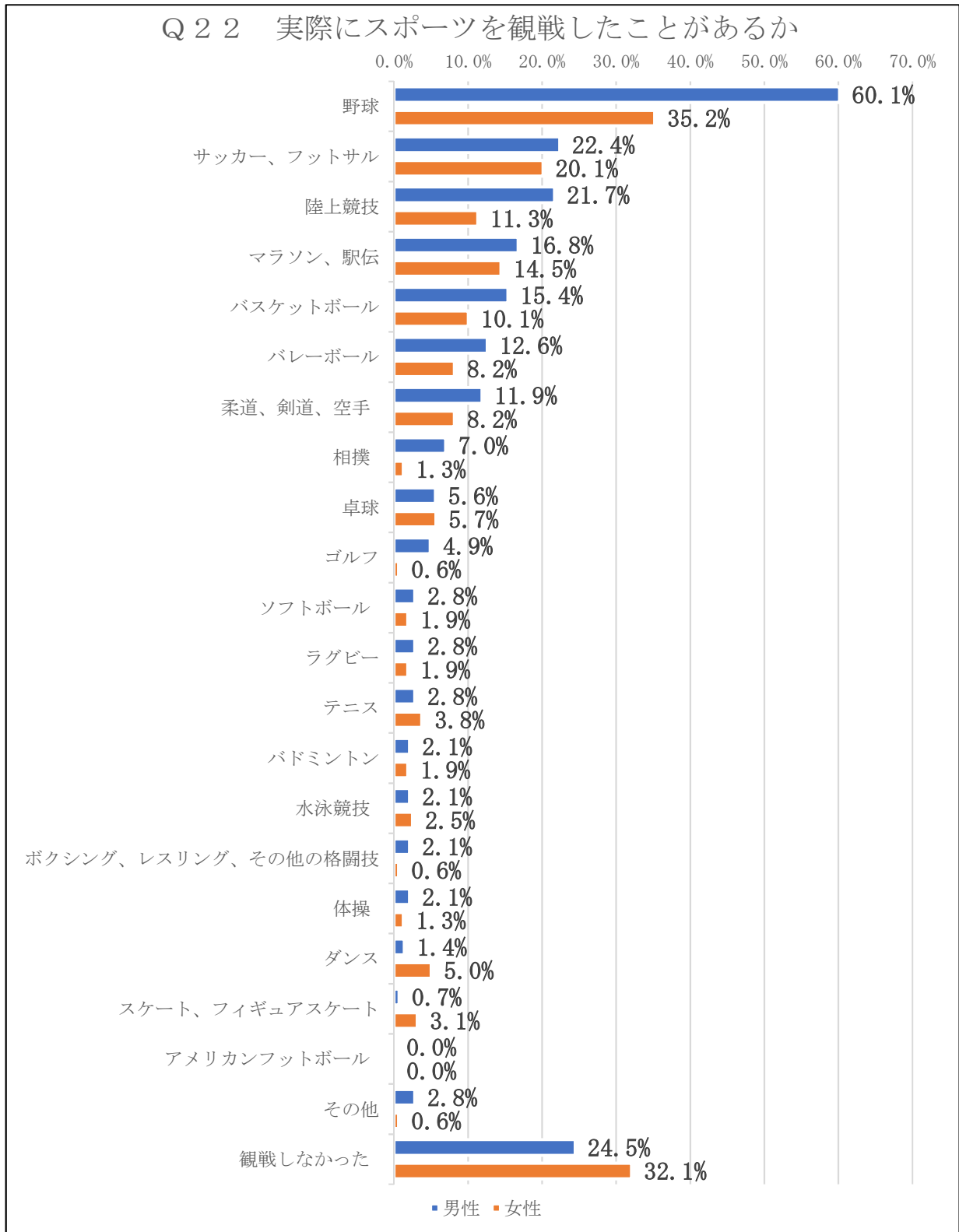
Q 2 1 今後のスポーツイベントや大会への参加希望 (女性)



今後参加したいスポーツイベントや大会について聞いたところ、問20での現在の参加状況と比較し「地域で主催するイベントや大会」を除いた参加したい意向の項目を挙げた人の割合が高まっている。

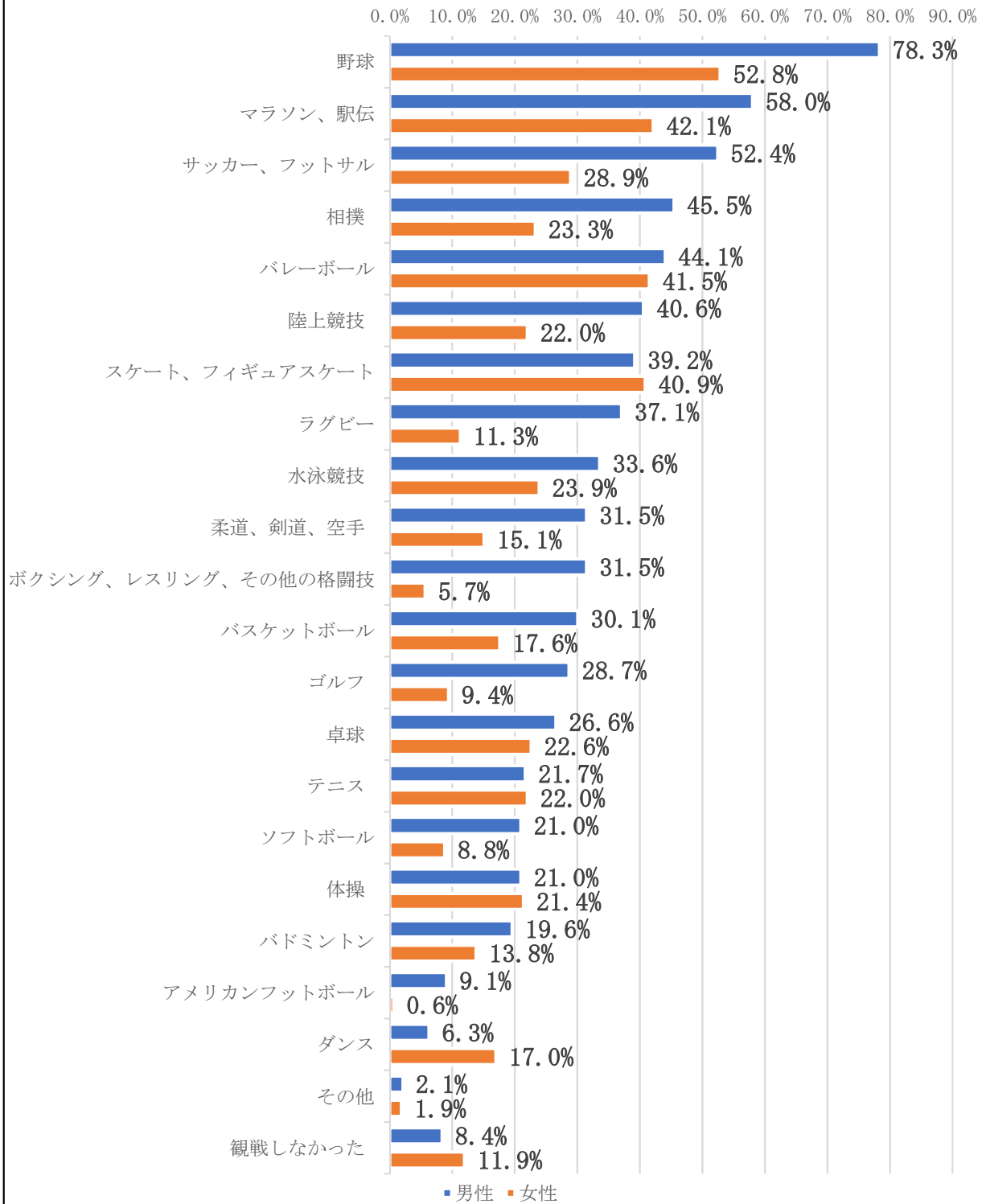
男女年代別に問20と比較すると、男性の若年層が「職場（会社）主催のイベントや大会」に参加したい意向の割合が高まっているのに対し、高齢層はより「町が主催するイベントや大会」と「地域で主催するイベントや大会」に参加したいと挙げている人の割合が高まっている。女性については、若年層が何らかのスポーツイベントや大会に参加したいと挙げている人の割合が問20より増えているのに対し、60代以上の回答者が「参加したくない」と挙げた割合が高まっている。

(4) スポーツの観戦状況



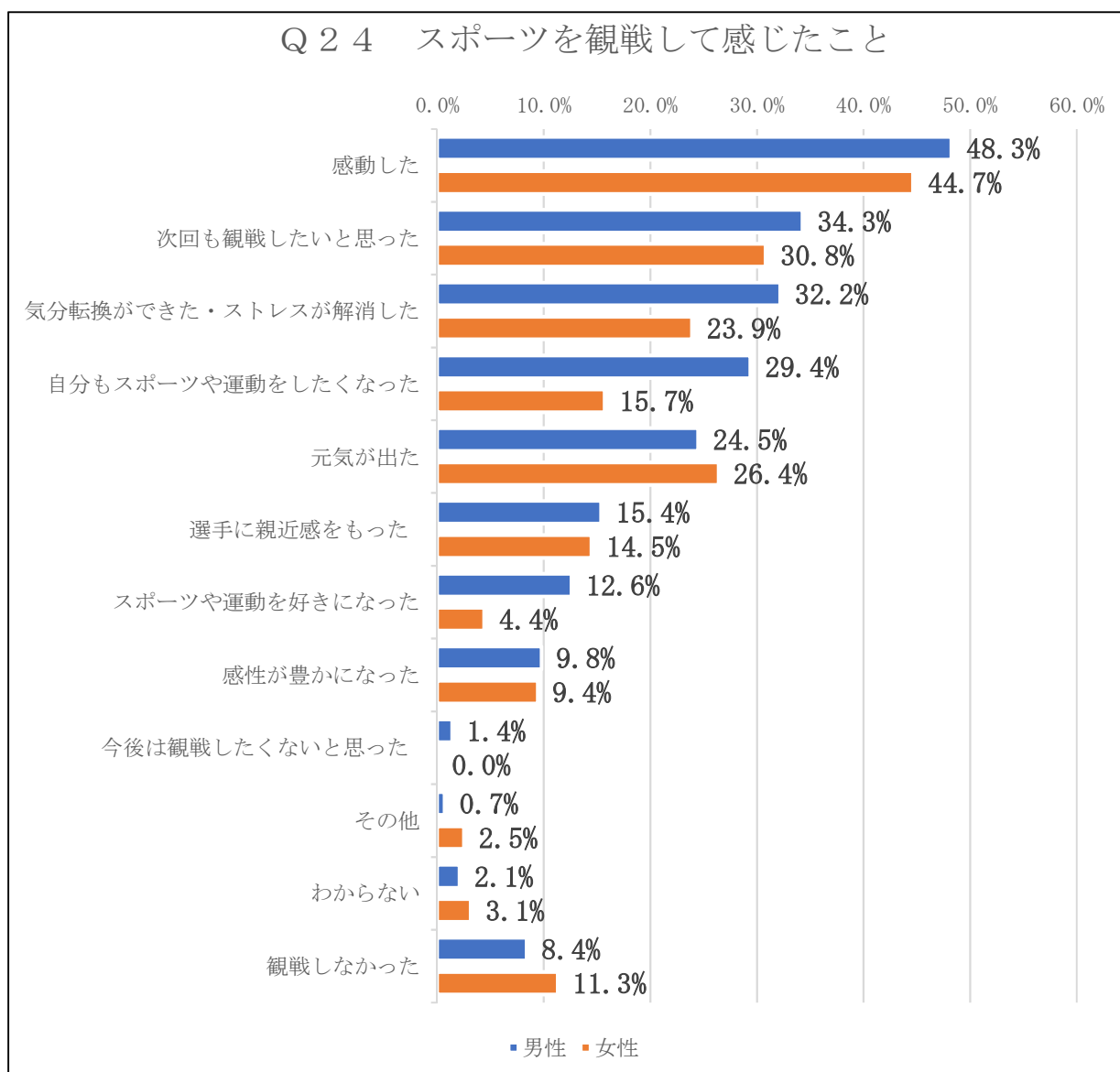
令和元年以前において実際にスポーツ観戦をしたことがあるか聞いたところ、男女ともに「野球」と回答した割合が最も高い一方で、「観戦しなかった」と回答した割合が2番目に多い結果となった。

Q23 テレビ・ラジオ、インターネット配信等で
スポーツを観戦したことがあるか



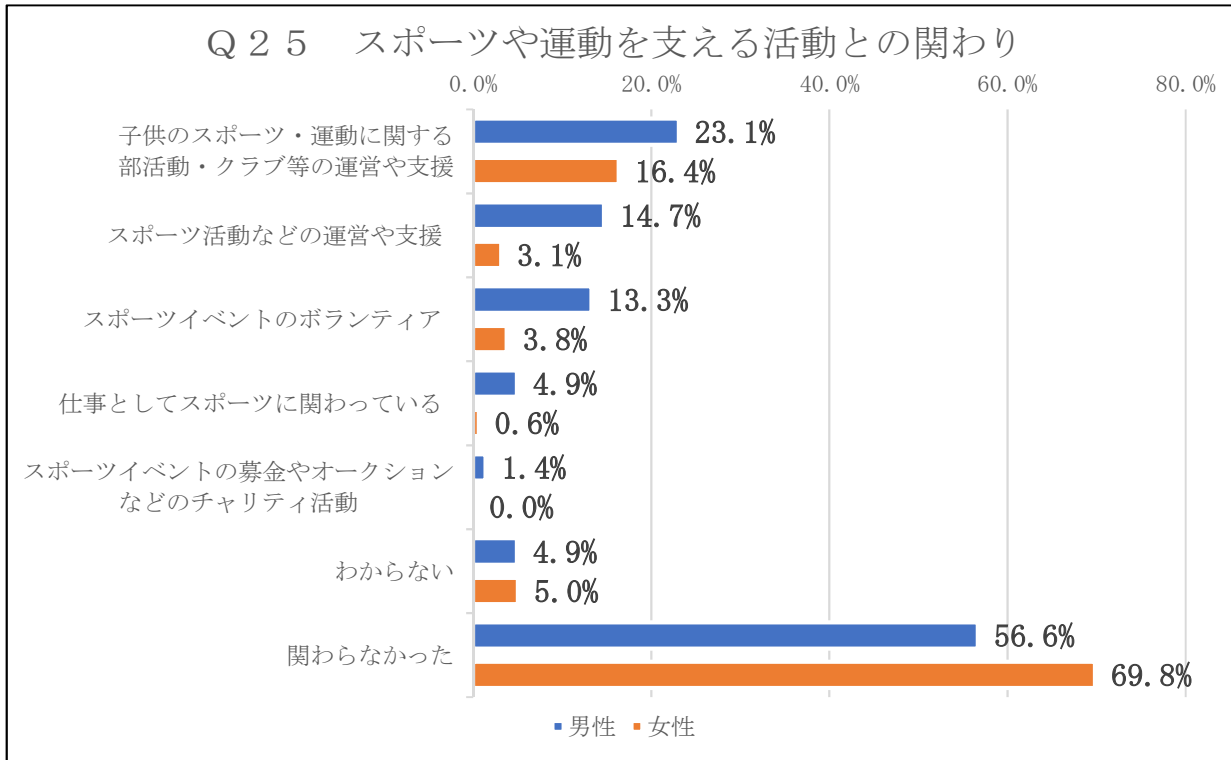
テレビ・ラジオ、インターネット配信等でスポーツ観戦したことがあるか聞いたところ、問22と同様に男女とも「野球」と回答した人の割合が最も高く、「観戦しなかった」と回答した割合が男女ともに10%前後と、問22で実際に観戦しなかったと回答した割合と比較すると低い傾向にある。

(5) スポーツ観戦で感じたこと



スポーツ観戦で感じたことを聞いたところ、「感動した」と回答した人の割合が男性は48.3%、女性は44.7%と最も高く、次いで「次回も観戦したいと思った」、「気分転換ができた・ストレスが解消した」の順となっている。

(6) スポーツや運動を支える活動との関わり

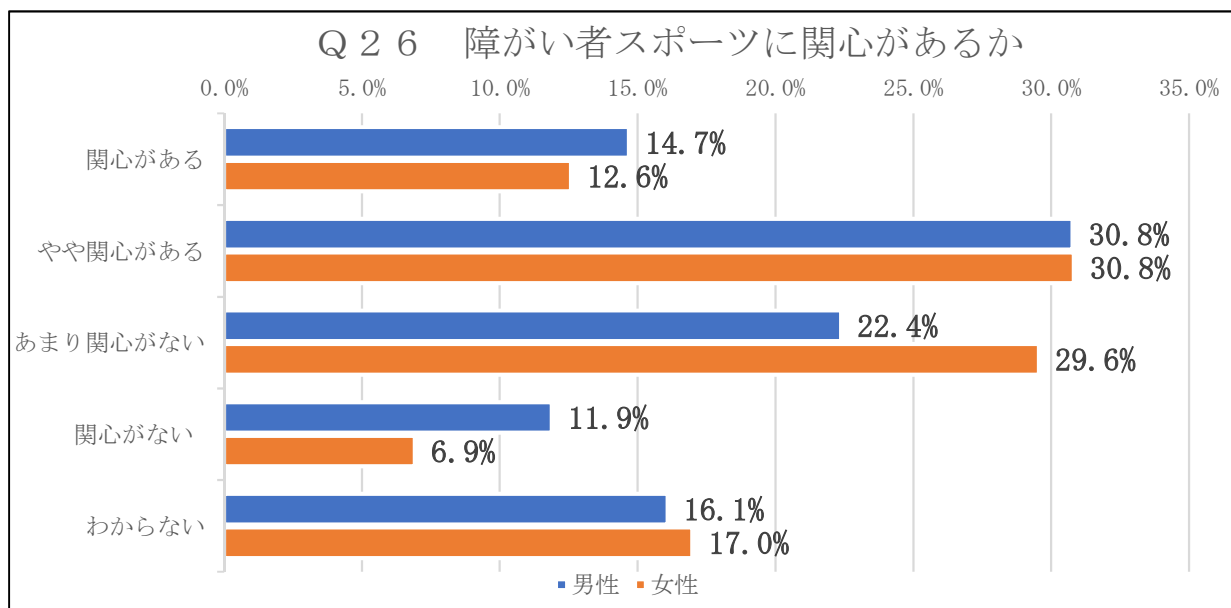


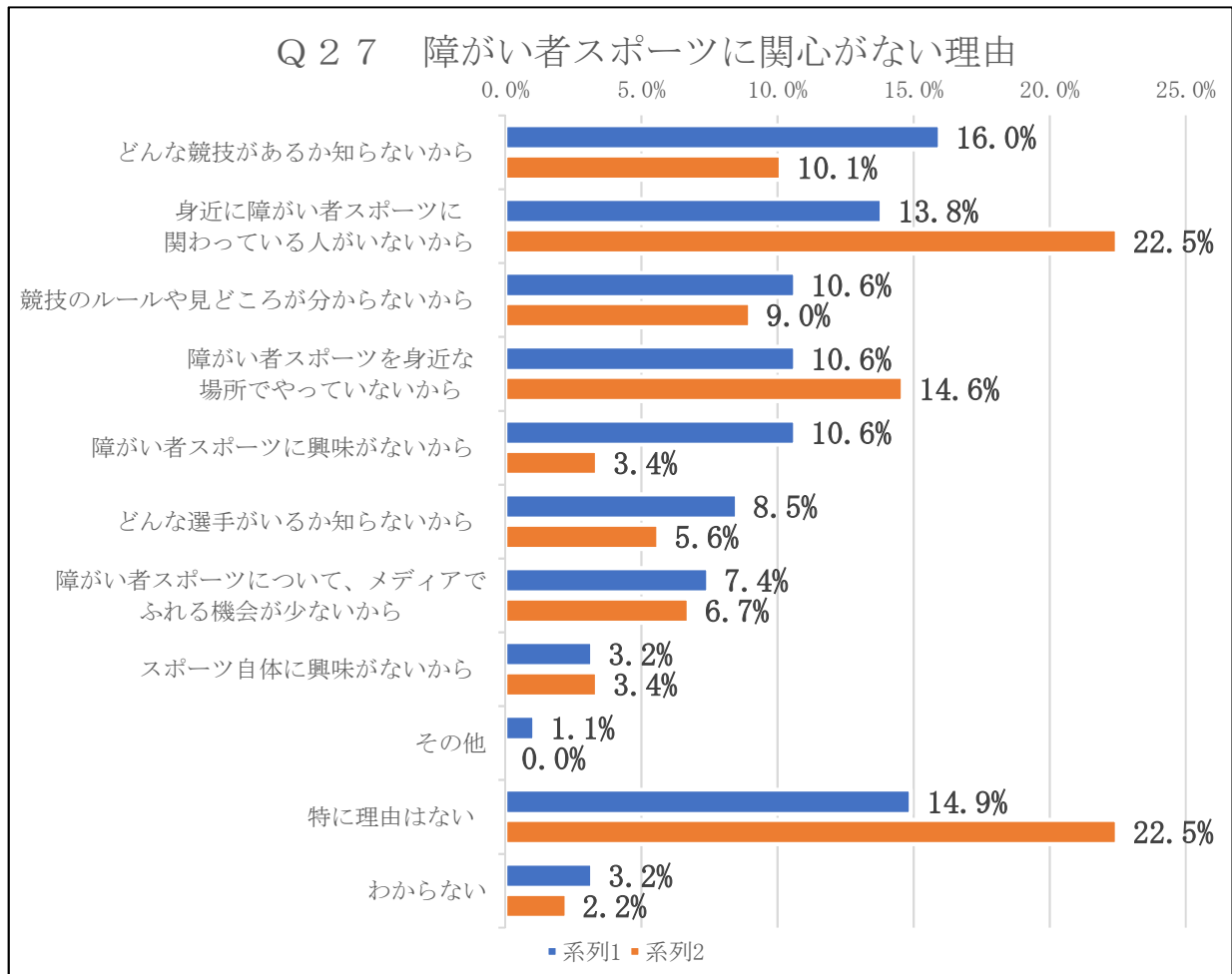
スポーツや運動を支える活動に関わったかを聞いたところ、男女ともに「関わらなかった」と回答した割合が半数を超え最も高い傾向にある。

男女ともに一番回答した割合が高いのは「子供のスポーツ・運動に関する部活動・クラブ等の運営や支援」である。

4. 障がい者スポーツについて

(1) 障がい者スポーツに関心があるか、また、関心が無い理由

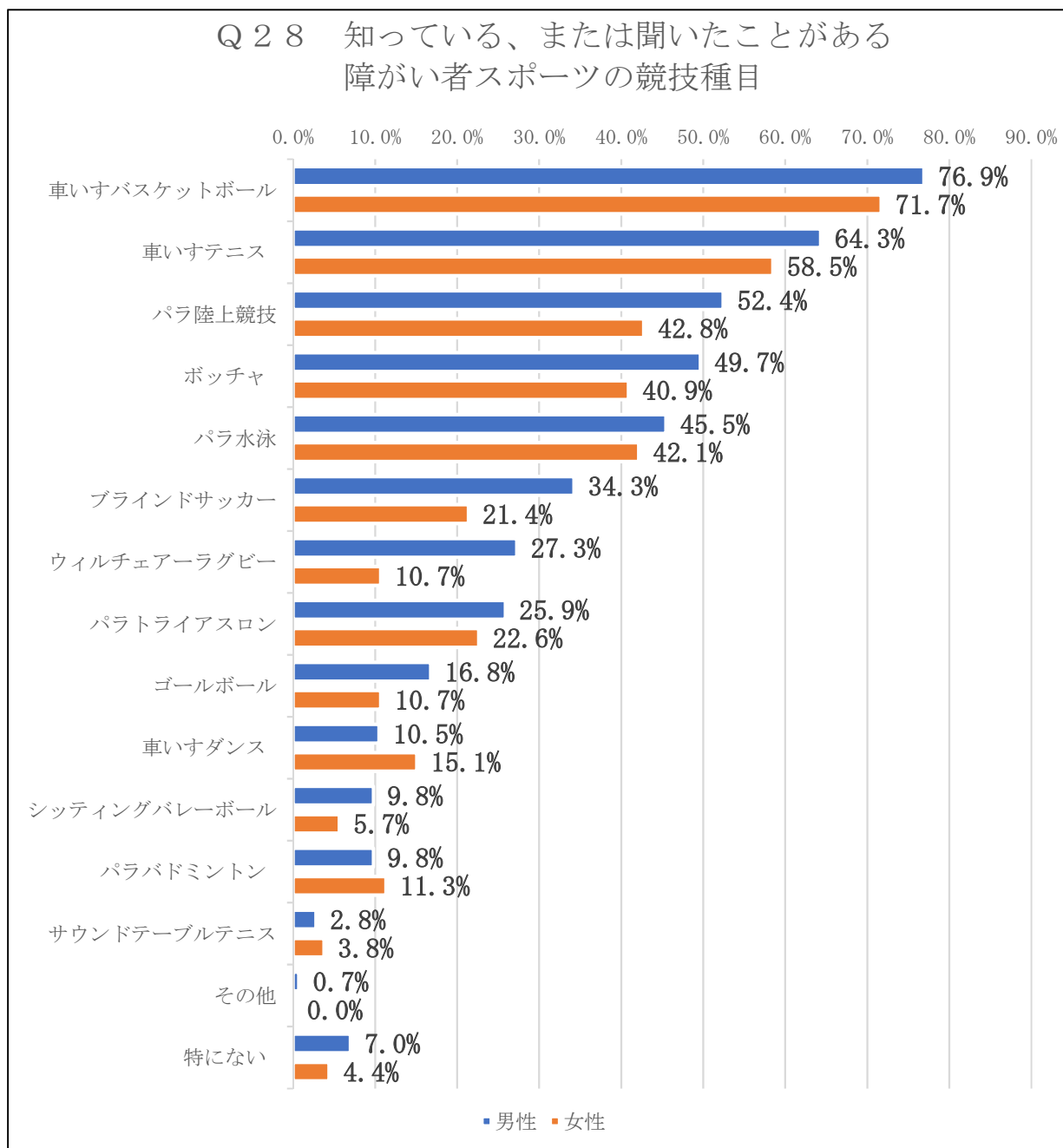




障がい者スポーツについて関心があるか聞いたところ、関心がある（「関心がある」＋「やや関心がある」）と答えた割合は、男性は45.5%、女性は43.4%と半数に満たない結果となった。

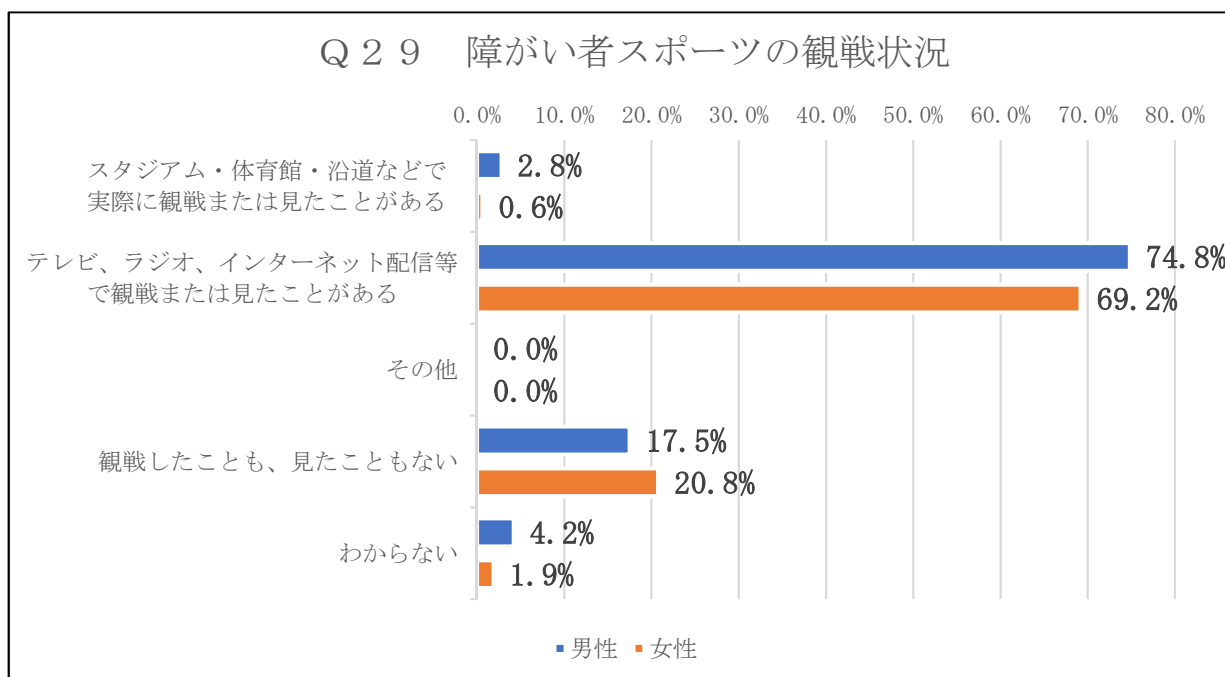
また、「あまり関心がない」「関心ない」と挙げた人に関心がない理由を聞いたところ、男性は「どんな競技があるか知らないから」と回答した割合が16.0%と最も高く、次いで「身近に障がい者スポーツに関わっている人がいないから」（13.8%）、「競技のルールや見どころが分からないから」「障がい者スポーツを身近な場所でやっていないから」「障がい者スポーツに興味が無いから」（10.6%）の順となっている。また、女性は「身近に障がい者スポーツに関わっている人がいないから」と回答した割合が22.5%と最も高く、次いで「障がい者スポーツを身近な場所でやっていないから」（14.6%）、「どんな競技があるか知らないから」（10.1%）、「競技のルールや見どころが分からないから」（9.0%）の順となっている。

(2)知っている、または聞いたことのある障がい者スポーツ競技



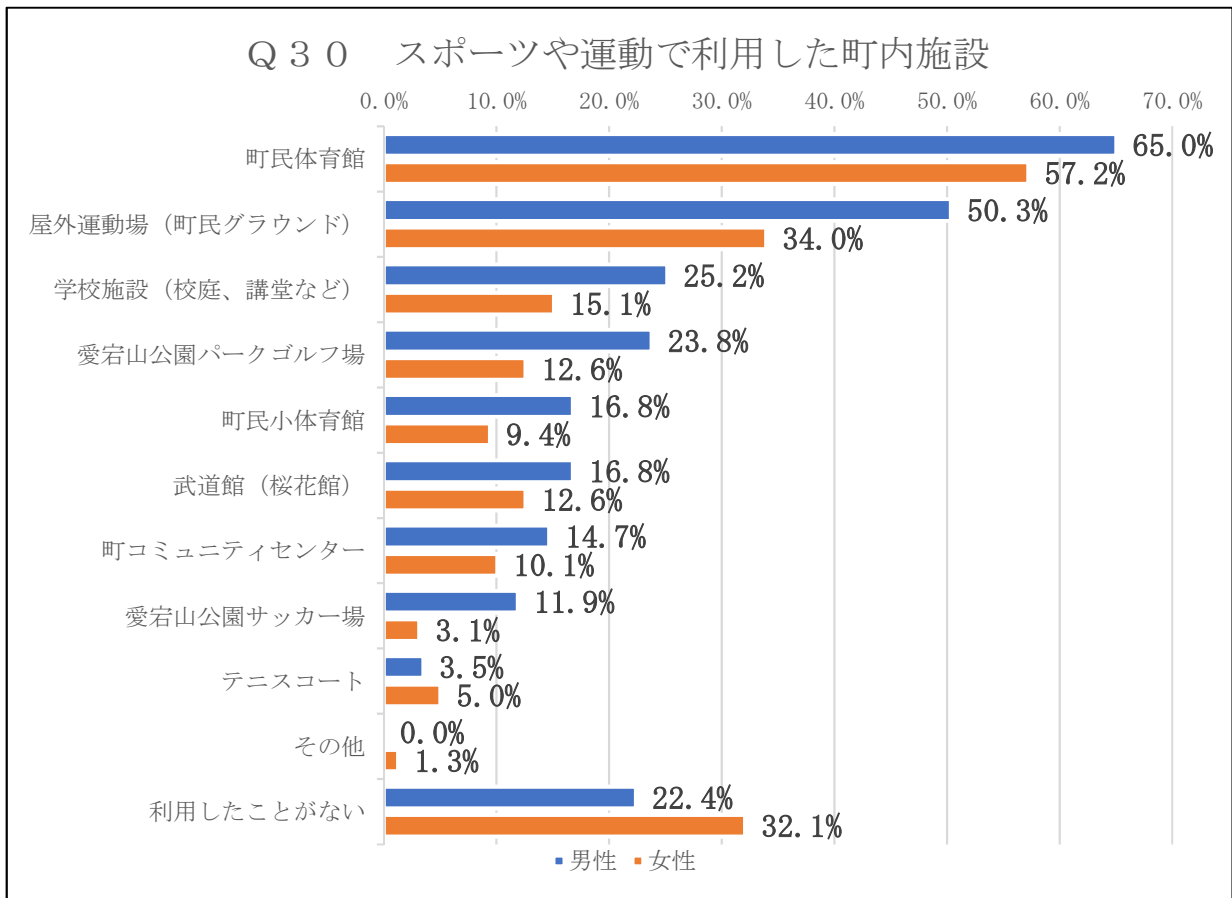
知っている、または聞いたことのある障がい者スポーツの競技種目について聞いたところ、男女ともに「車いすバスケットボール」が最も高く、次いで「車いすテニス」、「パラ陸上競技」の順となっている。

(3) 障がい者スポーツの観戦状況



障がい者スポーツを観戦または見たことがあるかを聞いたところ、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦または見たことがある」と答えた人の割合が男女ともに最も高い結果となった。

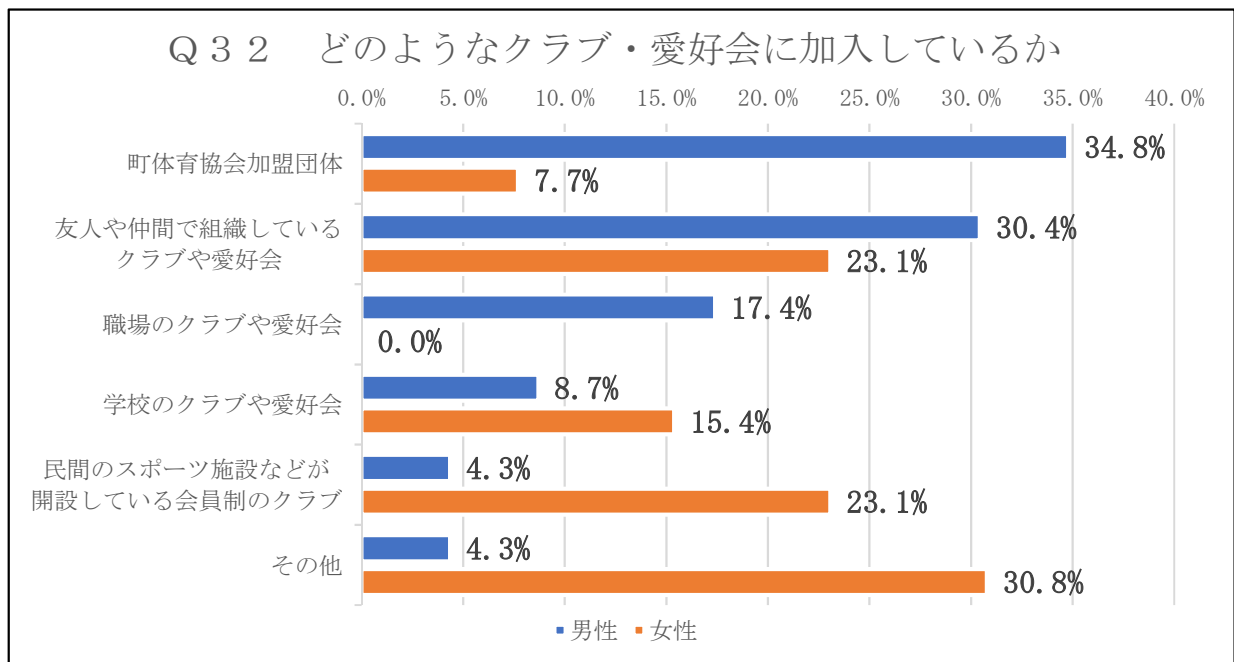
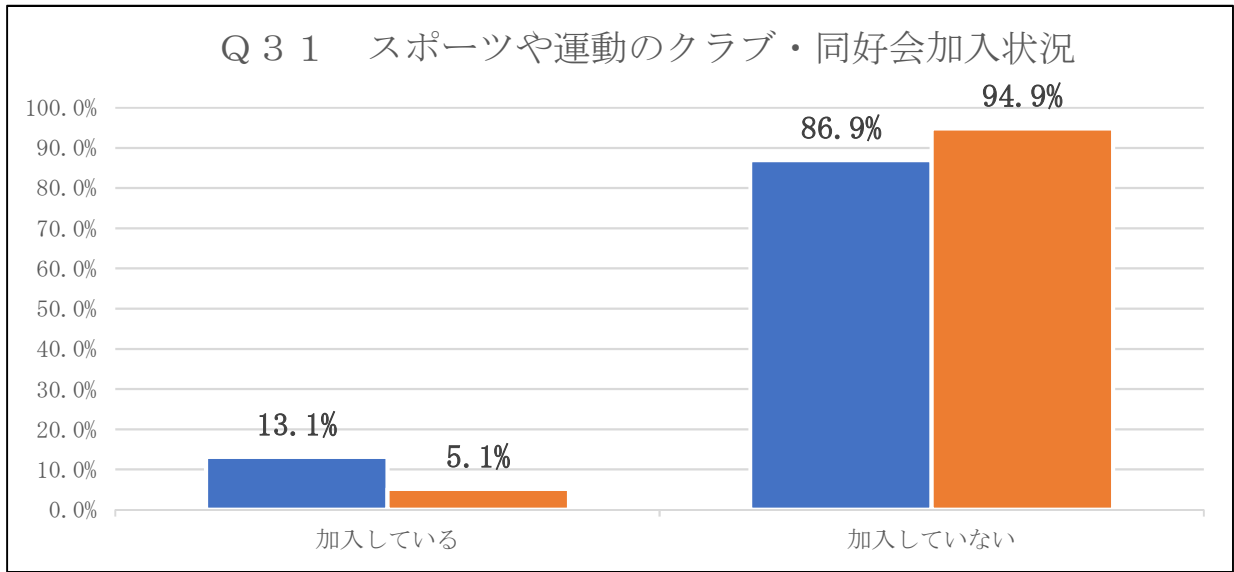
5. 色麻町のスポーツや運動を取り巻く環境について
 (1) 町内施設の利用状況



スポーツや運動で利用した町内の施設を聞いたところ、「町民体育館」を挙げた人の割合が61.9%と最も高く、次いで、「屋外運動場」(43%)、「利用したことがない」(25.2%)、「学校施設」(21.5%)の順となっている。

男女別にみると、男性は「町民体育館」を挙げた人の割合が65.0%と最も高く、次いで「屋外運動場」(50.3%)、「学校施設」(25.2%)、「愛宕山公園パークゴルフ場」(23.8%)、「利用したことがない」(22.4%)の順となっている。女性は「町民体育館」を挙げた人の割合が57.2%と最も高く、次いで「屋外運動場」(34.0%)、「利用したことがない」(32.1%)、「学校施設」(14.5%)、「武道館」・「愛宕山公園パークゴルフ場」(12.6%)の順となっている。

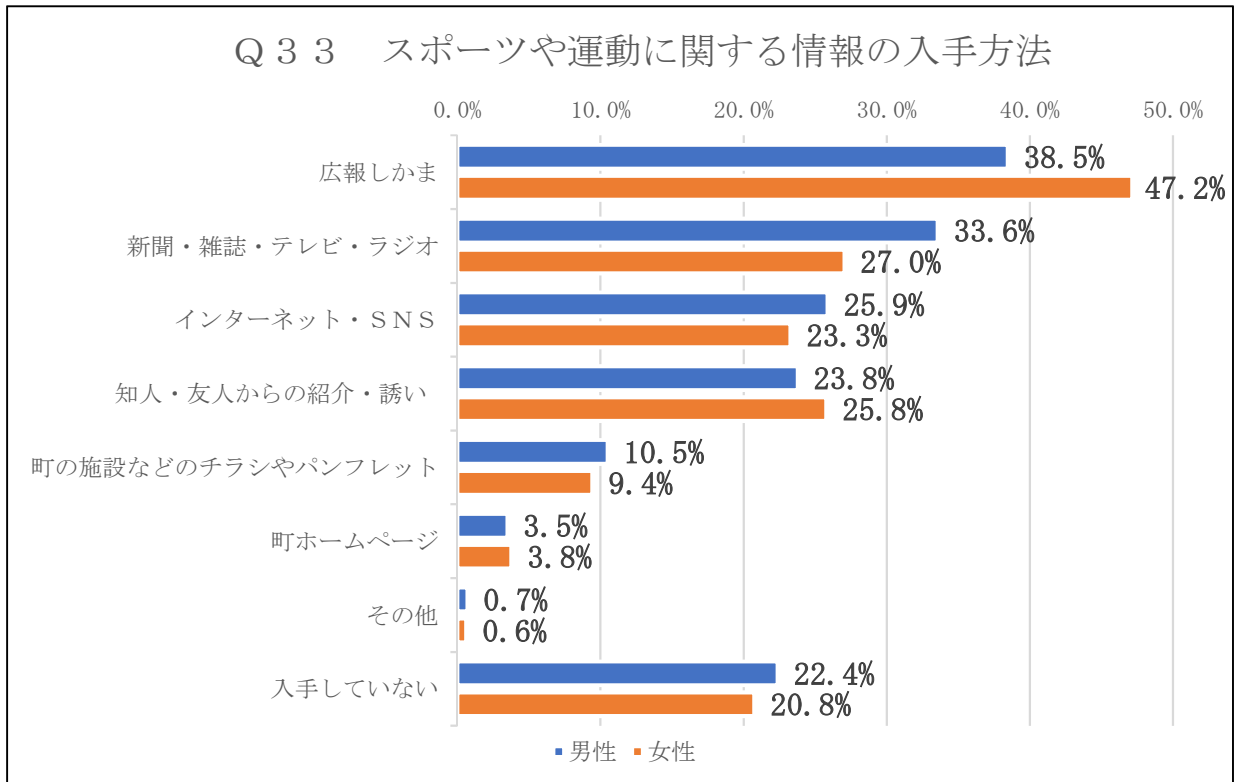
(2) スポーツや運動のクラブ・同好会加入状況



スポーツや運動のクラブ・同好会に加入しているか聞いたところ、「加入していない」と答えた人の割合が男女ともに80%を超えて高い傾向にある。

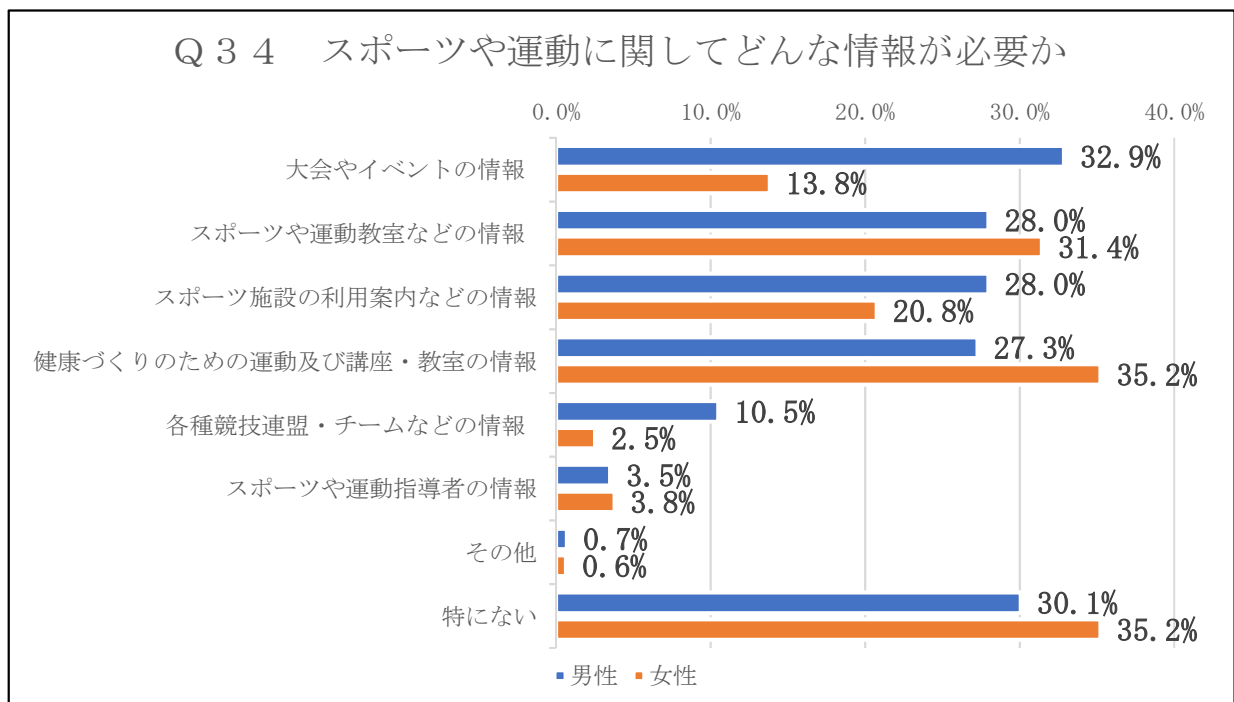
また、「加入している」と回答した人のうちどのようなクラブ・愛好会に加入しているか聞いたところ、男性は「町体育協会加盟団体」と答えた人の割合が34.8%と最も高く、女性は「その他」と回答した割合が30.8%と最も高い結果となった。

(2) スポーツや運動に関する情報の入手方法



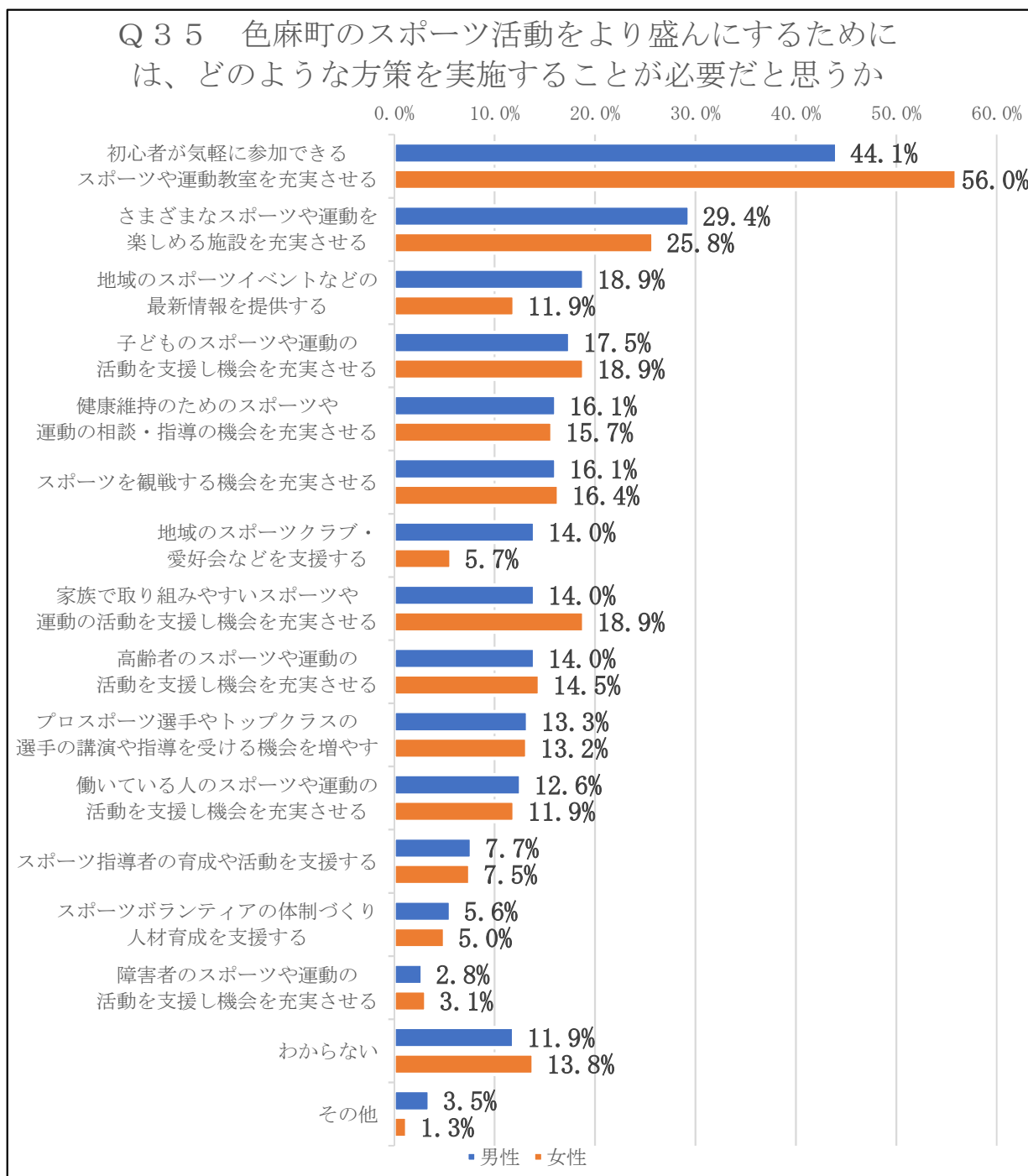
スポーツや運動に関する情報をどこで入手しているか聞いたところ、「広報しかま」を挙げた人の割合が男女ともに最も高い結果となった。

(3) スポーツや運動に関してどのような情報が必要か



スポーツや運動に関してどのような情報が必要か聞いたところ、男性は「大会やイベントの情報」を挙げた割合が32.2%と最も高い一方で、女性は必要であるという項目を選択した中で「健康づくりのための運動及び講座・教室の情報」が32.7%と最も高い。

(4) 色麻町のスポーツ活動をより盛んにするための方策



色麻町のスポーツ活動をより盛んにするためには、どのような方策を実施することが必要だと思うかをきいたところ、「初心者が気軽に参加できるスポーツや運動教室を充実させる」を挙げた人の割合が男女ともに最も高い結果となった。

第3次色麻町
スポーツ推進計画
(令和5年度～令和9年度)

発行 令和5年3月

編集 色麻町教育委員会 社会教育課
